

取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。

取扱説明書は車の中に保管しましょう。

イラスト目次　イラストから検索

1 安全・安心のために　お客様に必ずお読みいただきたいこと
2 メーターの見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4 運転　運転に必要な操作やアドバイス
5 室内装備・機能　室内装備の使い方など
6 お手入れのしかた　車のお手入れ・メンテナンスの方法
7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処
8 車両情報　車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
症状から検索
音から検索
アルファベットで検索
五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 30
お子さまの安全のために 37
子供専用シート 38
チャイルドシートの取り付け 45
排気ガスに対する注意 51

1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 52
ハイブリッドシステムの注意 56

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 61

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 64
計器類 68
マルチインフォメーションディスプレイ 72
エネルギーモニター／燃費画面／ ESPO 画面 77

3 各部の操作

3-1. キー
キー 84

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 88
トランク 95
スマートエントリー＆スタートシステム 99

3-3. シートの調整
フロントシート 106
リヤシート 108
ヘッドレスト 110

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 112
インナーミラー 114
ドアミラー 115

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開閉
パワーウインドウ 118
ムーンルーフ 121

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 126
荷物を積むときの注意 134

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 135
EV ドライブモード 141
トランスミッション 143
方向指示レバー 146
パーキングブレーキ 147

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 148
フォグランプスイッチ 151
ワイパー & ウォッシャー 153

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 156

4-5. 運転支援装置について

クルーズコントロール 159
運転を補助する装置 163

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 169
寒冷時の運転 171

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 176

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 184
・インテリアランプ 184
・パーソナルランプ 185
・リヤシートセンターアームレストランプ 185

5-3. 収納装備

収納装備一覧 186
・グローブボックス 187
・コンソールボックス 187
・ボトルホルダー 188
・カップホルダー 189
・小物入れ 190
トランク内装備 191

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 193
・サンバイザー 193
・バニティミラー 193
・時計 194
・アクセサリーソケット 194
・ステアリングスイッチ 195
・おくだけ充電（ワイヤレス充電器） 196
・リヤアームレスト 202
・アシストグリップ 202
・コートフック 203

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....206
内装の手入れ.....210

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....213
ガレージジャッキ.....216
ウォッシャー液の補充.....217
タイヤについて.....218
タイヤ空気圧について.....226
エアコンフィルターの交換.....228
電子キーの電池交換.....230
ヒューズの点検・交換.....232
電球（バルブ）の交換.....236

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 250
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 251
発炎筒..... 252
車両を緊急停止するには..... 254

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 255
警告灯がついたときは..... 261
警告メッセージが表示されたときは..... 264
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 276
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 286
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 300
シフトレバーがシフトできないときは..... 302
電子キーが正常に働かないときは..... 304
補機バッテリーがあがったときは..... 306
オーバーヒートしたときは..... 311
スタックしたときは..... 315

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....318
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....323

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 330
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 333
アルファベット順さくいん..... 335
五十音順さくいん 336

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- ITS スポット対応 DSRC システム
- ハンズフリー
- T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- 国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・電気モーター回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション
・駆動用電池の状態

オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

ダイハツはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● T-Connect * によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

*：“T-Connect”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

ハイブリッドシステムについて

アルティスは電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。

アルティスを安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

本書の見方

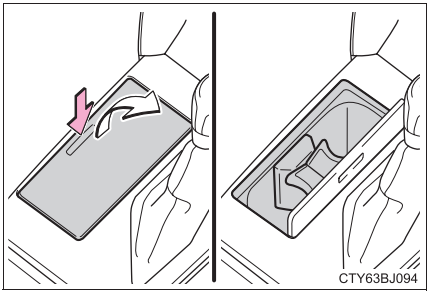
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

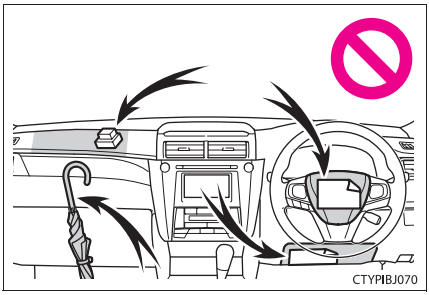
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

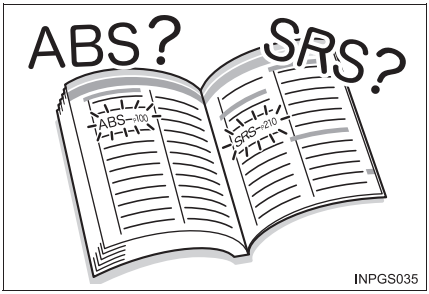


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

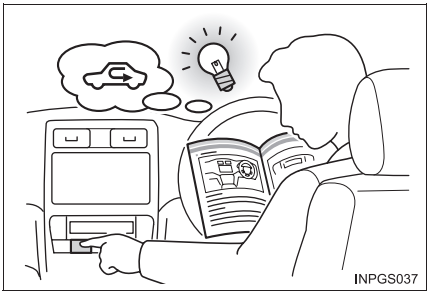
・五十音順さくいん.....336
・アルファベット順
さくいん.....335



INPGS035

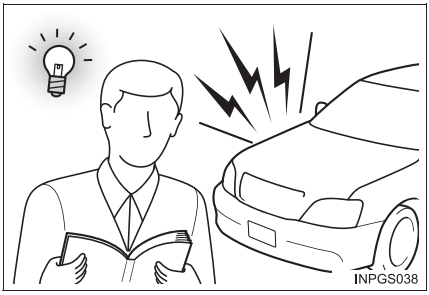
■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12


INPGS037

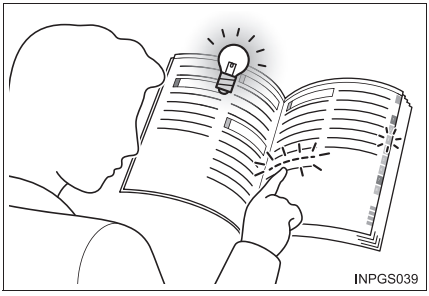
■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....330
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....333


INPGS038

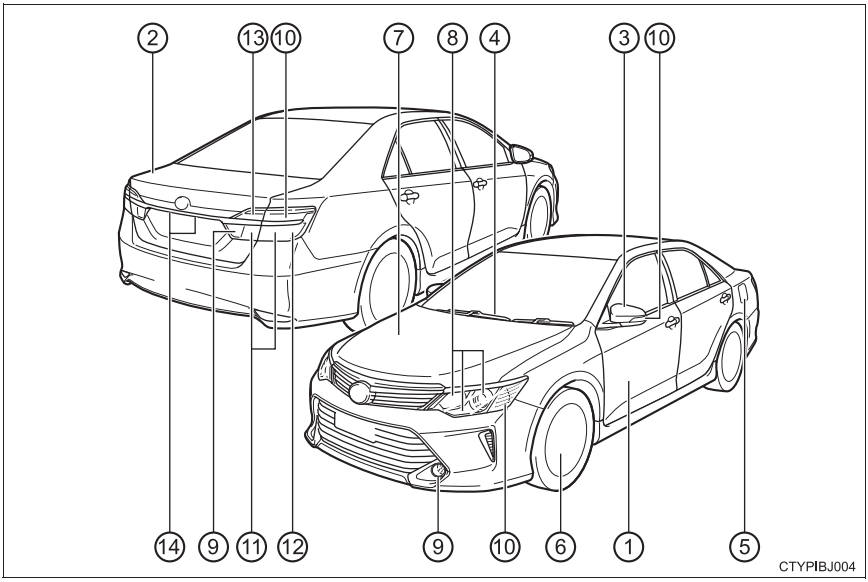
■ タイトルから探す

・目次.....2


INPGS039

イラスト目次

■外観



① **ドア . . . . . P. 88**
施錠／解錠 . . . . . P. 88, 90
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 118
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 304
警告メッセージ . . . . . P. 265
② **トランク . . . . . P. 95**
車内から開ける . . . . . P. 95
車外から開ける . . . . . P. 95
警告メッセージ . . . . . P. 265
③ **ドアミラー . . . . . P. 115**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 115
ミラーの格納 . . . . . P. 115
曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . P. 178

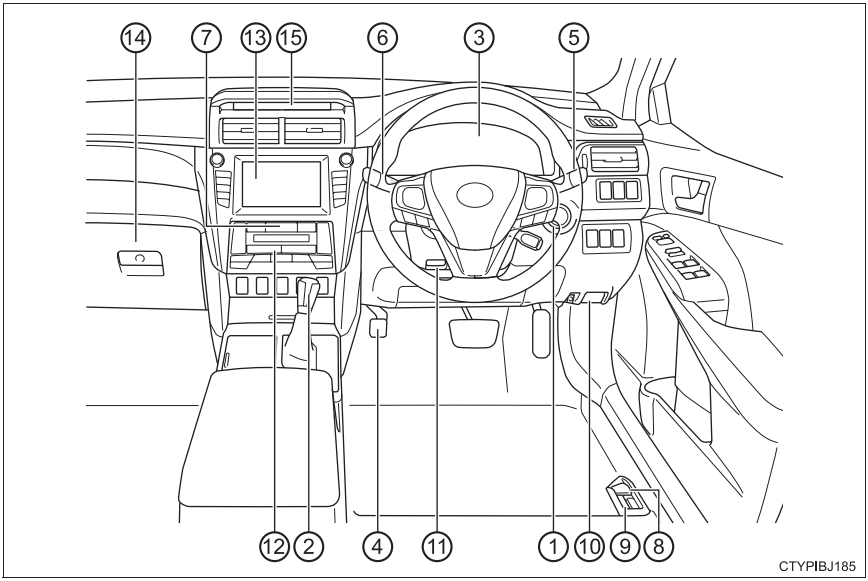
④ **ワイパー**.....**P. 153**
冬季の注意.....P. 171
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....P. 178
⑤ **給油口**.....**P. 156**
給油方法.....P. 156
燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 318
⑥ **タイヤ**.....**P. 218**
サイズ・空気圧.....P. 321
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 171
点検・ローテーション・空気圧警報システム.....P. 218
パンク時の対処.....P. 276, 286
⑦ **ボンネット**.....**P. 213**
開け方.....P. 213
エンジンオイル.....P. 318
オーバーヒート時の対処.....P. 311

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 236, ワット数：P. 322）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト**.....**P. 148**
⑨ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★**.....**P. 151**
⑩ **方向指示灯**.....**P. 146**
緊急ブレーキシグナル.....P. 164
⑪ **尾灯**.....**P. 148**
⑫ **制動灯**
⑬ **後退灯**
シフトポジションをＲにする.....P. 143
⑭ **番号灯**.....**P. 148**

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル

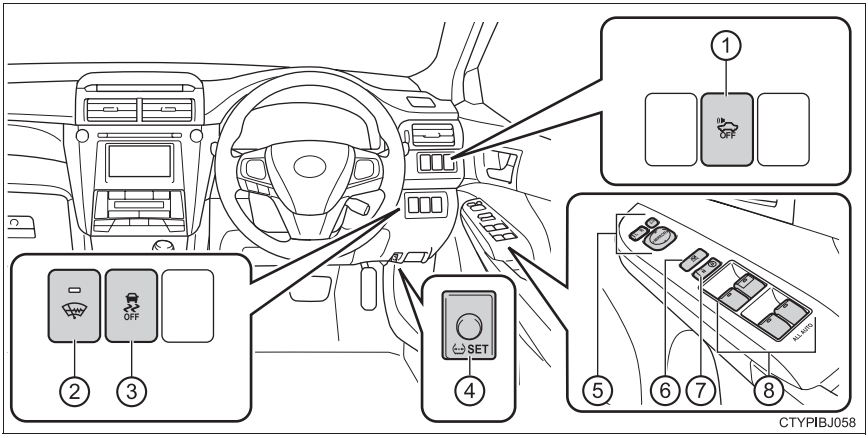


① **パワースイッチ . . . . . P. 135**
ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 135
ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 254
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 300
警告メッセージ . . . . . P. 264
② **シフトレバー . . . . . P. 143**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 143
けん引時の注意 . . . . . P. 255
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 302
③ **メーター . . . . . P. 68**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 69
警告灯／表示灯 . . . . . P. 64
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 261

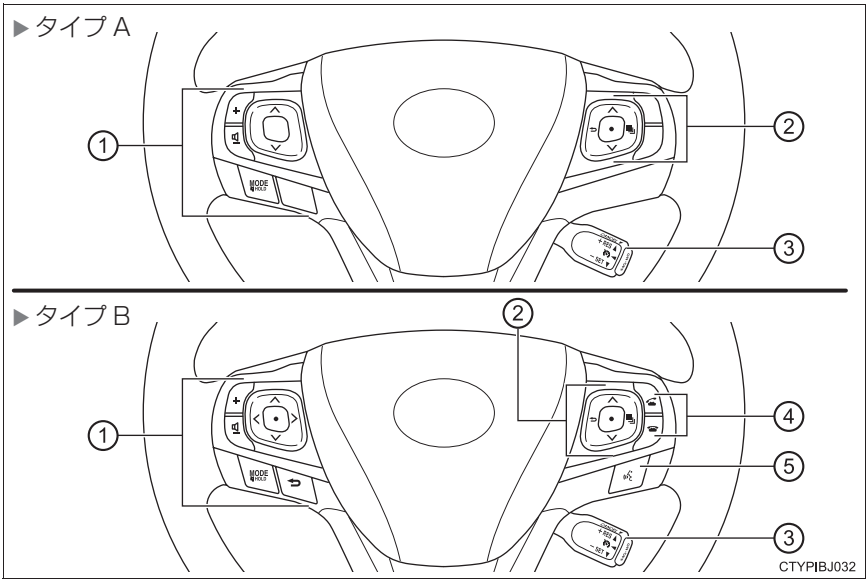
マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 72
表示内容 . . . . . P. 72
エネルギーモニター . . . . . P. 77
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 264
④ **パーキングブレーキ . . . . . P. 147**
かける・解除する . . . . . P. 147
冬季の注意 . . . . . P. 172
警告灯・警告ブザー・警告メッセージ . . . . . P. 261, 266
⑤ **方向指示レバー . . . . . P. 146**
ランプスイッチ . . . . . P. 148
ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・尾灯 . . . . . P. 148
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ . . . . . P. 151
⑥ **ワイパー&ウォッシャースイッチ . . . . . P. 153**
使い方 . . . . . P. 153
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 217
⑦ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 251**
⑧ **トランクオープナー . . . . . P. 95**
⑨ **給油口オープナー . . . . . P. 156**
⑩ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 213**
⑪ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 112**
⑫ **オートエアコン . . . . . P. 176**
操作方法 . . . . . P. 176
リヤウィンドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 178
フロントワイパーデアイサー★ . . . . . P. 178
⑬ **オーディオ★※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※
⑭ **グローブボックス . . . . . P. 187**
⑮ **時計 . . . . . P. 194**

★：オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類

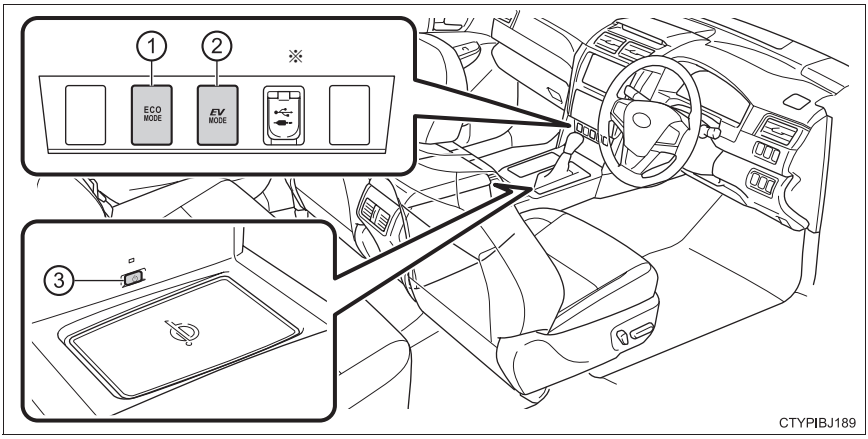


① 車両接近通報一時停止スイッチ . . . . . P. 53
② フロントワイパーデアイサースイッチ★. . . . . P. 178
③ VSC OFF スイッチ . . . . . P. 164, 165
④ タイヤ空気圧警報リセットスイッチ. . . . . P. 220
⑤ ドアミラースイッチ . . . . . P. 115
⑥ ウインドウロックスイッチ . . . . . P. 118
⑦ ドアロックスイッチ . . . . . P. 90
⑧ パワーウインドウスイッチ . . . . . P. 118



① **オーディオスイッチ※** . . . . . P. 195
② **メーター操作スイッチ** . . . . . P. 73
③ **クルーズコントロールスイッチ** . . . . . P. 159
④ **電話スイッチ★※**
⑤ **トークスイッチ★※**

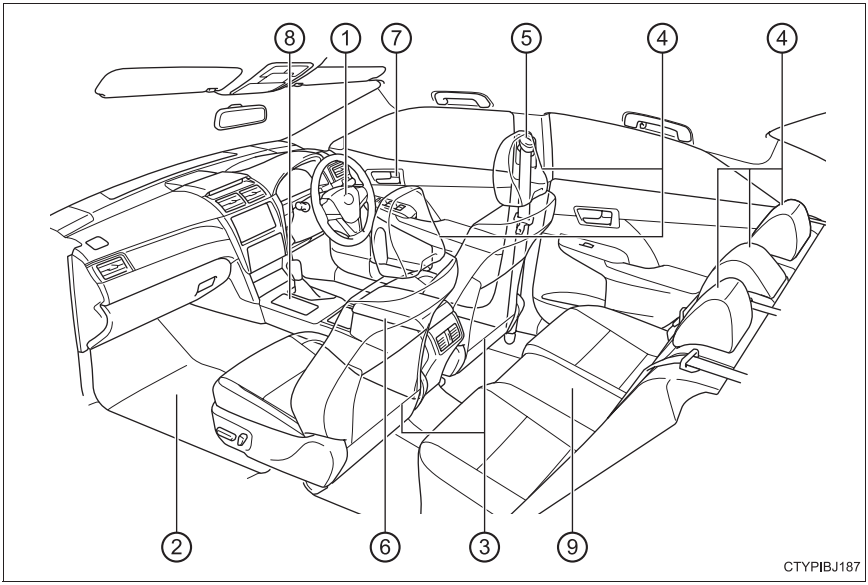
★：オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



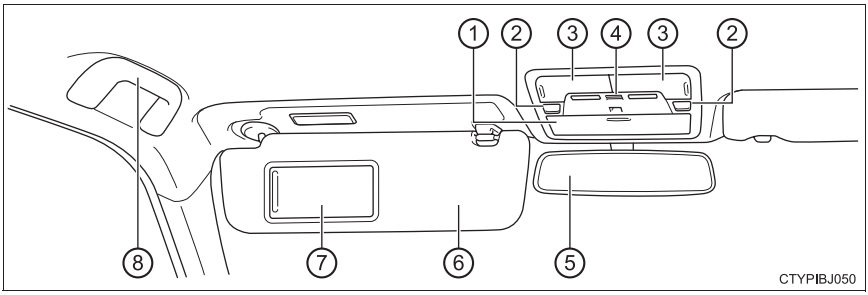
① エコドライブモードスイッチ . . . . . P. 144
② EV ドライブモードスイッチ . . . . . P. 141
③ おくだけ充電（ワイヤレス充電器）スイッチ★ . . . . . P. 196

★：オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 30
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 106
④ ヘッドレスト . . . . . P. 110
⑤ シートベルト . . . . . P. 26
⑥ コンソールボックス . . . . . P. 187
⑦ ドアロックレバー . . . . . P. 90
⑧ カップホルダー . . . . . P. 189
⑨ リヤシート . . . . . P. 108



① 小物入れ . . . . . P. 190
② ムーンルーフスイッチ★ . . . . . P. 121
③ インテリアランプ／パーソナルランプ . . . . . P. 184
④ マイク★※2
⑤ インナーミラー . . . . . P. 114
⑥ サンバイザー※1 . . . . . P. 193
⑦ バニティミラー . . . . . P. 193
⑧ アシストグリップ . . . . . P. 202

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P. 49）



※2：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために.....24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....30
お子さまの安全のために.....37
子供専用シート.....38
チャイルドシートの取り付け.....45
排気ガスに対する注意.....51
1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴.....52
ハイブリッドシステムの注意.....56
1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....61

運転する前に

点検整備

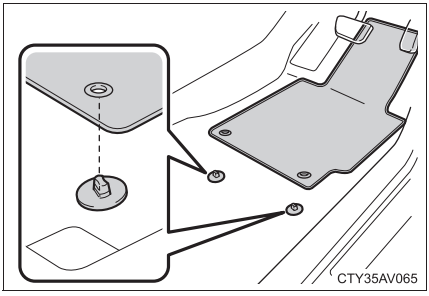
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場で必ず点検整備を受けてください。

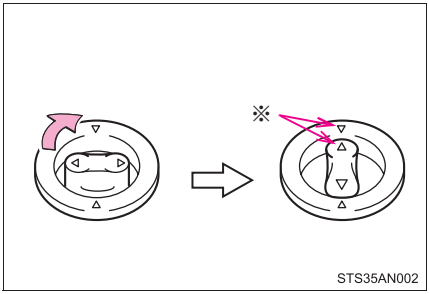
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する
※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

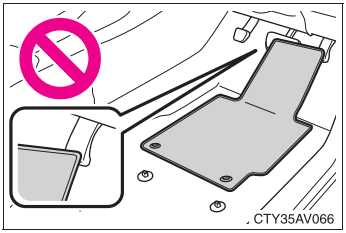
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

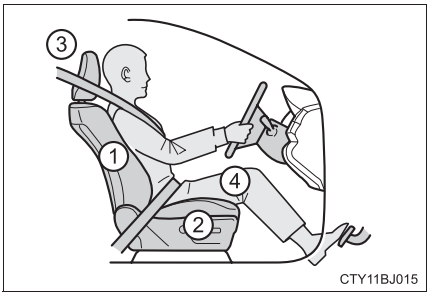
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 106）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 106）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 110）

④ シートベルトを正しく着用する（→P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 38）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P. 114, 115）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

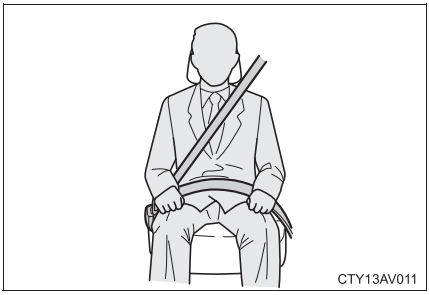
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

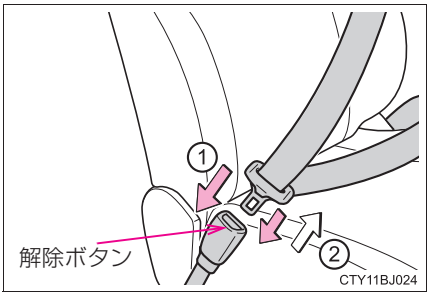
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

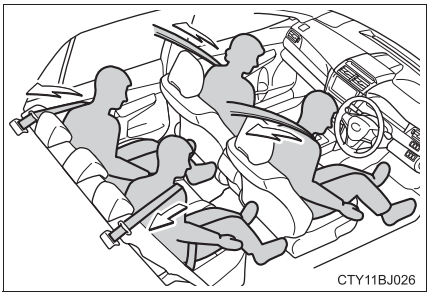
② アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。



フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

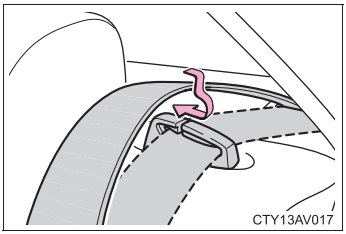
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 38）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■リヤ席シートベルトについて

シートベルトがガイドからはずれた場合には、ガイドに通してから使用してください。



⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

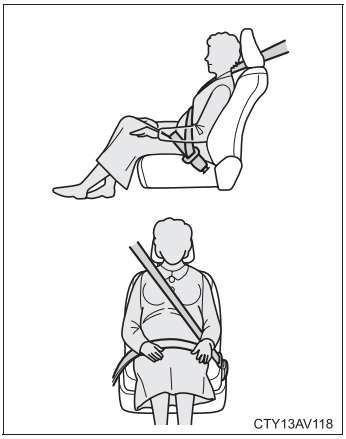
■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- ●リヤシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイドに通っていることを確認する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

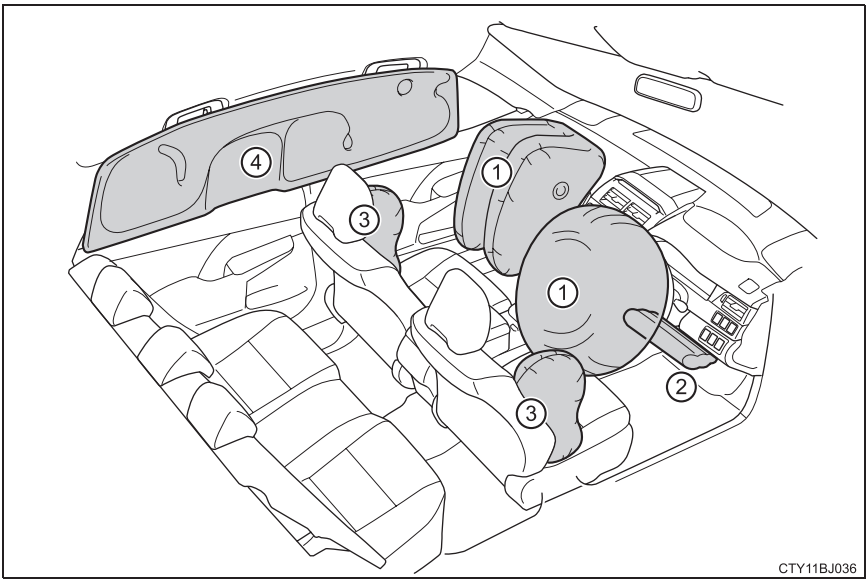
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

③ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

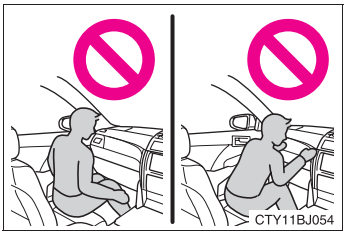
④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

⚠ 警告

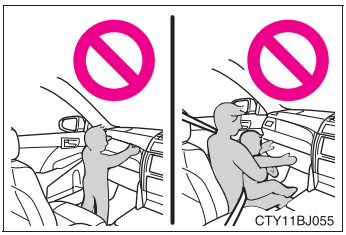
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 38）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



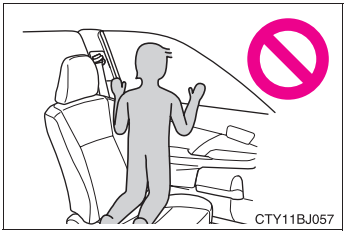
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



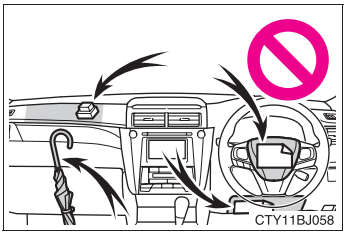
⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

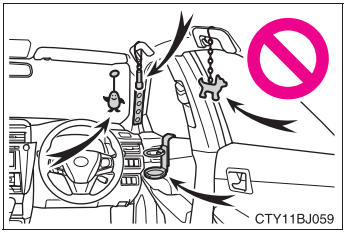
●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 292）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。

■改造・廃棄について

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - ・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - ・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

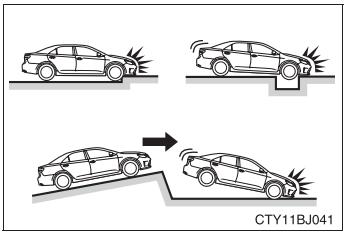
■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

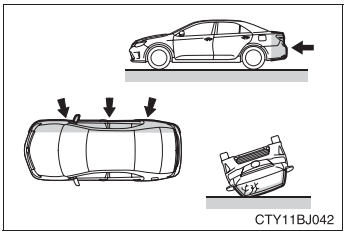
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


CTY11BJ041

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

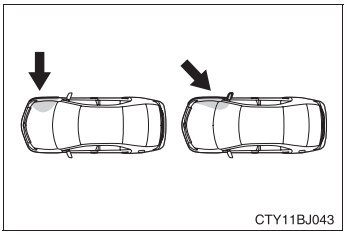
- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転


CTY11BJ042

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

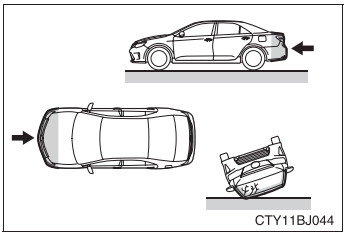
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- ●客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃


CTY11BJ043

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ●前方からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

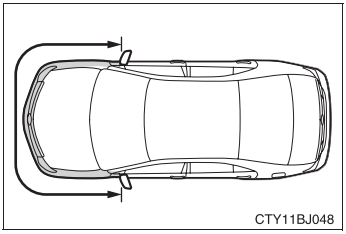

CTY11BJ044

■ダイハツサービス工場に連絡が必要な場合

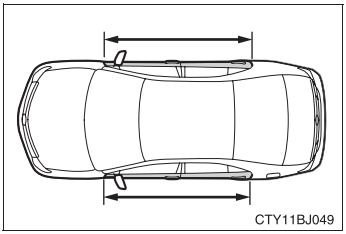
次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早くダイハツサービス工場へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

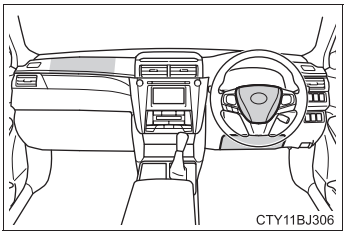
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


CTY11BJ048

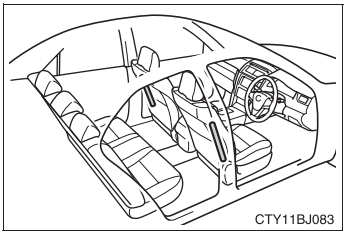
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


CTY11BJ049

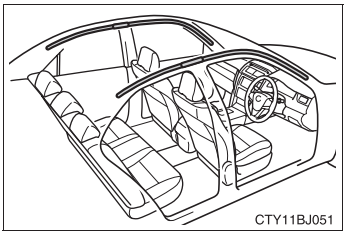
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTY11BJ306

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているフロントシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTY11BJ083

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTY11BJ051

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 38）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 91）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 118）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。（→ P. 45）

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kgまで
グループ0＋：13kgまで
グループⅠ：9～18kg
グループⅡ：15～25kg
グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

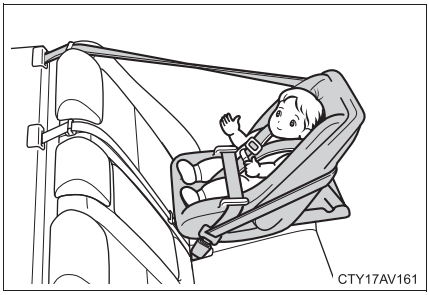
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

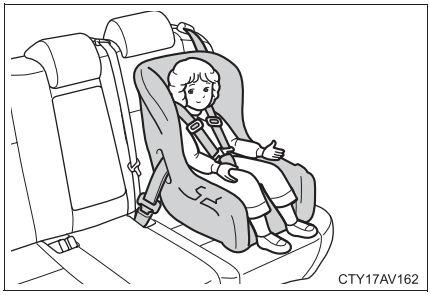
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当



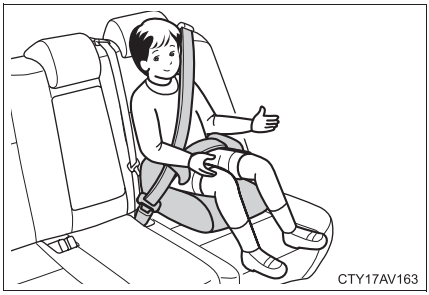
▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0 ＋、Ⅰに相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10 kg まで）	×	U	U
0^+（13 kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18 kg）	前向き UF	U	U
	うしろ向き ×	U	U
Ⅱ（15 ～ 25 kg）	UF	U	U
Ⅲ（22 ～ 36 kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。
子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A　から　G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：　この質量グループでの使用を許可された「ダイハツ純正 ISOFIX ベビーシート（ユニバーサル）」に適しています。

×：　ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 40）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 41）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 $^{+}$」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 $^{+}$」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 41）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

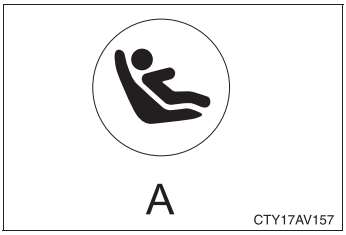
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

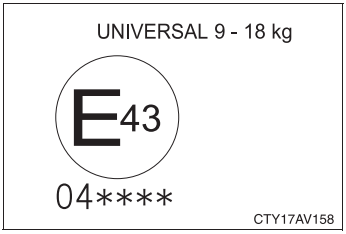
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順2で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



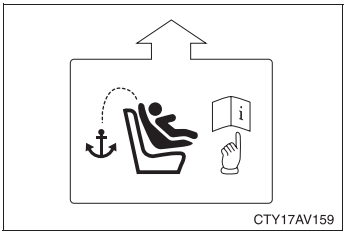
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→ P. 45）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

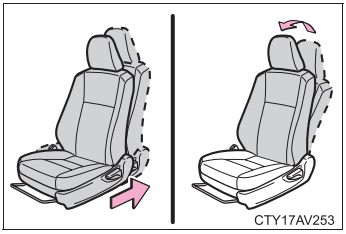
A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●シートをいちばんうしろに下げる

●背もたれを直立状態にする



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

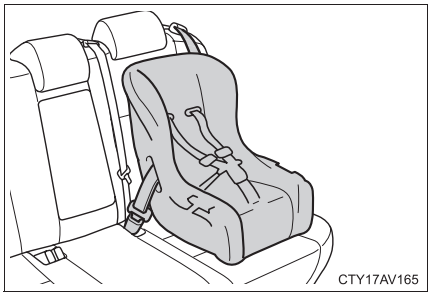
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

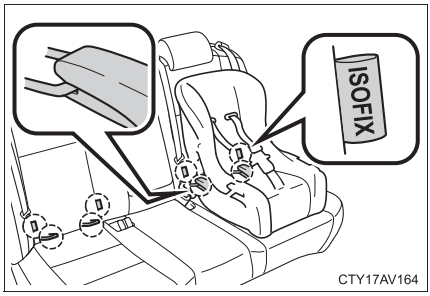
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 46）



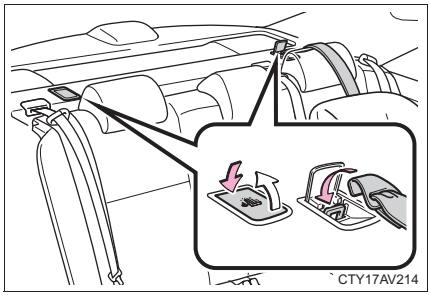
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 46）

リヤ外側シートに装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



トップテザーアンカー（→ P. 47）

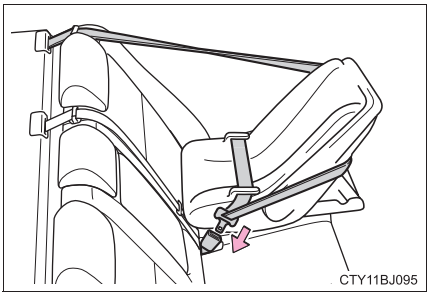
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイトリムに装備されています。



シートベルトで固定する

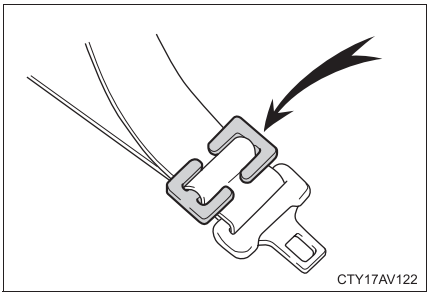
1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

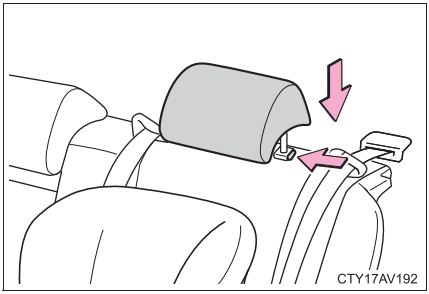
ロッキングクリップの購入にあたっては、ダイハツサービス工場にご相談ください。



取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

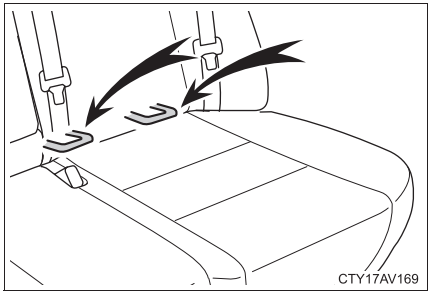
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストを下げる



2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



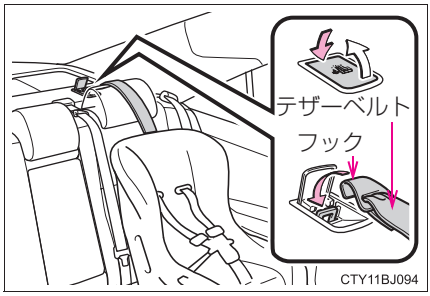
3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

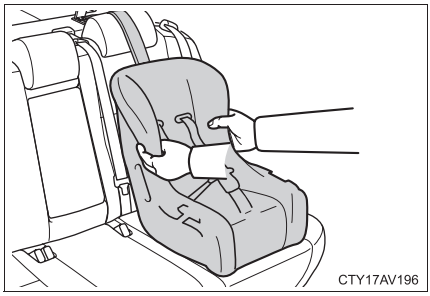


4 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



⚠ 警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

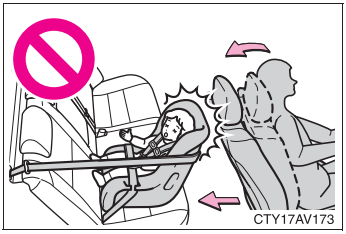
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

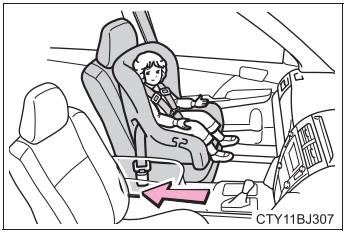


●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
  助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

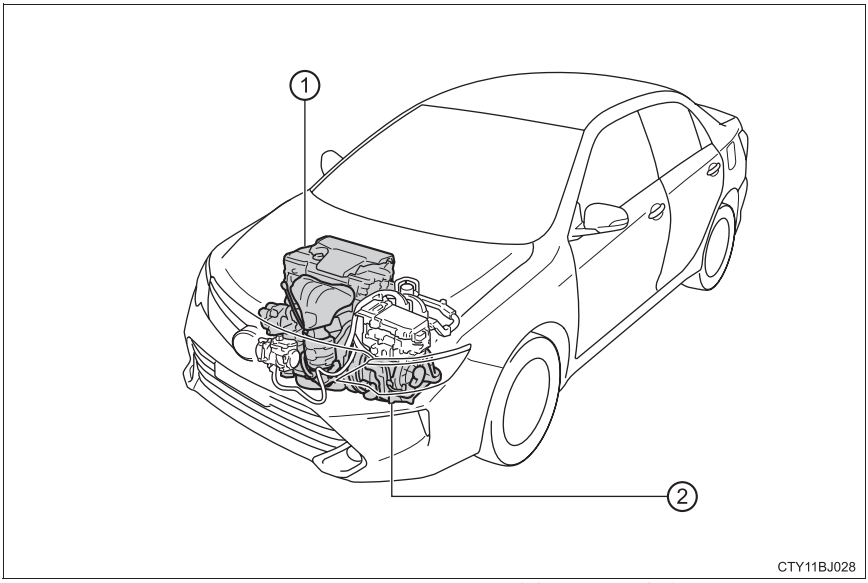
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。
シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 54）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

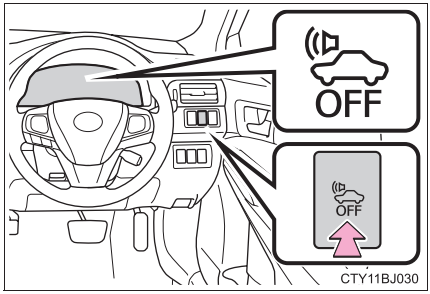
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READY インジケーターが点灯している状態で、スイッチを押す

車両接近通報 OFF 表示灯が点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



知識

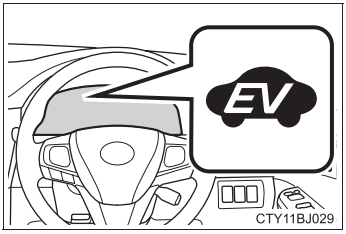
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV 走行インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV 走行インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはダイハツサービス工場にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 308

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- トランクを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート横（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音
  エコドライブモード時は、通常走行時に比べ、ファンの音が大きくなることがあります。

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

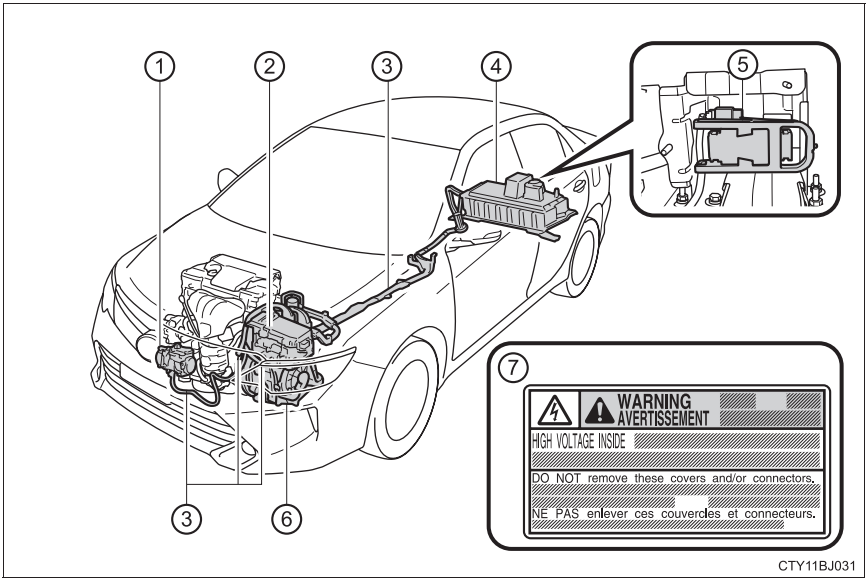
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。特に廃車する場合は、ダイハツサービス工場を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

EV 走行インジケーターを点灯しないように変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 323）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

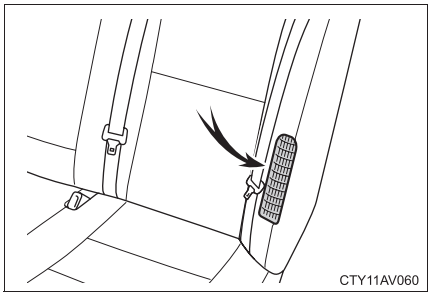


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① エアコンコンプレッサー
② パワーコントロールユニット
③ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
④ 駆動用電池
⑤ サービスプラグ
⑥ 電気モーター
⑦ ラベル

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート横（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。



緊急停止システム

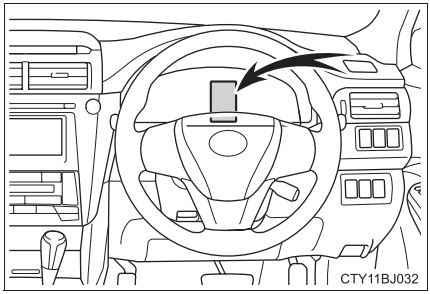
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためダイハツサービス工場へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 264）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 262）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約11.4L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

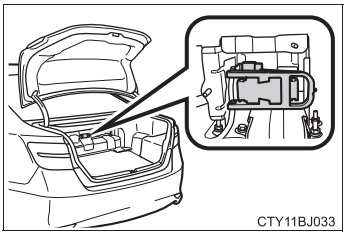
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠ 警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、ダイハツサービス工場での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。


CTY11BJ033

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 255）

⚠ 警告

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、ダイハツサービス工場に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、ダイハツサービス工場を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、ダイハツサービス工場で駆動用電池を廃棄してください。
駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

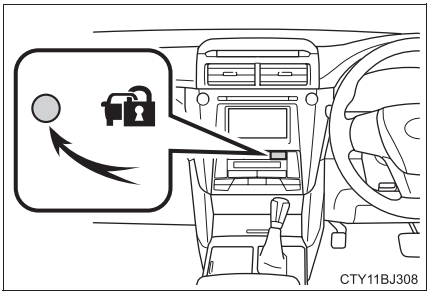
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。（→P. 102）

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

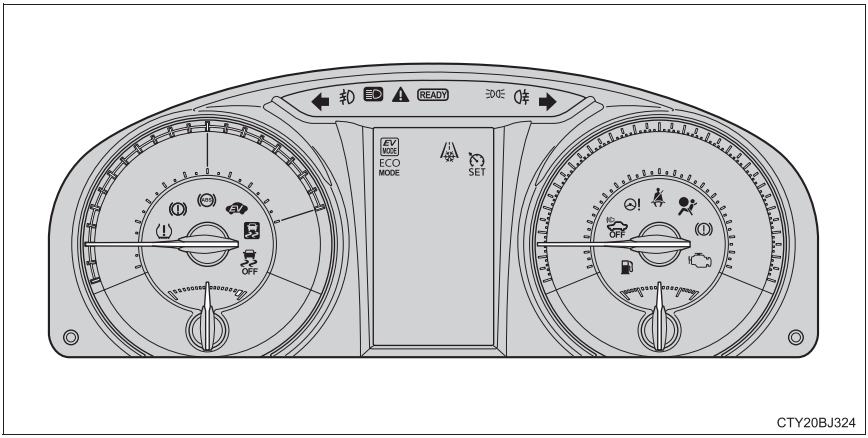
システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方 2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....64
計器類.....68
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....72
エネルギーモニター／
燃費画面／ ESPO 画面.....77

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



CTY20BJ324

警告灯

システム異常などを警告します。

※ 
ブレーキ警告灯
（→ P. 261）
（赤色）

※ 
スリップ表示灯
（→ P. 262）

※ 
電子制御ブレーキ警告灯
（→ P. 261）
（黄色）


燃料残量警告灯
（→ P. 262）

※ 
エンジン警告灯
（→ P. 261）


シートベルト非着用警告灯
（→ P. 262）

※ 
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯
（→ P. 261）

※ 
マスターウォーニング
（→ P. 262）

※ 
ABS &ブレーキアシスト警告灯（→ P. 261）

※ 
タイヤ空気圧警告灯
（→ P. 262）

※ 
パワーステアリング警告灯
（→ P. 261）

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。


方向指示表示灯
（→ P. 146）


尾灯表示灯（→ P. 148）


ハイビーム表示灯
（→ P. 148）


フロントフォグランプ
表示灯（→ P. 151）


リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 151）



READY インジケーター
（→ P. 135）

※3

クルーズコントロール
表示灯（→ P. 159）

※3


クルーズコントロールセット
表示灯（→ P. 159）

※1

（点滅）
スリップ表示灯
（→ P. 163）

※1


VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF 表示灯（→ P. 165）

※2

セキュリティ表示灯
（→ P. 61）

※1


車両接近通報 OFF 表示灯
（→ P. 53）



EV 走行インジケーター
（→ P. 54）

※3


EV ドライブモード表示灯
（→ P. 141）

※3


エコドライブモード表示灯
（→ P. 144）

※3, 4

低温表示灯（→ P. 68）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 センターパネルに表示されます。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に、点灯します。

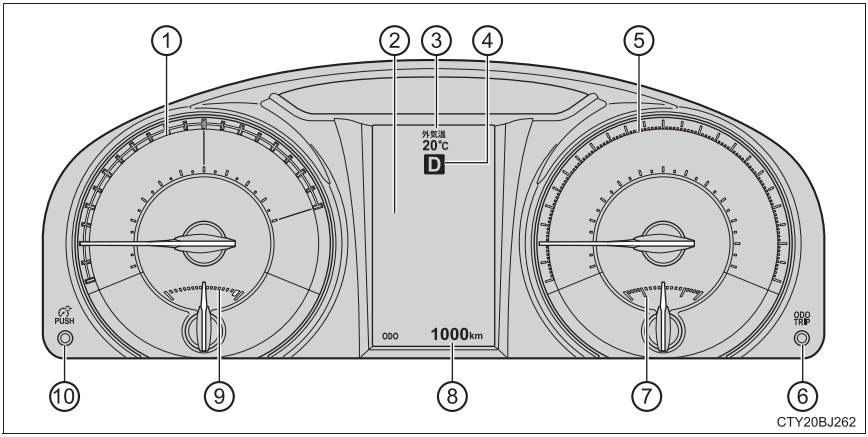
★：オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

計器類



① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。（→ P. 70）

② マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 264）

③ 外気温

外気温度を -40 ℃ ～ 50 ℃ の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

④ シフトポジション表示（→ P. 143）

⑤ スピードメーター

⑥ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン（→ P. 69）

⑦ 燃料計

⑧ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

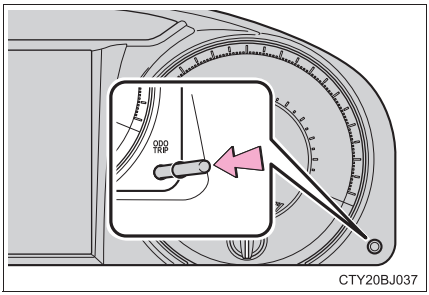
⑨ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

⑩ メーター照度調整ボタン（→ P. 69）

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。



CTY20BJ037

■ **オドメーター**

走行した総距離を表示します。

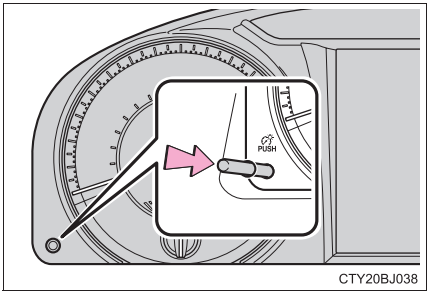
■ **トリップメーター**

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

トリップメーター表示中に表示切りかえボタンを押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

メーター照度調整

ボタンを押すと、メーター照明の明るさを調整できます。



CTY20BJ038

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■メーター照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度調整が一番明るい状態ではライトスイッチがONになってもメーター照度は減光されません。

周囲が暗いときライトスイッチが ON になると、メーターの明るさが減光されます。周囲が明るいとき（昼間など）ライトスイッチを ON にしても、メーターの明るさは減光されません。

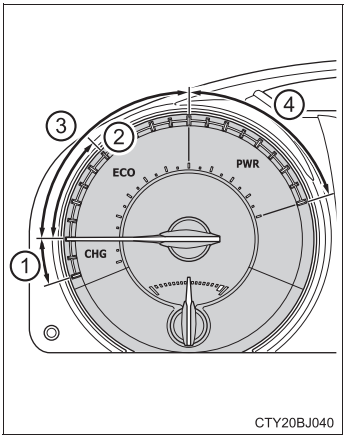
■ハイブリッドシステムインジケーターについて

① チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転（環境に配慮した走行）の範囲を超えている状態を示します。



- インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転（環境に配慮した走行）が可能です。
- チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 25 km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“E”が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 311）

マルチインフォメーションディスプレイ

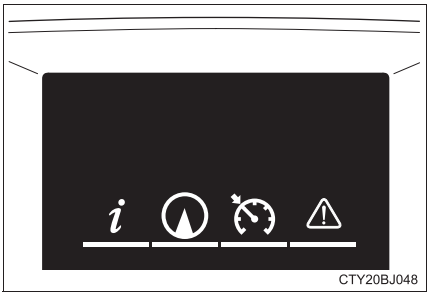
マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

表示内容

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 73)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 73)

ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。
・ 目的地案内
・ コンパス(ノースアップ/ヘッディングアップ表示)

クルーズコントロール

クルーズコントロール使用時に表示されます。(→ P. 159)

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→ P. 264)

設定

メーターの表示設定などを切りかえることができます。(→ P. 74)

★: オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **操作方法**

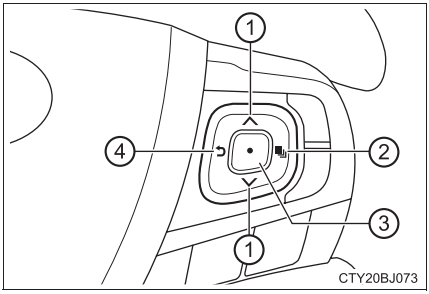
メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

① ページ送り、カーソル移動

② メニューの切りかえ

③ 短押し : 決定
長押し : リセット

④ ひとつ前の画面にもどる



ドライブインフォメーション

■ **瞬間燃費**※1

現在の瞬間燃費を表示します。

■ **平均燃費（リセット間**※2**・始動後）**※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の平均燃費（参考値）を表示します。

■ **平均車速（リセット間**※2**・始動後）**※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の平均車速（参考値）を表示します。

■ **走行時間（リセット間**※2**・始動後）**※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の経過時間（参考値）を表示します。

■ **距離（リセット間**※2**・航続可能・始動後）**※1

リセット後、燃料残量による走行可能な距離（参考値）、ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はパワースイッチを OFF にしてください。万一、パワースイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ **エネルギーモニター**

→ P. 77

■ **タイヤ空気圧**

→ P. 219

※1 設定のドライブインフォメーションで選択した項目が表示されます。

※2 リセット方法

・リセットしたい項目を選択し、メーター操作スイッチの中心のボタンを長押しします。

・リセット項目が1画面に複数ある場合は、チェックボックスが表示されます。

設定

■ **設定変更のしかた**

1 メーター操作スイッチで にカーソルを合わせる。

2 設定を変更したい項目をメーター操作スイッチで選択する。

■ **設定できる項目**

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費表示の単位を選択することができます。

● ドライブインフォ

ドライブインフォメーションに表示させる項目（→ P. 73）を2つまで選択することができます。

● EV 表示

EV インジケーターの表示・非表示を選択することができます。

● 割込表示

状況に応じて割り込み表示される項目の表示・非表示を選択することができます。割り込み表示される項目は次のとおりです。

・メーター照度調整

・ナビゲーションシステム連携表示の目的地案内

・ハンズフリー着信通知

● アクセントカラー

カーソルなどの色を選択することができます。

● 初期化

メーター表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき

■タイヤ空気圧表示について

●パワースイッチを ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで2、3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで2、3分かかります。

●電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

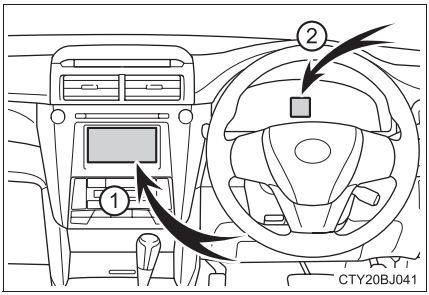
■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面★／ ESPO 画面★

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。

① ナビゲーション画面
② マルチインフォメーションディスプレイ



エネルギーモニターの見方

■ ナビゲーション画面表示

1 “情報・G”を押し、情報画面を表示させる

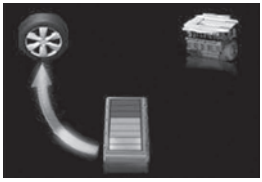
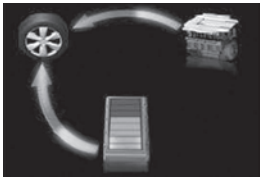
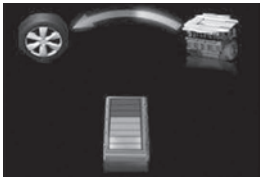
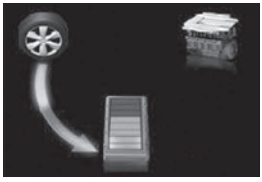
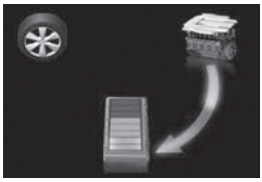
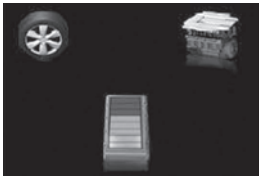
2 「エネルギー」を選択する

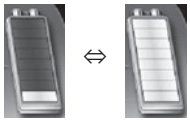


★：オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイ表示

メーター操作スイッチでエネルギーモニターを表示させる

	ナビゲーション システム画面	マルチインフォメーション ディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき	 	 
エネルギーの流れがないとき		

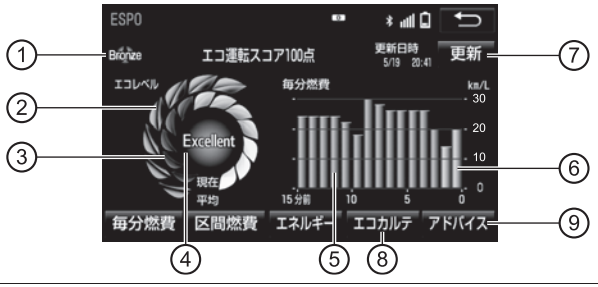
	ナビゲーション システム画面	マルチインフォメーション ディスプレイ
駆動用電池の残量表示	少ない 多い 	少ない 多い 

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方

1 “情報・G”を押し、情報画面を表示させる

2 情報画面の「ESPO」を選択する



① ステータス／エコ運転スコア表示※

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにエコ運転スコアやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

③ エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの表示がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑤ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータス／エコ運転スコア表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

・ エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

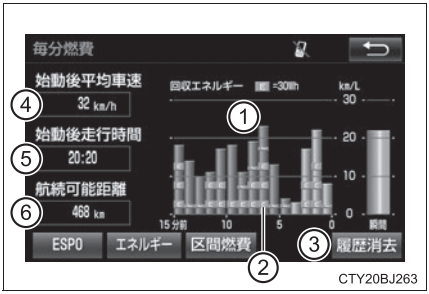
毎分燃費画面の見方

1 “情報・G”を押し、情報画面を表示させる

2 情報画面の「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。



① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 30Wh です。

③ 履歴消去

④ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑤ ハイブリッドシステム始動後走行時間

⑥ 航続可能距離（→ P. 82）

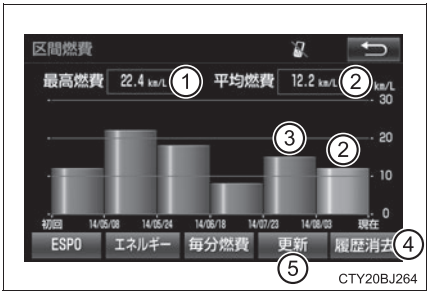
平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。



① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

3-1. キー
キー....84
3-2. ドアの開閉、ロックの しかた
ドア....88
トランク....95
スマートエントリー& スタートシステム....99
3-3. シートの調整
フロントシート....106
リヤシート....108
ヘッドレスト....110
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル....112
インナーミラー....114
ドアミラー....115
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開閉
パワーウインドウ....118
ムーンルーフ....121

キー

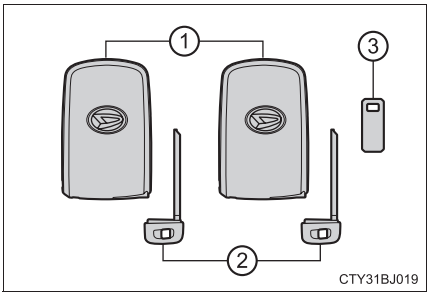
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 （→ P. 99）
- ・ワイヤレス機能の作動 （→ P. 84）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

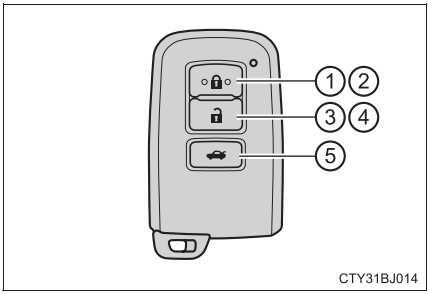
① 全ドアを施錠する （→ P. 88）

必ず施錠されたことを確認してください。

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※

③ 全ドアを解錠する （→ P. 88）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※



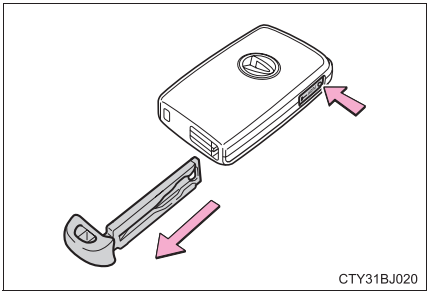
⑤ トランクを開ける （→ P. 95）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 323）

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 304）

知識

■駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてグローブボックスを施錠します。（→P. 187）
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、ダイハツサービス工場で新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 273)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・ 作動範囲が狭くなった
・ 電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・ TV
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 230

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはダイハツサービス工場へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●湿度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。
- ●認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルのないものの使用は禁止されています。

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などでダイハツサービス工場に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。

ドア

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

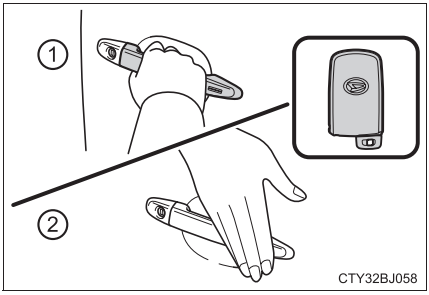
① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

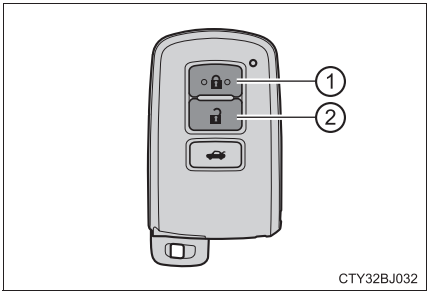
必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 323）



★：オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

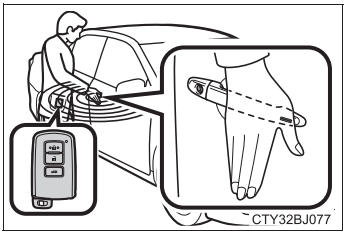
ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

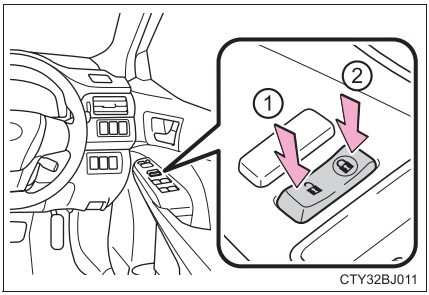
■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 304）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 230）

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

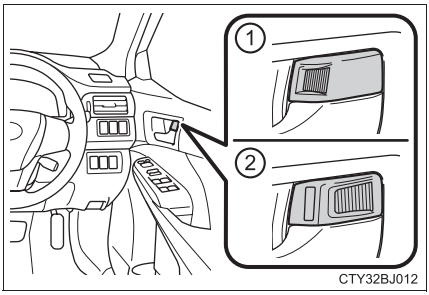
① 全ドアを解錠する
② 全ドアを施錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートドアロック	速度が約20 km/h以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチをOFFにしてから10秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

▶ ナビゲーションシステム非装着車

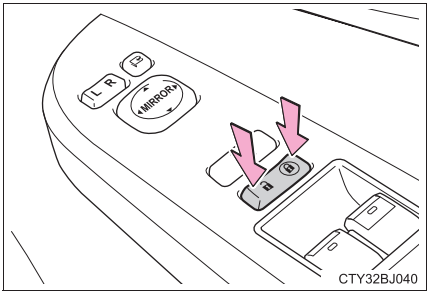
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

1 すべてのドアを閉め、パワースイッチを ON モードにする（その後 10 秒以内に手順 2 を行う）

2 シフトレバーを P または N に入れ、ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約5秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト操作連動ドアロック	P	🔒
シフト操作連動アンロック		🔓
車速感応オートドアロック	N	🔒
運転席ドア開連動アンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

▶ ナビゲーションシステム装着車

設定の変更は、ナビゲーションシステムの画面で行います。
（→ P. 323）

知識

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに、 と同時に、 または のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと、5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”(3 回) 車内：“ポーン”(1 回)
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	
	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”(2 回) 車内：“ポーン”(1 回)

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 304)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 102

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 323)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

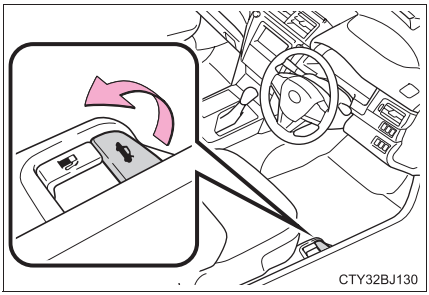
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

レバーを引き上げて、トランクのロックを解錠する



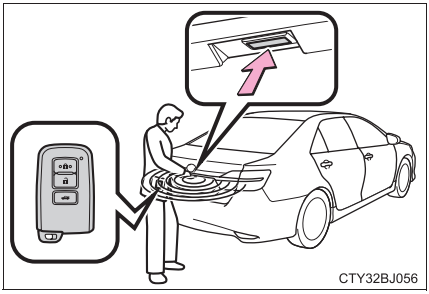
車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

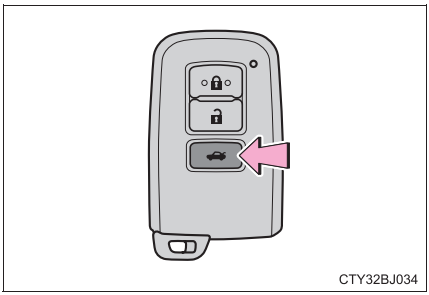
次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

- スマートエントリー&スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能



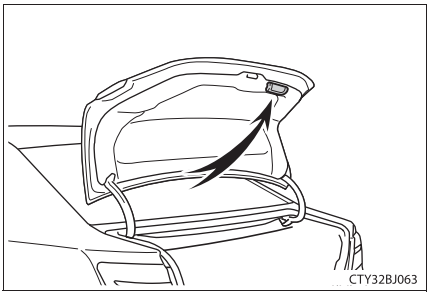
◆ ワイヤレスリモコン

スイッチを押し続ける


CTY32BJ034

トランクを閉めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。


CTY32BJ063

知識

■ トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

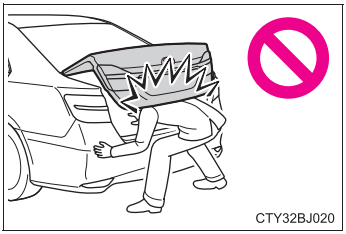
トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

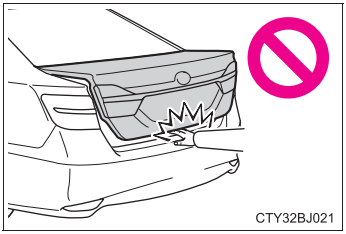
■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。


CTY32BJ020

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


CTY32BJ021

- トランクリッドにダイハツ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム

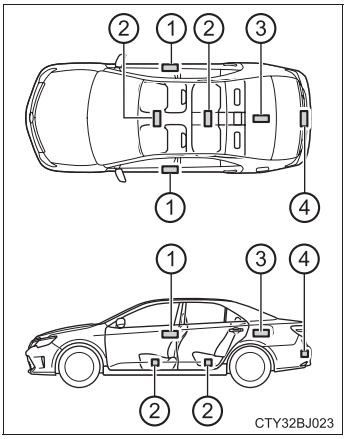
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P. 88）
- トランクを開ける（→P. 95）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P. 135）

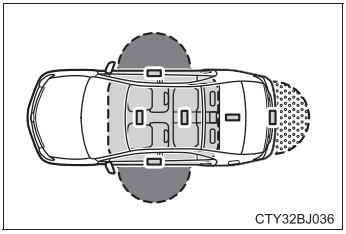
知識

■アンテナの位置

①車外アンテナ
②車内アンテナ
③トランク内アンテナ
④トランク外アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）



：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 265）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる
車内から“ポーン”、“ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（パワースイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

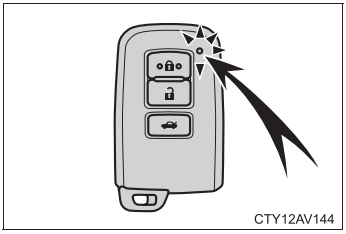
●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。


CTY12AV144

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 304）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上･リヤシート後方のパッケージトレイ上･ドアポケット・エアコンの吹き出し口付近・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット・またはエアコンの吹き出し口付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約30 秒後に自動的に施錠されます）

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

・電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P. 101）

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 323)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 304

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 305

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 323)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 88, 304)

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 305

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 136

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

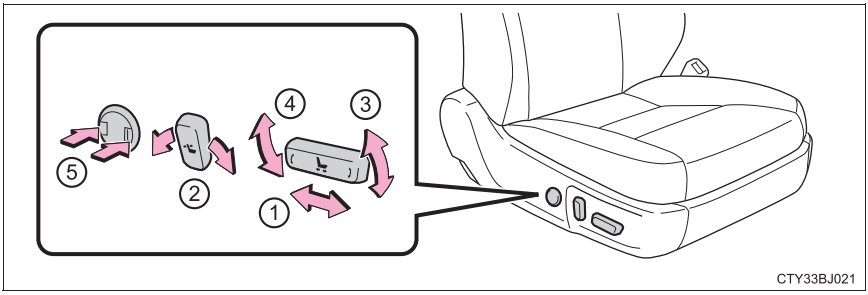
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 99）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認ください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

フロントシート

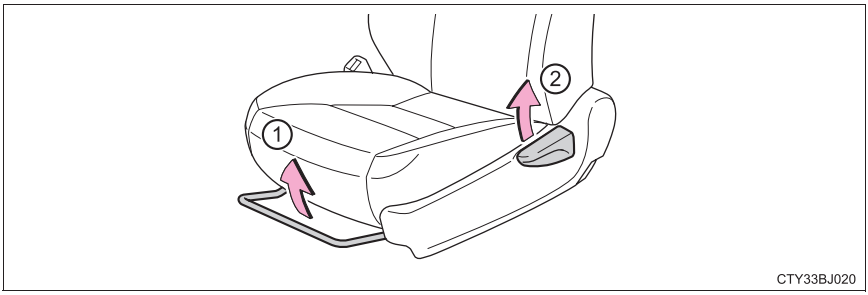
調整のしかた

▶ 運転席



① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整
④ シート全体の上下調整
⑤ 腰部位置調整

▶ 助手席



① 前後位置調整
② リクライニング調整

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- ●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- ●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

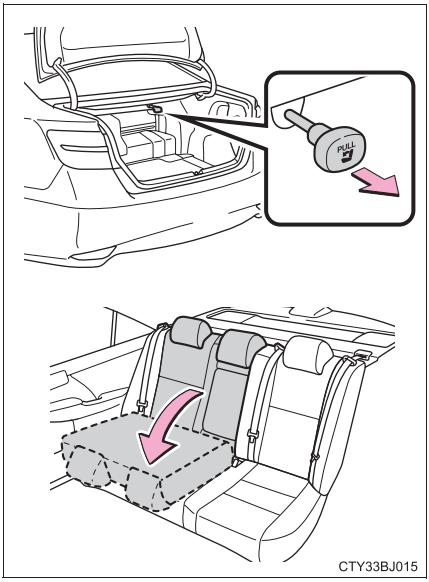
- ●背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●助手席：シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

トランク内のレバーを引き、背もたれを前方に倒す



⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれを前倒しするときは

- ●走行中に前倒しをしない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- ●倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- ●お子さまがトランクに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどすときは

- ●シートの間や、背もたれの後ろにシートベルトを挟みこまないようにする
- ●シートベルトがガイドからはずれた場合は、シートベルトをガイドに通す（→P. 27）

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

- ●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- ●シートベルトを挟み込まないようにする
- ●シートベルトがガイドに通っていることを確認する

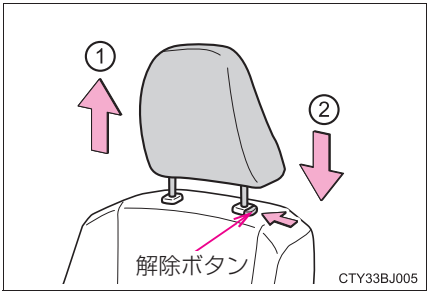
ヘッドレスト

調整のしかた（リヤ中央席を除く）

① 上げる

② 下げる

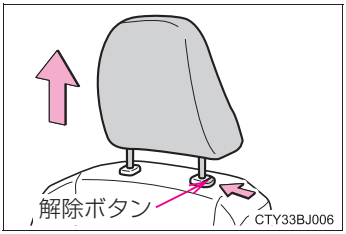
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

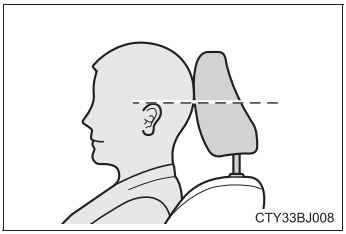
■ヘッドレストを取りはずすとき（リヤ中央席を除く）

解除ボタンを押しながら取りはずします。



■ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠警告

■ヘッドレストについて（リヤ中央席を除く）

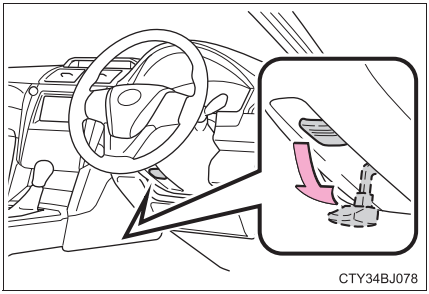
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

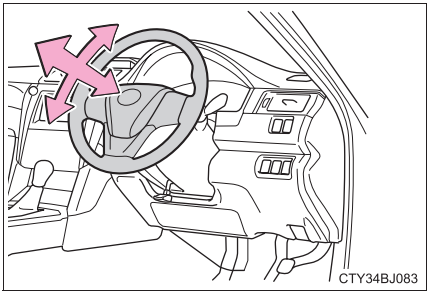
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



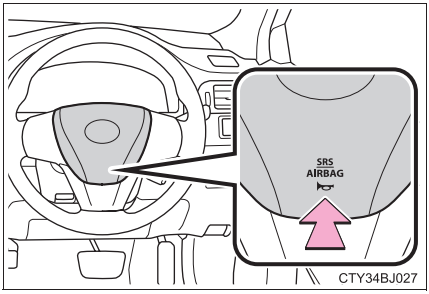
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

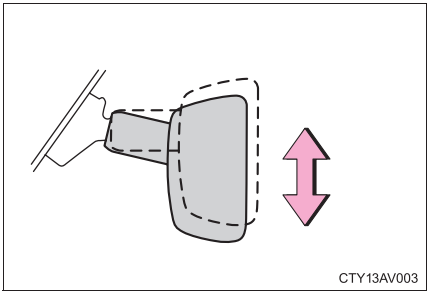
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

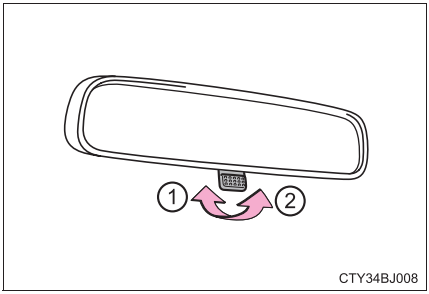


防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

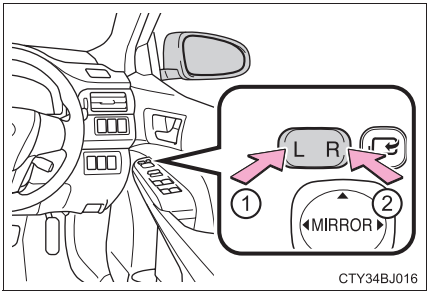
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



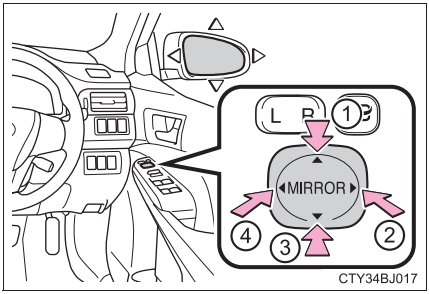
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

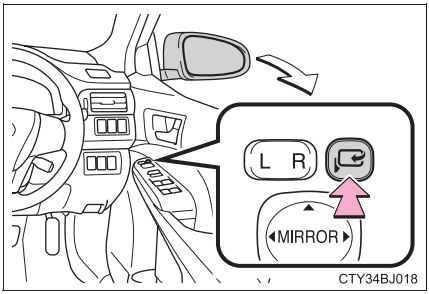
④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に１・２日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 207）を行ってください。

■ミラーが曇ったとき

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→ P. 178)

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

⚠ 注意

■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
  鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

パワーウインドウ

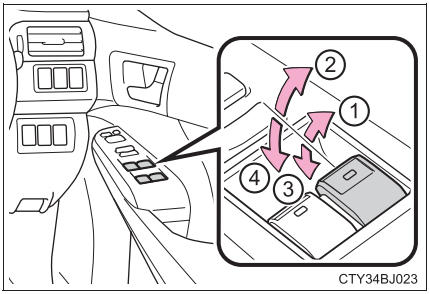
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

① 閉める
② 自動全閉※
③ 開ける
④ 自動全開※

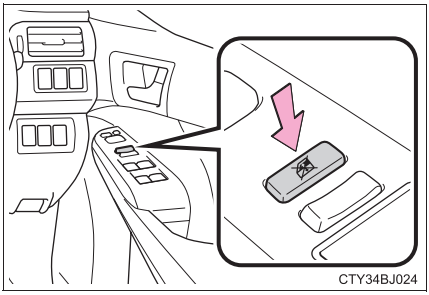
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを OFF またはアクセサリーモードにしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 323）

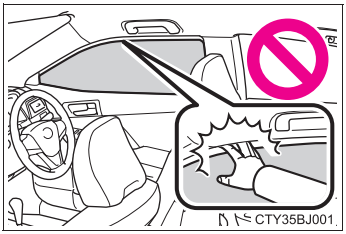
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P. 118）

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

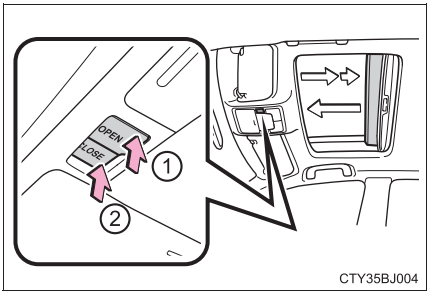
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

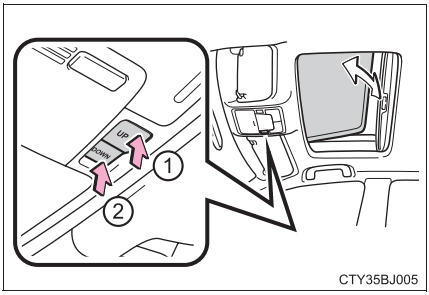


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ※

② チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを OFF またはアクセサリーモードにしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 267）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 323）

⚠ 警告

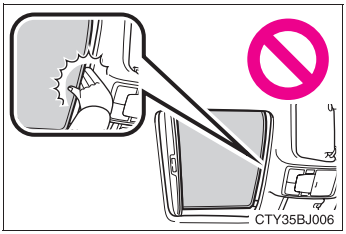
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

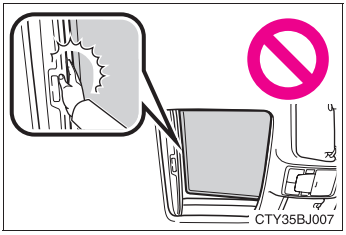
■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。


CTY35BJ006


CTY35BJ007

- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって
運転にあたって……126
荷物を積むときの注意……134

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ……135
EV ドライブモード……141
トランスミッション……143
方向指示レバー……146
パーキングブレーキ……147

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ……148
フォグランプスイッチ……151
ワイパー & ウォッシャー……153

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方……156

4-5. 運転支援装置について
クルーズコントロール……159
運転を補助する装置……163

4-6. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス……169
寒冷時の運転……171

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 135

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 143）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 147）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 143）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 147）

3 シフトレバーを P にする（→ P. 143）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはダイハツサービス工場で購入することができます。

4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P. 163)

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P. 169)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 254 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 143）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーをPにしてください。Pにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 276, 286 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずダイハツサービス工場で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・ハイブリッド用トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- ●燃料が入った容器
- ●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- ●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- ●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ●トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- ●次の場所には荷物を積まないでください。
  - ・運転席足元
  - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・パッケージトレイ
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
- ●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- ●荷物を積み過ぎないでください。
- ●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。

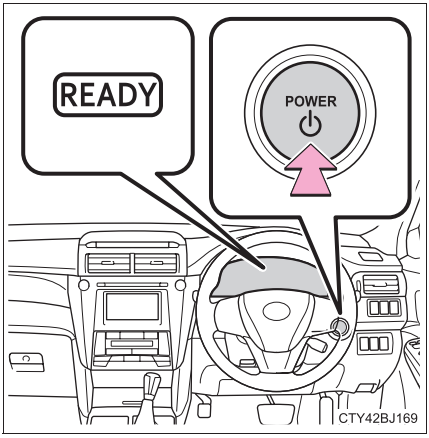
表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを押す

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P の位置にする

3 パーキングブレーキをかける（→P. 147）

4 パワースイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

アクセサリーモード

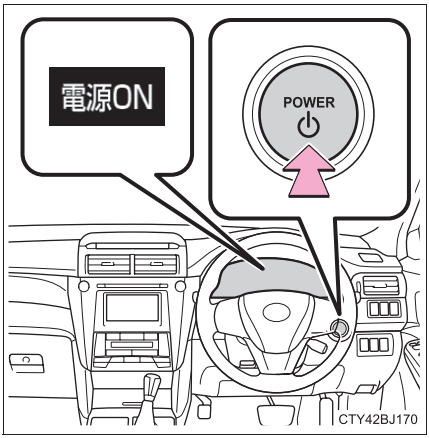
オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。



※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーをPの位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源ON」と「電源をOFFしてください」が交互に表示されていることを確認し、パワースイッチを1回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源ON」と「電源をOFFしてください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源OFF機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリーモードか1時間以上ONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動でOFFになります。
ただし、自動電源OFF機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、またはONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P. 55

■電子キーの電池の消耗について

→P. 86

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READYインジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 102

■ご留意いただきたいこと

→P. 103

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 61)
ダイハツサービス工場へご連絡ください。

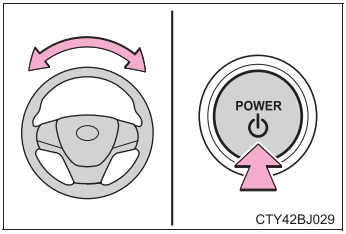
●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動することができないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。

■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 266

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 230

■パワースイッチの操作について

●パワースイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 325

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 254)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにダイハツサービス工場にご連絡ください。

EV ドライブモード

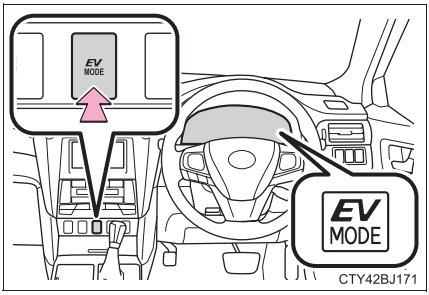
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。（→ P. 53）

EV ドライブモードの ON／OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、マルチインフォメーションディスプレイに「EV MODE」が表示されます。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 77）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、「EV MODE」表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 77）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除が事前にお知らせできるときは、マルチインフォメーションディスプレイに予告画面が表示されます。

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2 km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

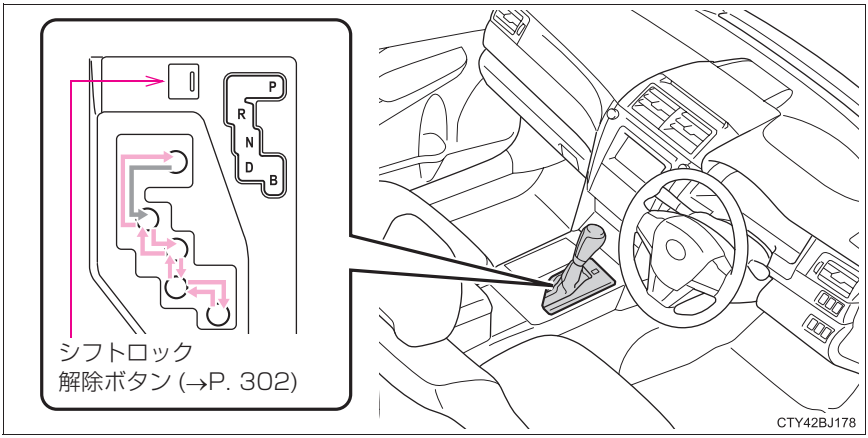
⚠ 警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

■P ポジションからのシフト操作について

P ポジションから他のポジションへシフトするときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。ブレーキペダルを踏んでいるのにシフトできないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。(→P. 302)

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

シフトレバーの使用目的

シフトレバー	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	坂道や急な下り坂など、 強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

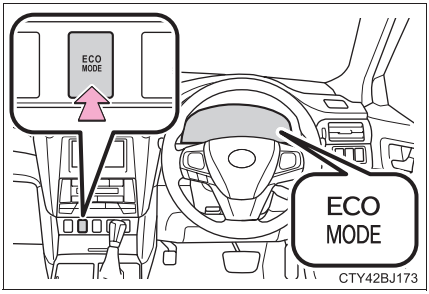
エコドライブモードの選択

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON/OFF を切りかえる

エコドライブモードになると、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO MODE」が表示されます。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。



知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→P. 176）
空調の効きをより良くしたい時は、風量の調整、またはエコドライブモードの解除をしてください。

⚠ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

⚠ 注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

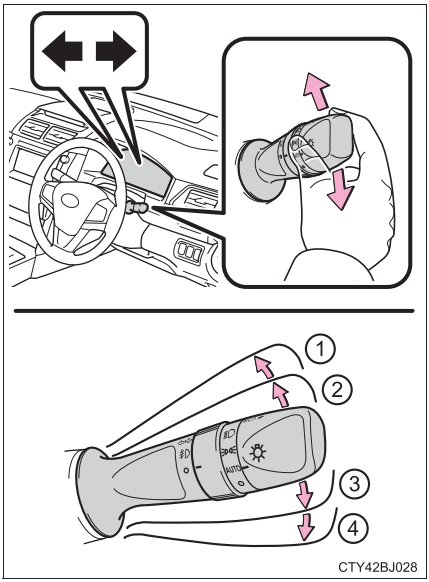
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

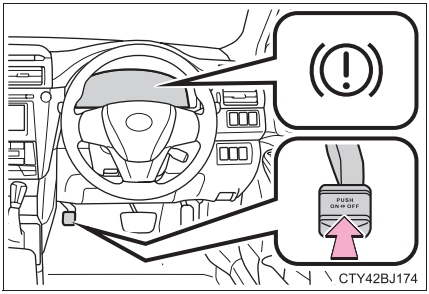
■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む
（再度踏み込むと解除される）



知識

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 261, 266

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 171

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

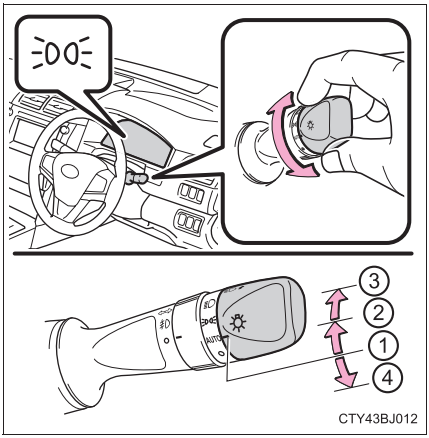
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

① AUTO ヘッドランプ・LED デイライト (→P. 149)・車幅灯などを自動点灯・消灯（パワースイッチが ON モードのとき）

② 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ 消灯



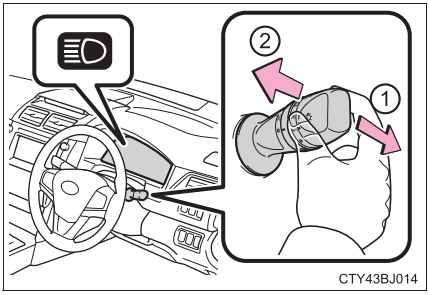
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

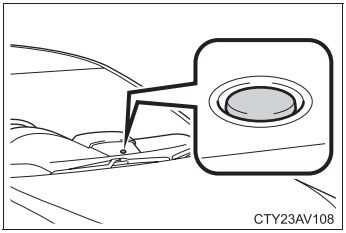
■LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

ドアまたはトランクが開いている場合、20 分後にすべてのライトが自動消灯します。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると、節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

・ランプスイッチを操作したとき
・ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 327）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

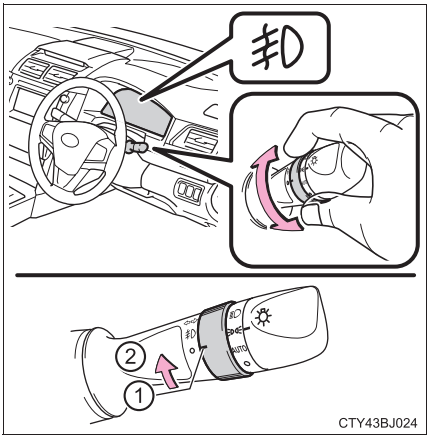
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプ装着車

① O 消灯する

② 点灯する



▶ フロント&リヤフォグランプ装着車

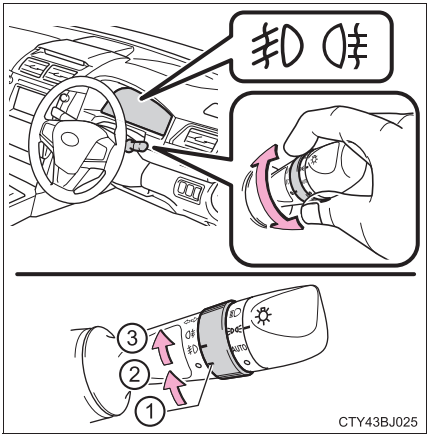
① O 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ★：
フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① 間欠作動（INT）

② ▼ 低速作動（LO）

③ ▼▼ 高速作動（HI）

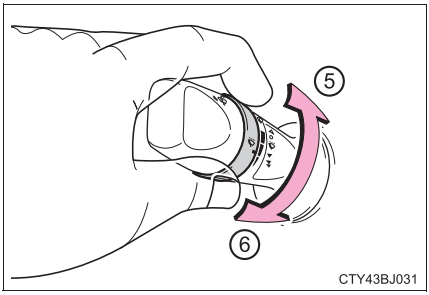
④ △ 一時作動（MIST）



間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

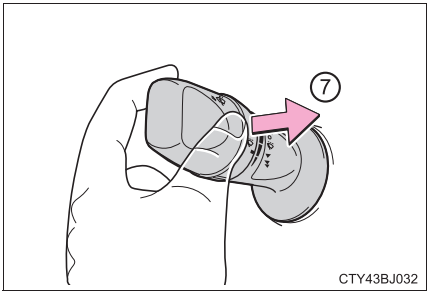
⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ フロントウィンドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

⚠警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

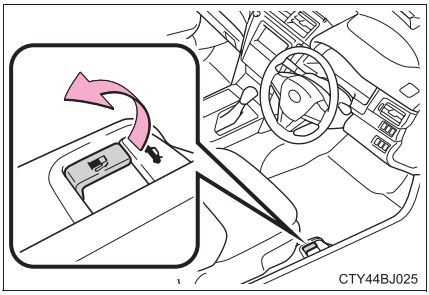
■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

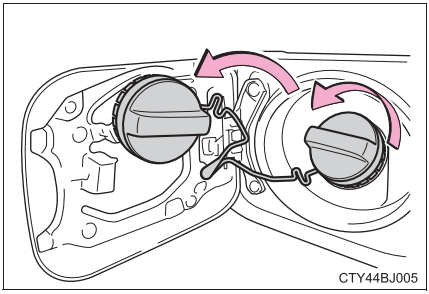
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける


CTY44BJ025

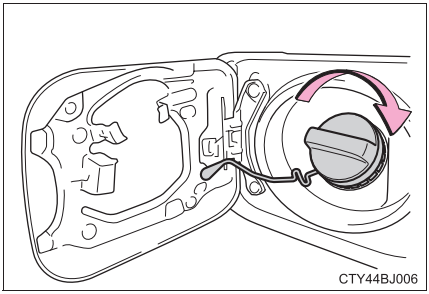
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む


CTY44BJ005

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠警告

■キャップが正常に閉まらないとき

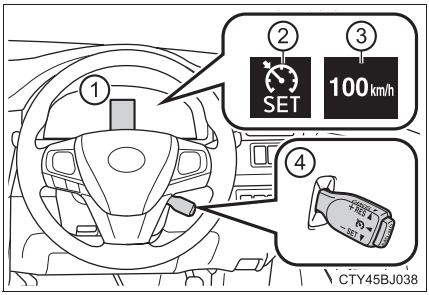
必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

クルーズコントロール

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① ディスプレイ
② 表示灯
③ 設定速度
④ クルーズコントロールスイッチ

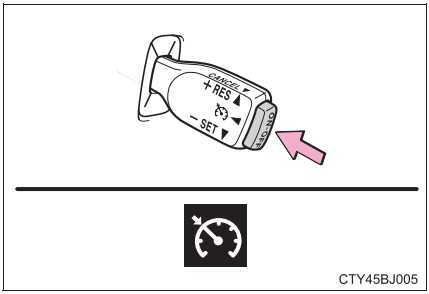


速度を設定する

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

ディスプレイ内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

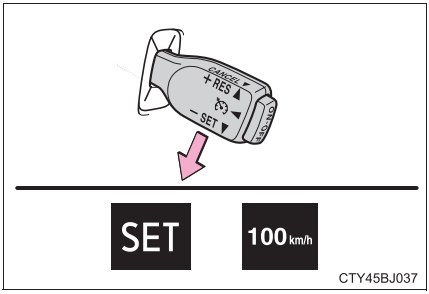
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

ディスプレイ内にSET表示灯と設定速度が表示されます。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

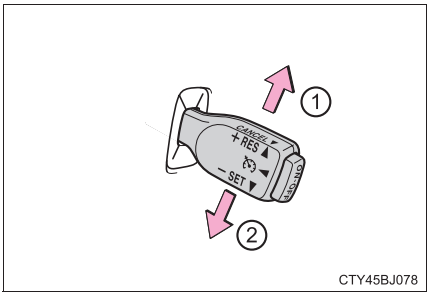
微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：レバー操作するごとに約 1km/h

調整：レバーを保持するあいだ



CTY45BJ078

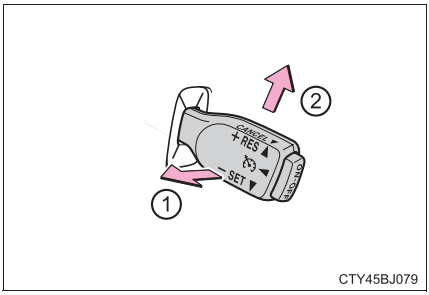
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



CTY45BJ079

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●S-VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

ON/OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC *（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC *（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを防止します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

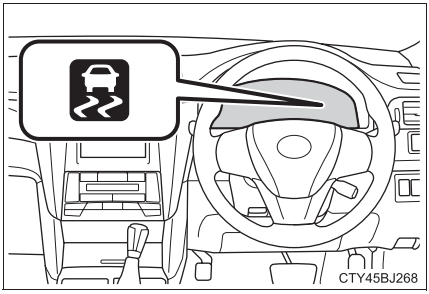
*：“VSC” “TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

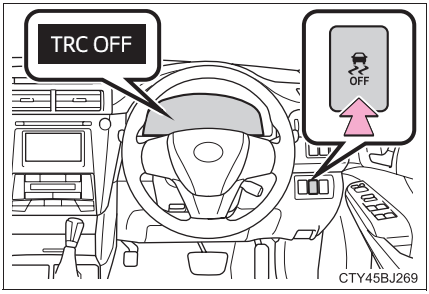
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速約 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

⚠警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

⚠ 警告

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 321）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 176）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 70）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 218）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、ダイハツサービス工場で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●前2輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- ●取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。ダイハツサービス工場で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

ダイハツ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
ダイハツ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するとき

ダイハツサービス工場へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P. 218 を参照してください）

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

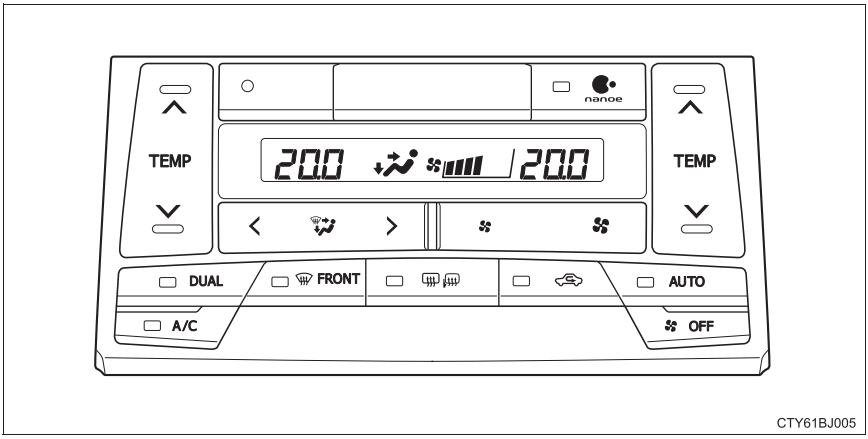
室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン.....176
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....184
・インテリアランプ.....184
・パーソナルランプ.....185
・リヤシートセンター
アームレストランプ.....185
5-3. 収納装備
収納装備一覧.....186
・グローブボックス.....187
・コンソールボックス.....187
・ボトルホルダー.....188
・カップホルダー.....189
・小物入れ.....190
トランク内装備.....191
5-4. その他の室内装備の
使い方
その他の室内装備.....193
・サンバイザー.....193
・バニティミラー.....193
・時計.....194
・アクセサリーソケット.....194
・ステアリングスイッチ.....195
・おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）.....196
・リヤアームレスト.....202
・アシストグリップ.....202
・コートフック.....203

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

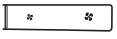
エアコン操作スイッチについて

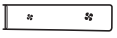


■ 温度を調整する

温度を上げるときは  の ∧ を、下げるときは ∨ を押す

■ 風量を切りかえる

風量を増やすには：  の  を押す

風量を減らすには：  の  を押す

ファンを止めるときは  を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

< ▽ > の < または > を押す

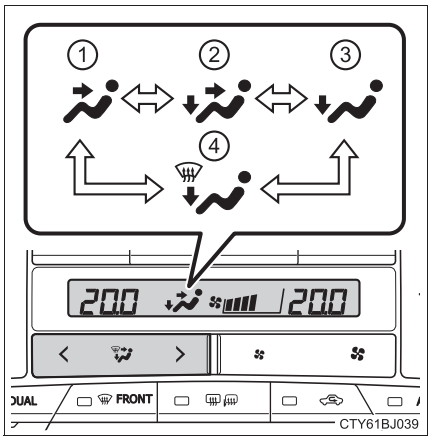
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風･フロントウインドウガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1 AUTO を押す

2 温度を設定する

3 ファンをとめたいときは、OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL を押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

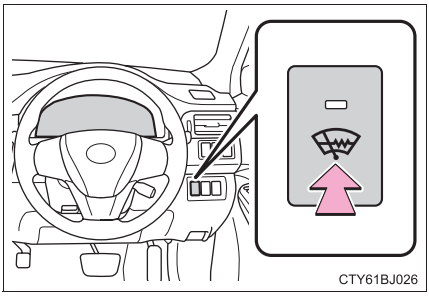
リヤウインドウデフォッガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。


CTY61BJ026

■「ナノイー」を使うには

を押す

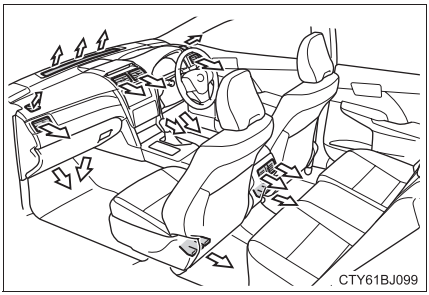
エアコン送風時に「ナノイー」が作動し、 の表示灯が点灯します。
（「ナノイー」について：→P. 181）

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

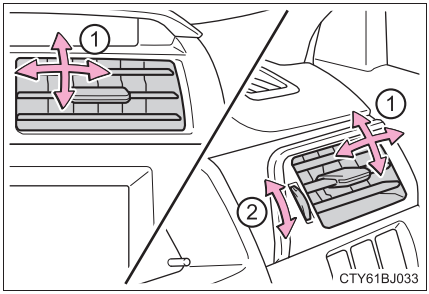
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。(→ P. 177)



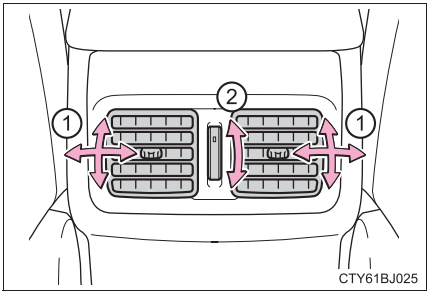
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



① 風向きの調整

▶ リヤ



② 吹き出し口の開閉

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。
空調の効きをより良くしたい時は、風量の調整、又はエコドライブモードの解除をしてください。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→P. 183）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P. 228

■設定可能な機能

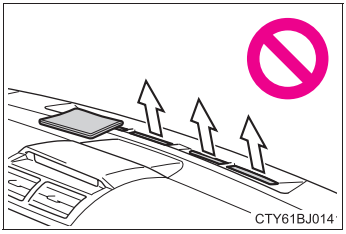
エコドライブモード時のエアコン制御を、通常走行モードと同じ制御に変更できます。（カスタマイズ一覧→P. 327）

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、  を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

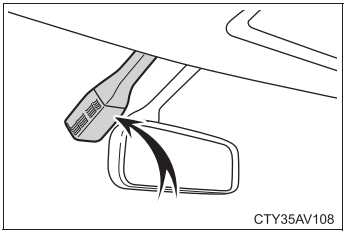
このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知（→P. 180）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。
センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。



- 湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- 湿度センサーにシールなどを貼らない

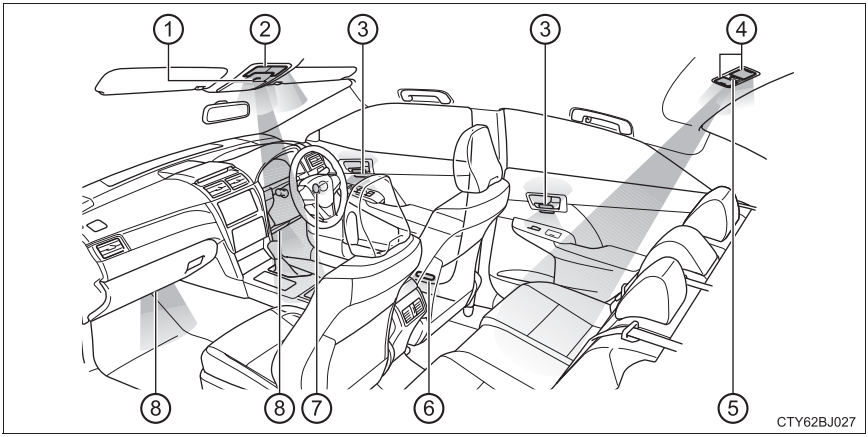
■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

室内灯一覧



① シフト照明

② フロントインテリア／パーソナルランプ （→P. 184）

③ ドアハンドル照明

④ リヤインテリア／パーソナルランプ （→P. 184）

⑤ リヤシートセンターアームレストランプ （→P. 185）

⑥ ドアカーテシランプ

⑦ パワースイッチ照明

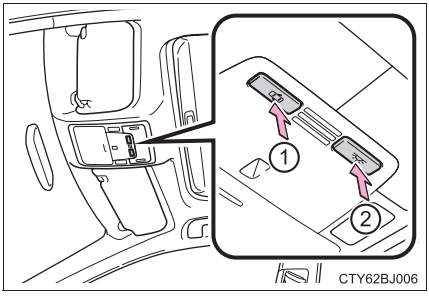
⑧ 足元照明

インテリアランプ

① ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

② ランプの点灯・消灯を切りかえる

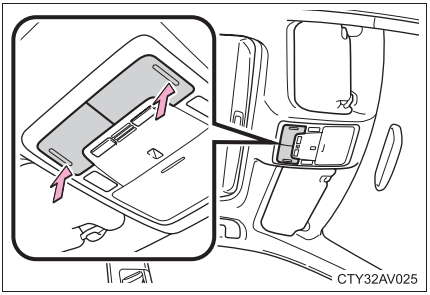
リヤインテリアランプはフロントインテリアランプに連動して点灯・消灯します。



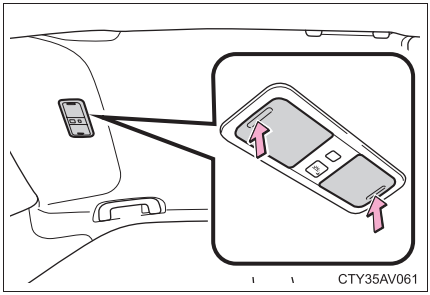
パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

▶ フロント

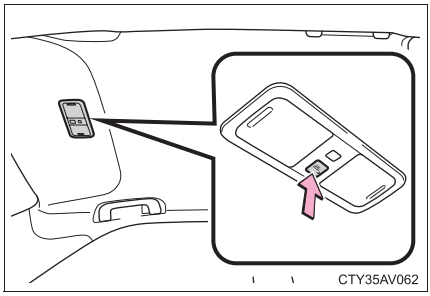


▶ リヤ



リヤシートセンターアームレストランプ

ランプを点灯・消灯する（テールランプ点灯時）



知識

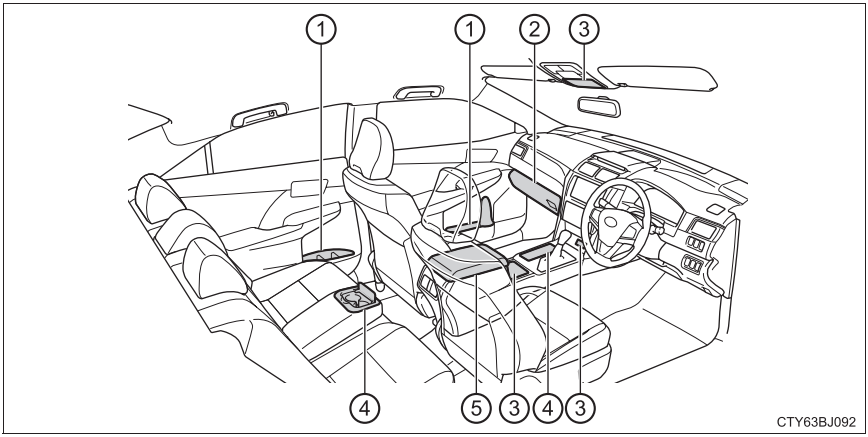
●電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）

●パワースイッチがOFFの場合、次の室内灯が点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

・インテリアランプ
・パーソナルランプ
・ドアカーテシランプ
・ドアハンドル照明

●イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 328）

収納装備一覧



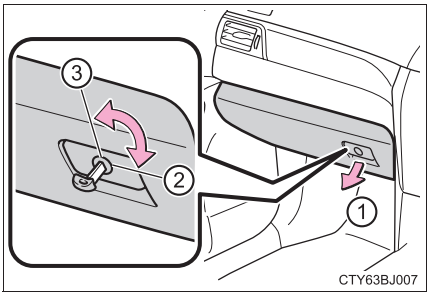
① ボトルホルダー／ドアポケット（→P. 188）
② グローブボックス（→P. 187）
③ 小物入れ（→P. 190）
④ カップホルダー（→P. 189）
⑤ コンソールボックス（→P. 187）

⚠ 警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

① 開ける（レバーを引く）
② メカニカルキーで施錠
③ メカニカルキーで解錠

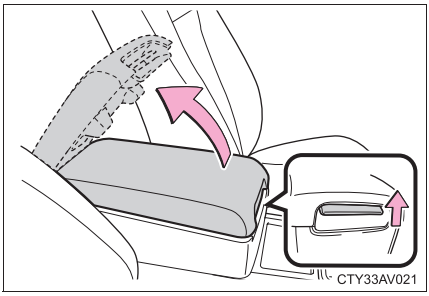


知識

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

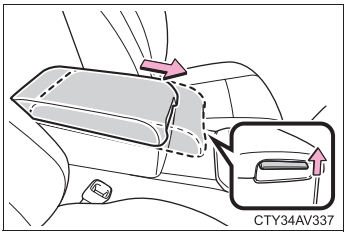
コンソールボックス

ノブを持ち上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

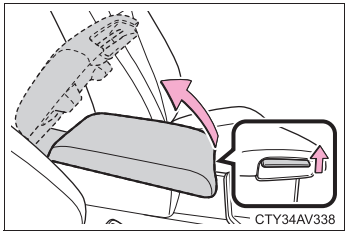


知識

●コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは、ノブを持ち上げてロックを解除し、フタを前にスライドして位置を調整することができます。

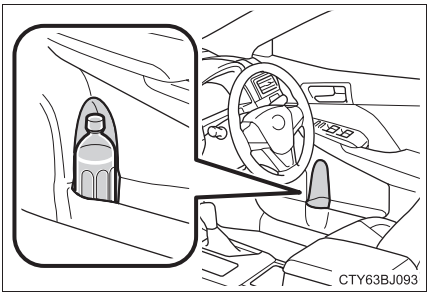


●前端にスライドした位置からもフタを開けることができます。

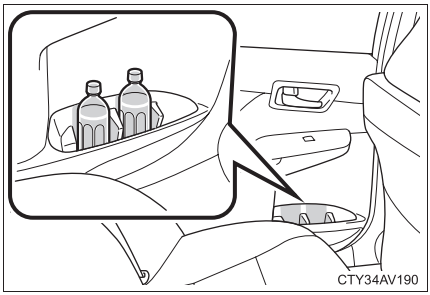


ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

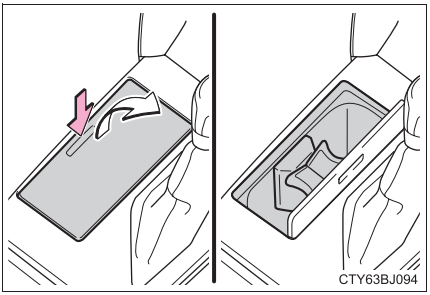
注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カップホルダー

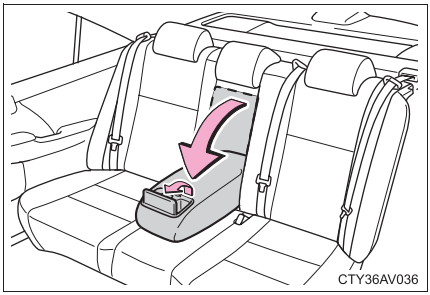
▶ フロント

カップホルダーのフタの左側を押して開ける



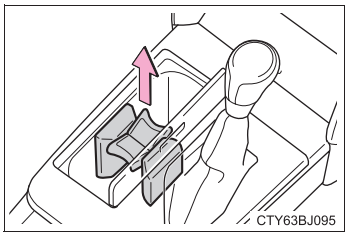
▶ リヤ

アームレストを手前に倒し、フタを開ける



知識

フロントカップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



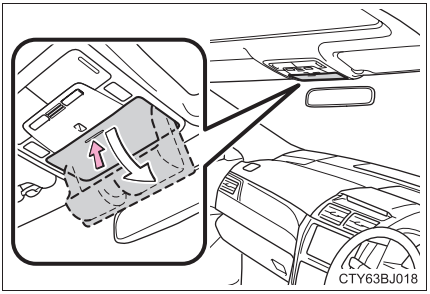
警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

小物入れ

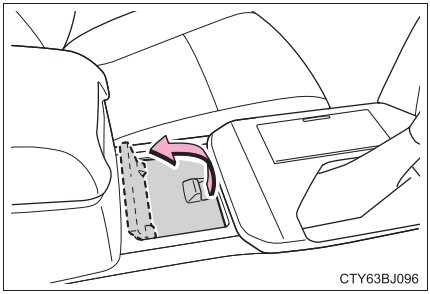
▶ オーバーヘッドコンソール

フタを押して開ける



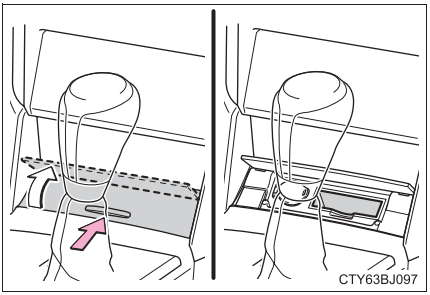
▶ アクセサリーボックス★

ツマミを引いて開ける



▶ カードホルダー

フタの下側を押して開ける



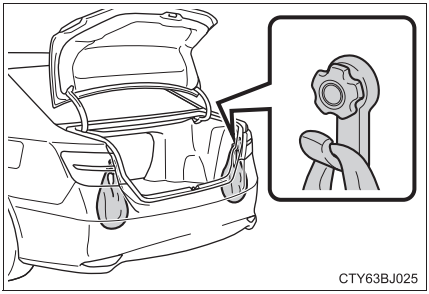
⚠ 警告

オーバーヘッドコンソールには 200 g 以上のものを入れないでください。200 g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

トランク内装備

買い物フック

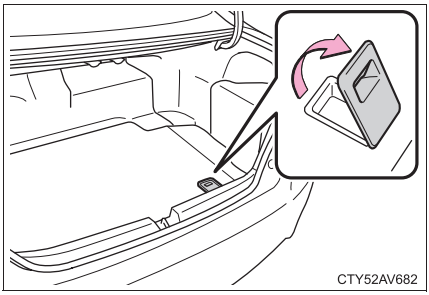

CTY63BJ025

⚠ 注意

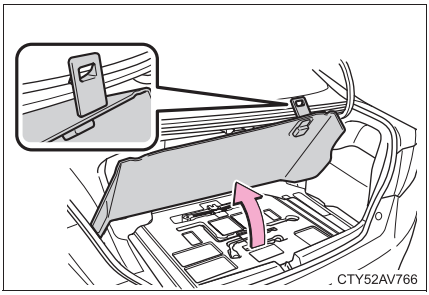
破損を防ぐために、買い物フックに過度の負荷をかけないでください。

ラゲージマット

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる


CTY52AV682

2 フックを使ってラゲージマットを固定する

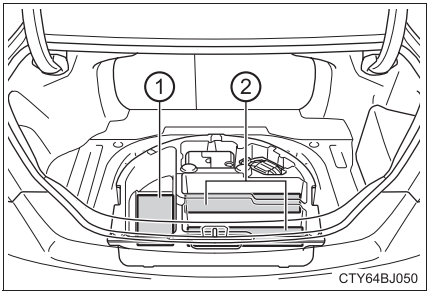

CTY52AV766

⚠ 注意

トランクを閉めるときは、ラゲージマットのレバーをトランクの端にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります

ラゲージアンダートレイ（タイヤパンク応急修理キット装着車）

ラゲージマットを持ち上げ固定し（→P. 191）、ツールトレイを取りはずす（→P. 289）



① 三角表示板収納スペース

大きさ、形によっては収納できない場合があります。

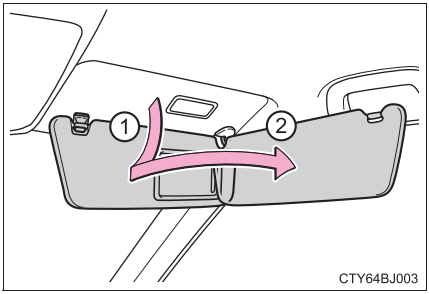
② 小物入れ

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

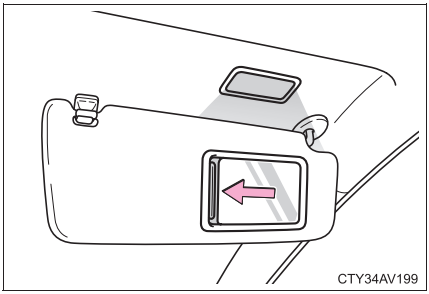
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティランプが点灯します。



知識

ハイブリッドシステムが停止した状態でランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

時計

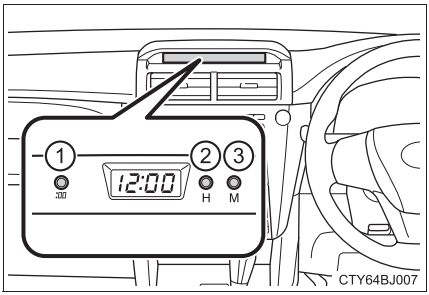
ボタンを押して時刻を調整することができます。

① “分” を 00 にする※

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

② “時” を調整する

③ “分” を調整する



知識

●パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのときに、時刻が表示されます。

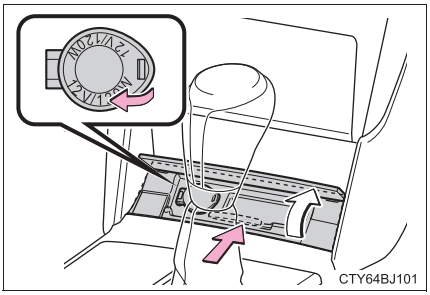
●補機バッテリー端子の脱着をしたときに、時計は自動的に 1:00 にセットされます。

アクセサリーソケット

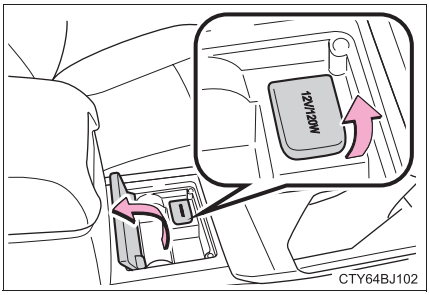
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。
電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

フタを開けて使用する

▶ インストルメントパネル



▶ アクセサリーボックス★



★：オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

作動条件：パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

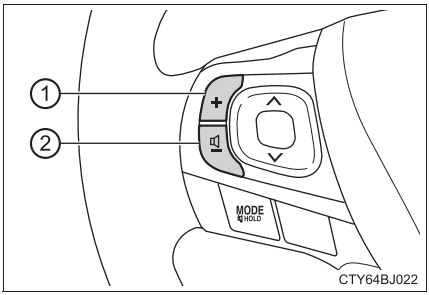
注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の各説明書をご覧ください。

① 音量を大きくする
② 音量を小さくする



警告

事故を防ぐために、運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

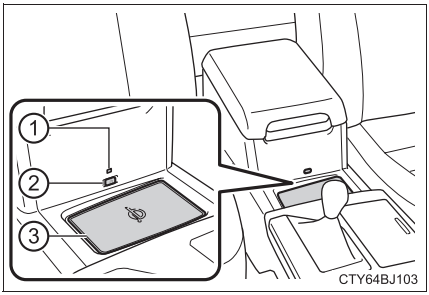
「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

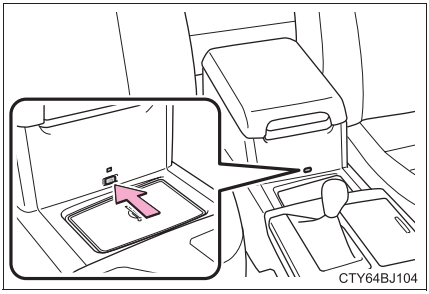
① 作動表示灯
② 電源スイッチ
③ 充電エリア



★：オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電する

1 電源スイッチを押す

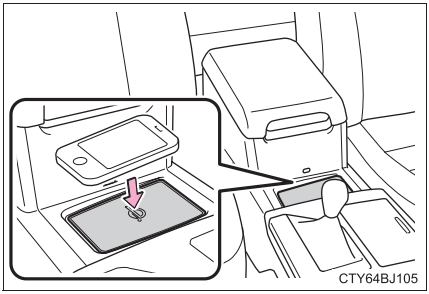


押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はハイブリッドシステムのパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

2 充電エリアに携帯機器を置く



携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

・ 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
・ 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ **作動表示灯の点灯状況**

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1秒間に1回の点滅をくり返す（橙色）	**車両とワイヤレス充電器の通信不良**	ダイハツサービス工場へお問い合わせください。
3回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電についての留意事項

- 車室内で電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
  充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P. 211

⚠ 警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- ●携帯機器が満充電
- ●充電エリアと携帯機器の間に異物がある
- ●充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- ●携帯機器の充電面を上にして置いた
- ●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- ●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- ●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。ダイハツサービス工場へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

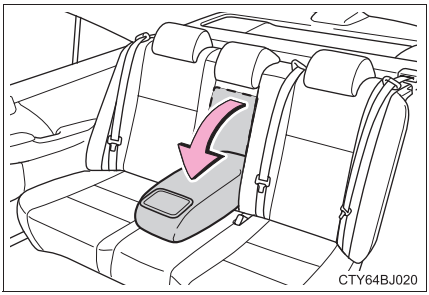
- ●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- ●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。

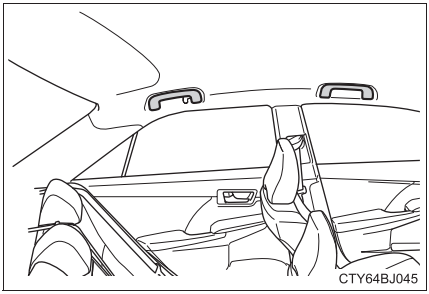


⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

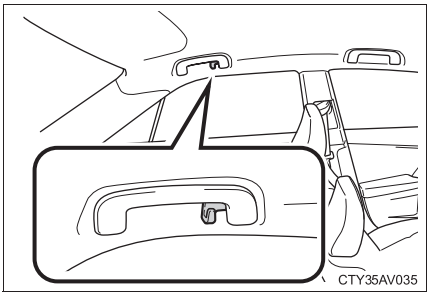
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....206
内装の手入れ.....210
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 213
ガレージジャッキ.....216
ウォッシャー液の補充.....217
タイヤについて.....218
タイヤ空気圧について 226
エアコンフィルターの交換 228
電子キーの電池交換.....230
ヒューズの点検・交換.....232
電球（バルブ）の交換.....236

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、ダイハツケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P. 101）

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・ 金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 116）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

⚠ 警告

■ 洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●ナビゲーションシステム装着車 ： 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠警告

■車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 57）
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 30）
  電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→ P. 196）をぬらさないでください。
  発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

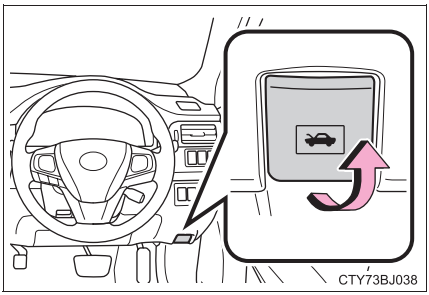
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

ボンネット

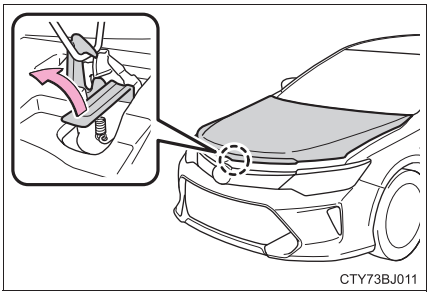
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



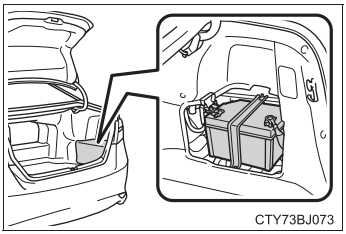
2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）



⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

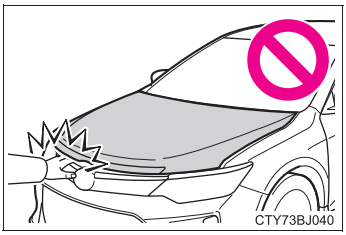
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずダイハツサービス工場にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの交換について

交換する際はアルティス専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

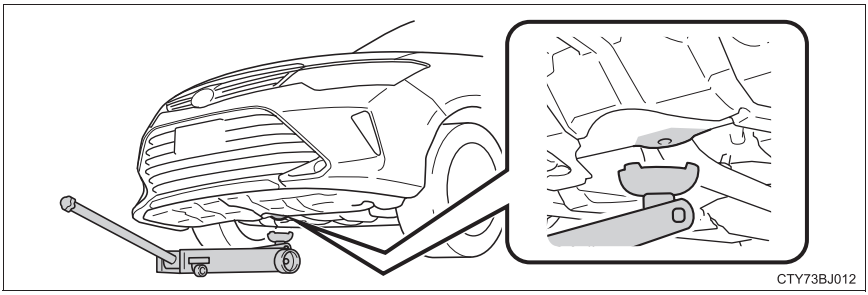
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにダイハツ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

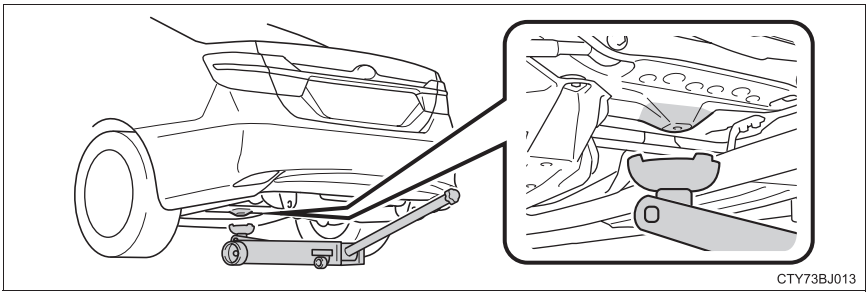
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



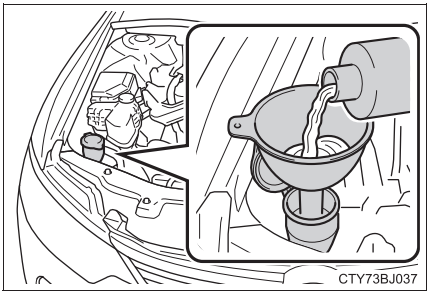
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

次の場合、ウォッシャー液を補充してください。

- ウォッシャー液が出ない
- マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき（→P. 268）



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

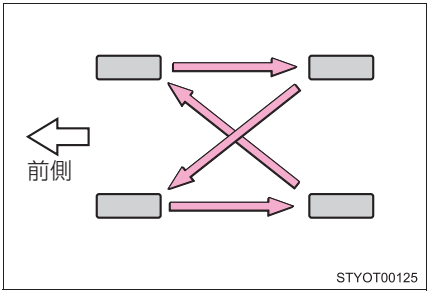
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、ダイハツは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 262, 267)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、ダイハツサービス工場へご依頼ください。(→ P. 220)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

- タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になった場合
- タイヤローテーションを実施した場合

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、ハイブリッドシステムを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 221, 321）

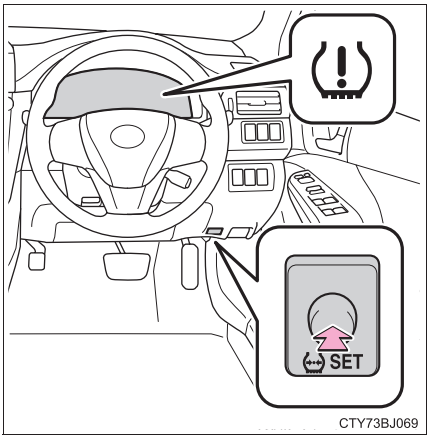
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 パワースイッチを ON モードにする

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「- -」になり、タイヤの位置判定を開始します。

位置判定が終了すると、再びタイヤ空気圧が表示されます。



5 約 40 km/h 以上で約 10 分走行すると、タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、初期化は終了します。

信号待ちなどで停車時間が長くなる場合は、初期化に約 10 分以上かかります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。
ID コードの登録については、ダイハツサービス工場にご依頼ください。

知識

■タイヤ空気圧の数値

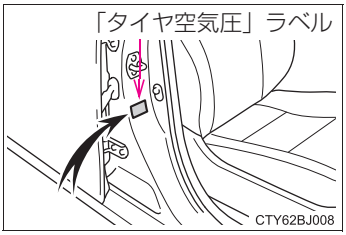
前輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2) ※

後輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2) ※

応急用タイヤ★:420 kPa (4.2 kg/cm^2)※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

→ P. 75

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●初期化中にパワースイッチをOFFにしてしまった場合は、次回ONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

未舗装の場所では初期化に時間がかかる場合があるため、できるだけ舗装された場所を走行してください。走行環境やタイヤの状態によりますが、通常約 10 分で終了します。約 10 分走行しても終了しない場合は、しばらく走行を続けてください。

約 1 時間走行し続けてもタイヤ空気圧が表示されない場合は、次の方法で走行してください。

●安全な場所に約 20 分間停車したあと、約 40 km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 20 分走行する

ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。

●スイッチ操作時に警告灯が3回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）

●初期化したあと、走行中にタイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

上記の方法でうまくいかないときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。
ID コードの切りかえについては、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

⚠ 警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

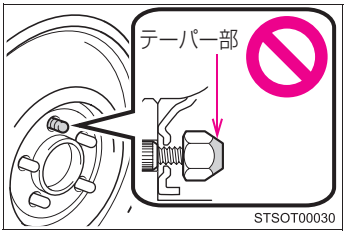
- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

⚠注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、ダイハツサービス工場へご相談ください。
- ダイハツ指定の純正ホイールを使用してください。
  ダイハツ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 321）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、ダイハツサービス工場でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

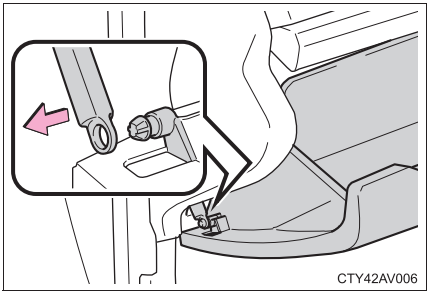
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

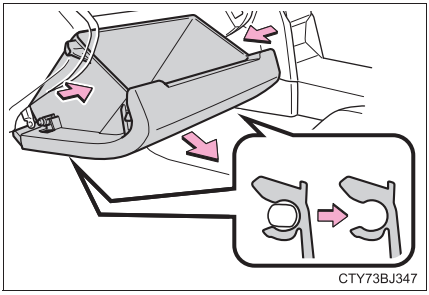
交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

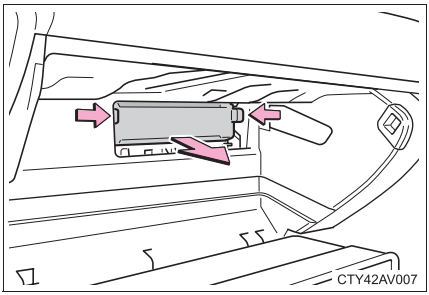
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

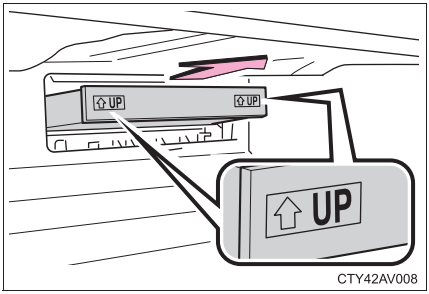


4 フィルターカバーを取りはずす



5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※]ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

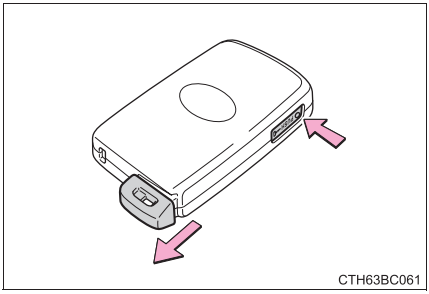
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

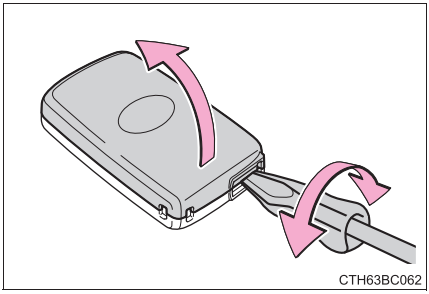
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く


CTH63BC061

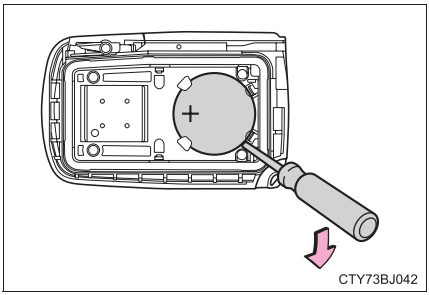
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


CTH63BC062

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



CTY73BJ042

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

⚠ 警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

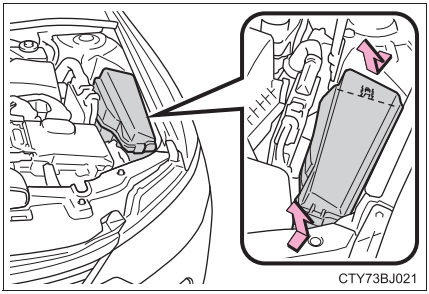
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

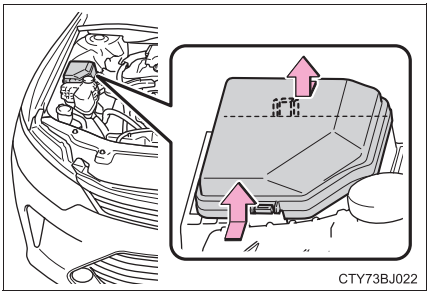
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



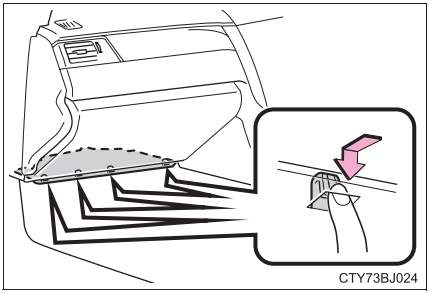
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

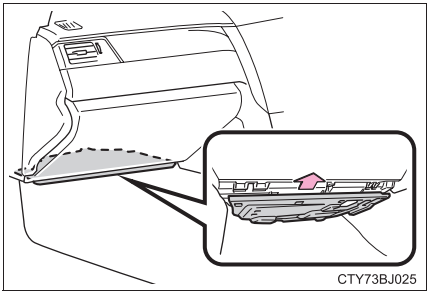


▶ 助手席足元

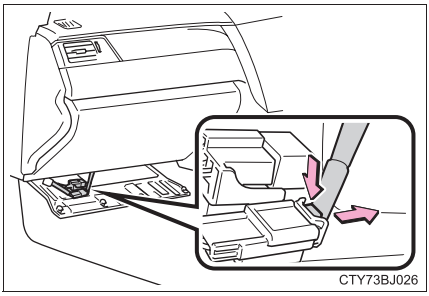
足元のカバーのツメ（4ヶ所）をはずす



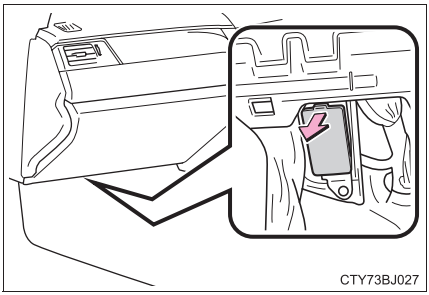
カバーを手前に引いてはずす


CTY73BJ025

コネクターを取りはずす

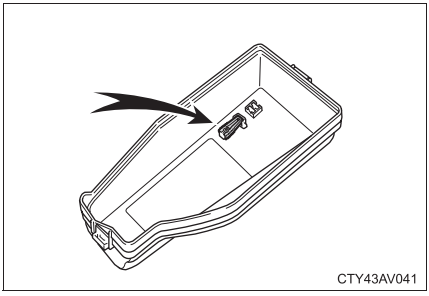

CTY73BJ026

フタを取りはずす


CTY73BJ027

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

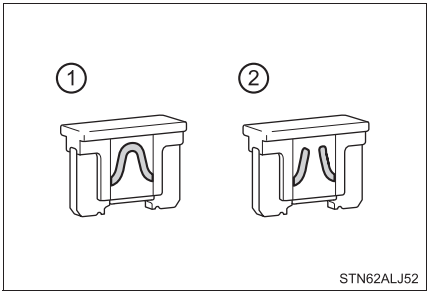

CTY43AV041

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 236）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているダイハツ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のダイハツ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

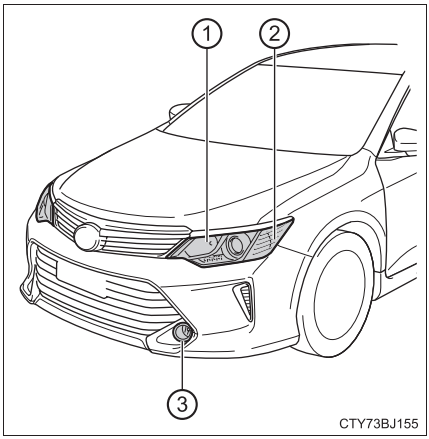
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 322）

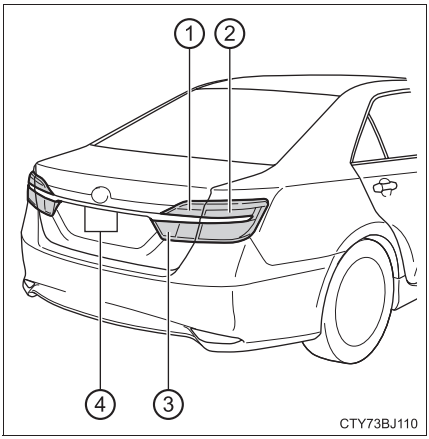
バルブ位置

▶ フロント



① ヘッドランプ（ハイビーム）
② フロント方向指示灯／非常点滅灯
③ フロントフォグランプ

▶ リヤ



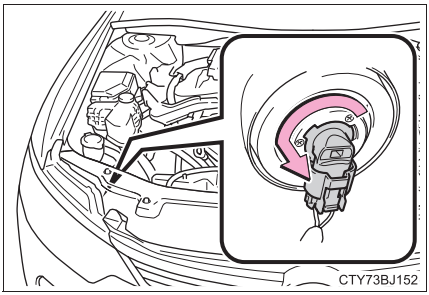
① 後退灯
② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
③ リヤフォグランプ★
④ 番号灯

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

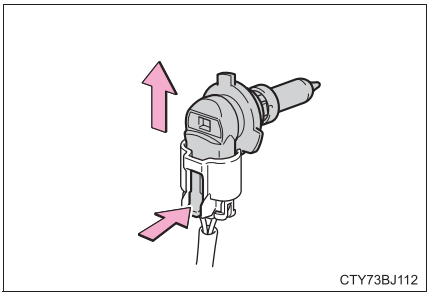
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ（ハイビーム）

1 ソケットをまわして取りはずす

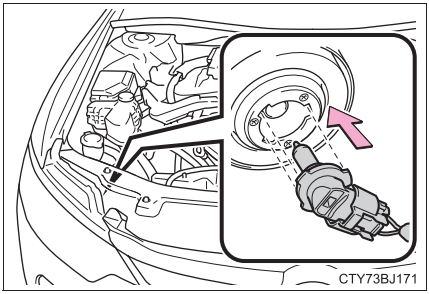


2 電球を取りはずす



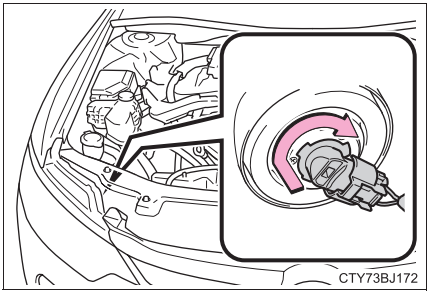
3 新しい電球を取り付け、ソケットを挿し込む

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。



4 ソケットをまわして固定する

ソケットを固定したあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

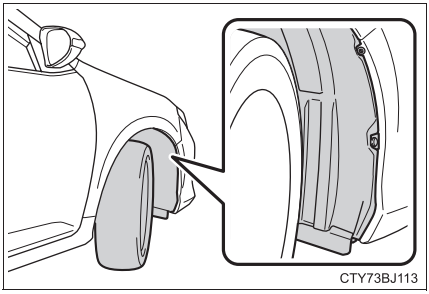


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

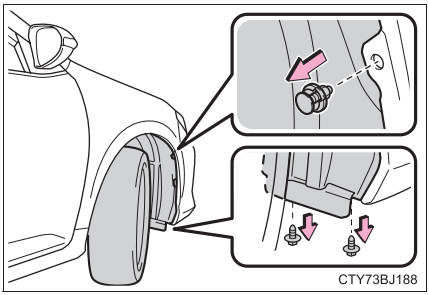
1 交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

図のように上側と下側のクリップを確認してください。

手が十分入る程度にハンドルをまわしてください。


CTY73BJ113

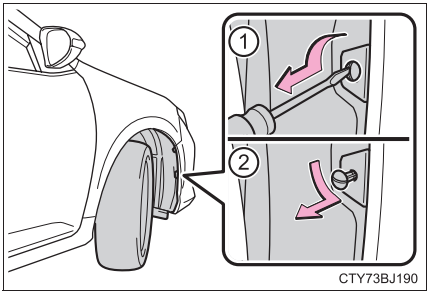
2 上側のクリップとスパッツのネジを取りはずす


CTY73BJ188

3 下側のクリップを取りはずす

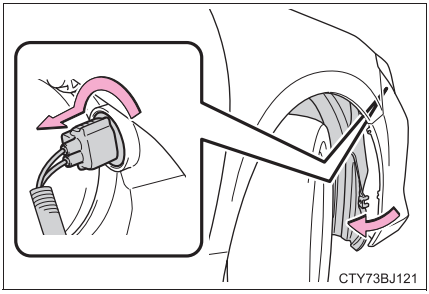
① クリップをまわし、止まるまで引きます。

② 再びクリップをまわし、引き抜きます。

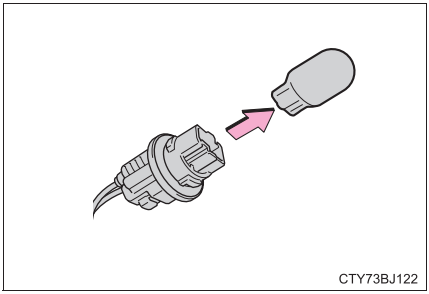


CTY73BJ190

4 コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくり、ソケットをまわして取りはずす

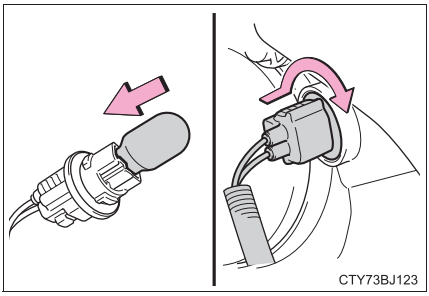

CTY73BJ121

5 電球を取りはずす


CTY73BJ122

6 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして固定する

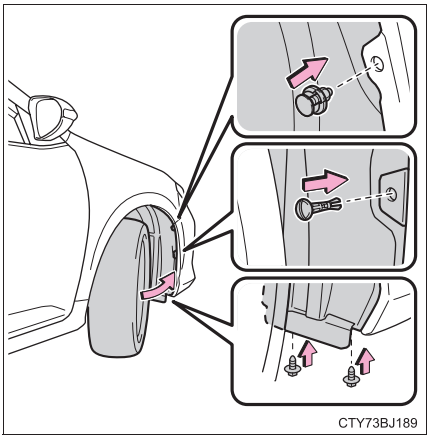
ソケットを固定したあとは、いったんフロント方向指示灯／非常点滅灯を点滅させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。


CTY73BJ123

7 フェンダーライナーを取り付け、クリップとネジを取り付ける

フェンダーライナーがバンパーの内側になっていることを確認してから取り付けてください。

下側のクリップは、溝を縦にして挿し込んでください。

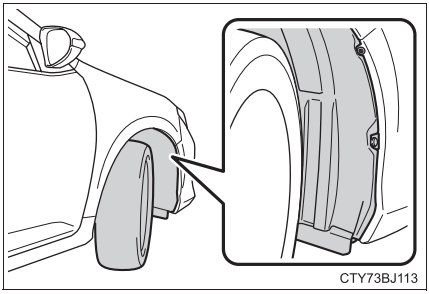

CTY73BJ189

■ フロントフォグランプ

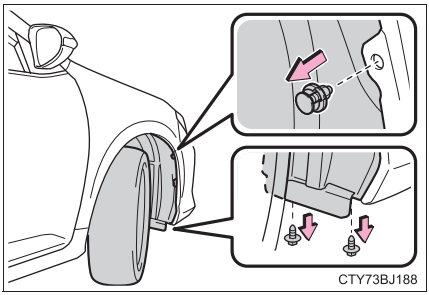
1 交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

図のように上側と下側のクリップを確認してください。

手が十分入る程度にハンドルをまわしてください。



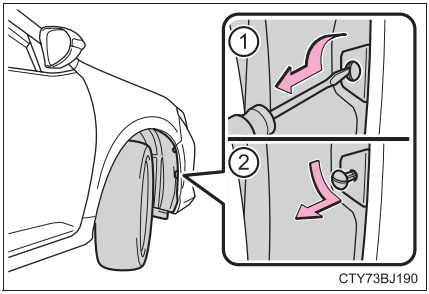
2 上側のクリップとスパッツのネジを取りはずす



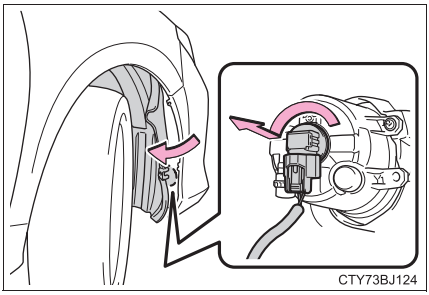
3 下側のクリップを取りはずす

① クリップをまわし、止まるまで引きます。

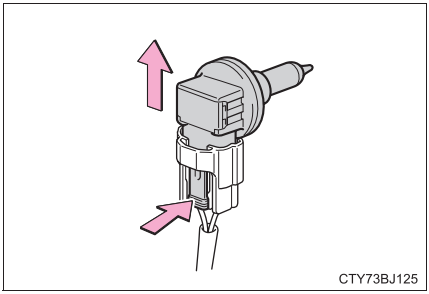
② 再びクリップをまわし、引き抜きます。



4 コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくり、ソケットをまわして取りはずす

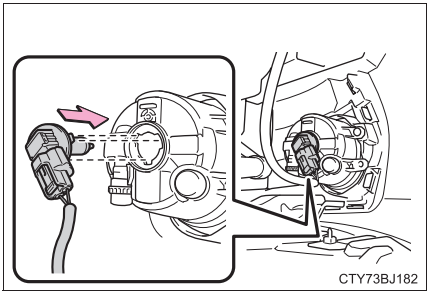


5 電球を取りはずす


CTY73BJ125

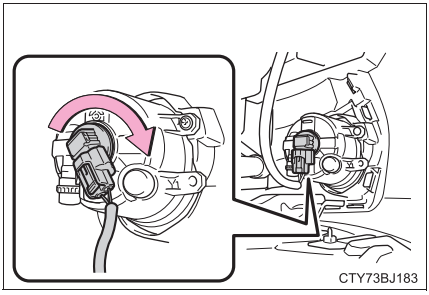
6 新しい電球を取り付け、ソケットを挿し込む

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。


CTY73BJ182

7 ソケットをまわして固定する

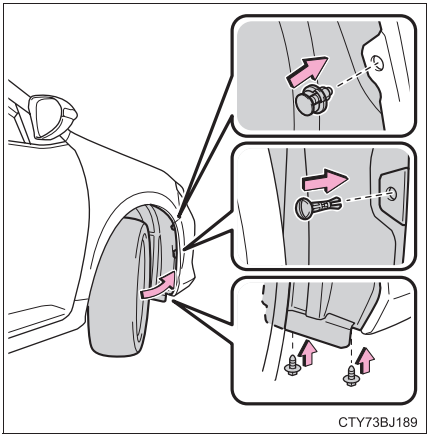
ソケットを固定したあとは、いったんフロントフォグランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。


CTY73BJ183

8 フェンダーライナーを取り付け、クリップとネジを取り付ける

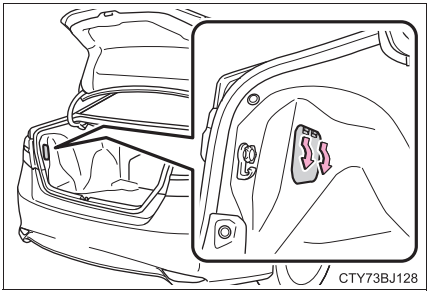
フェンダーライナーがバンパーの内側になっていることを確認してから取り付けてください。

下側のクリップは、溝を縦にして挿し込んでください。

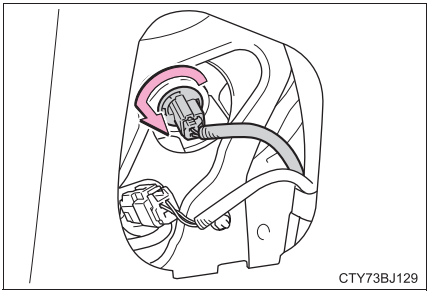

CTY73BJ189

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

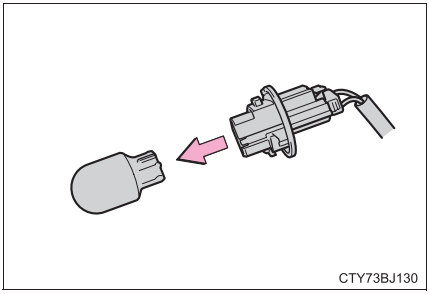
1 トランクを開け、カバーを取りはずす



2 ソケットをまわして取りはずす

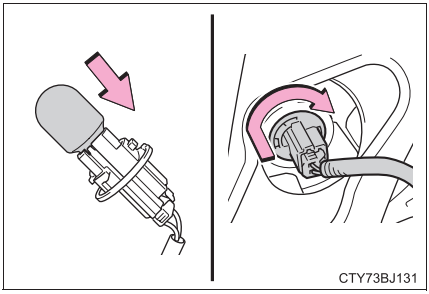


3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして固定する

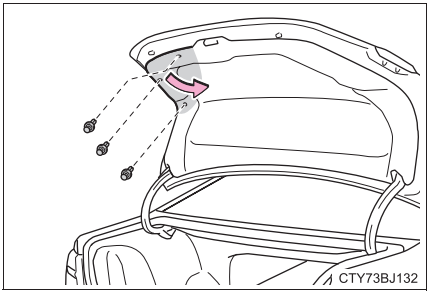
ソケットを固定したあとは、いったんリヤ方向指示灯／非常点滅灯を点滅させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



5 カバーを取り付ける

■ 後退灯・リヤフォグランプ★

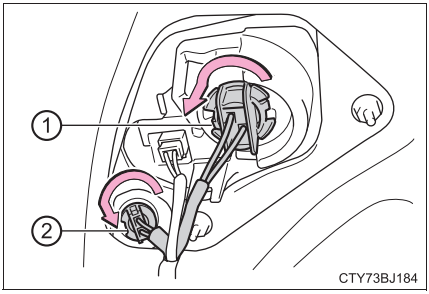
1 トランクを開け、クリップをはずし（→ P. 245）内張りをめくる



2 ソケットをまわして取りはずす

① リヤフォグランプ

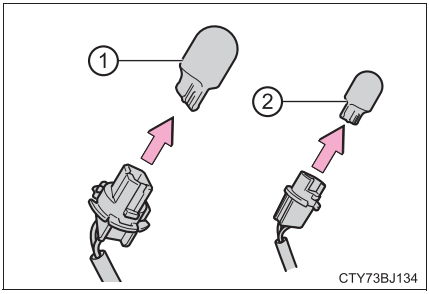
② 後退灯



3 電球を取りはずす

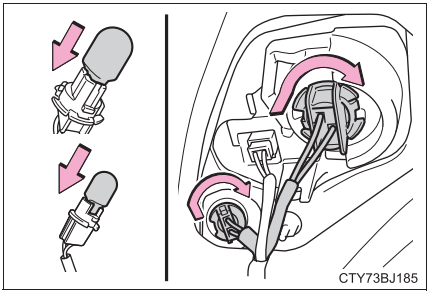
① リヤフォグランプ

② 後退灯



4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして固定する

ソケットを固定したあとは、いったん後退灯／リヤフォグランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



5 内張りをもとにもどし、クリップを取り付ける

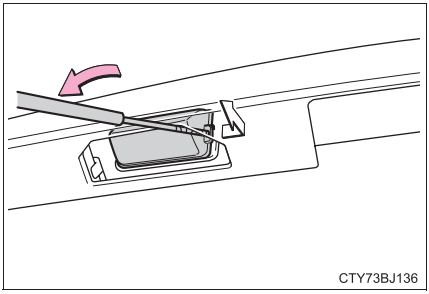
★：オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 番号灯

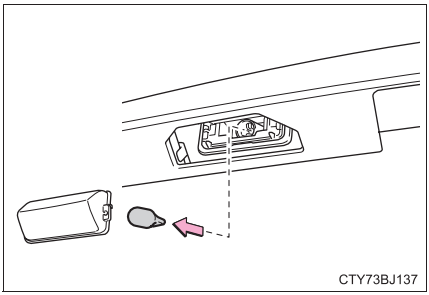
1 レンズを取りはずす

小さいドライバーなどをレンズの穴にさしこみ図のようにこじると、片側がういて外れます。

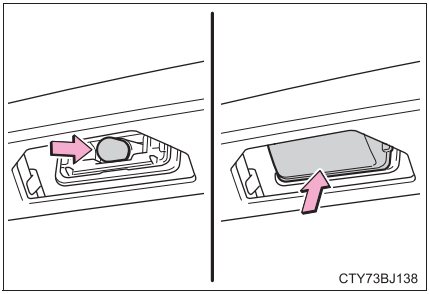
傷が付くのを防ぐため、先端にビニールテープなどを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付け、レンズを取り付ける



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ヘッドランプ（ロービーム）
- 車幅灯／ LED デイライト
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■ディスチャージヘッドランプの作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ランプについて

車幅灯／ LED デイライト、尾灯、制動灯、ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

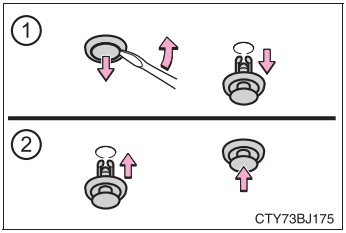
- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 234

■トランクの内張りのクリップの取り付け、取りはずし方

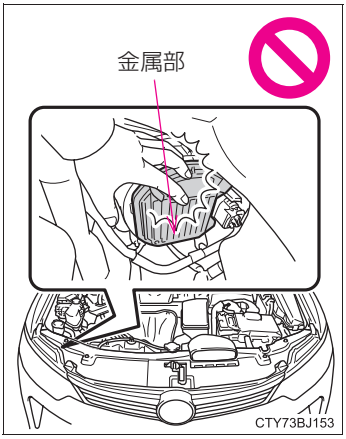
① 取りはずす
② 取り付ける



⚠警告

■電球を交換するとき

- 必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ロービーム点灯中および消灯直後はヘッドランプ裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
  やけどをすることがあります。



■ディスチャージヘッドランプについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずダイハツサービス工場にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
  瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■ けがを防ぐために

電球を交換する前に、パワースイッチを OFF にしてください。
熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

万一の場合には 7

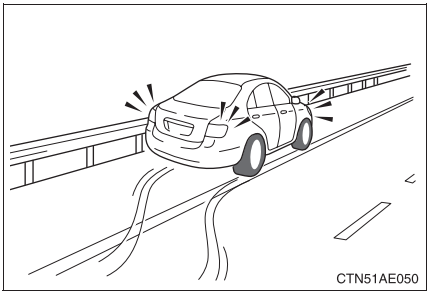
7-1. まず初めに
故障したときは……250
非常点滅灯（ハザードランプ）……251
発炎筒……252
車両を緊急停止するには……254
7-2. 緊急時の対処法
けん引について……255
警告灯がついたときは……261
警告メッセージが表示されたときは……264
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）……276
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）……286
ハイブリッドシステムが始動できないときは……300
シフトレバーがシフトできないときは……302
電子キーが正常に働かないときは……304
補機バッテリーがあがったときは……306
オーバーヒートしたときは……311
スタックしたときは……315

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

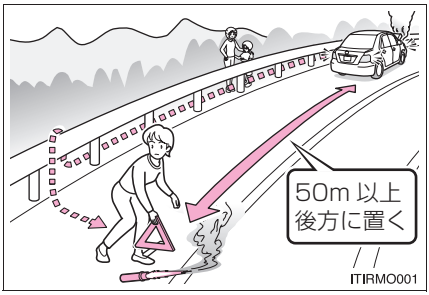
非常点滅灯（→ P. 251）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

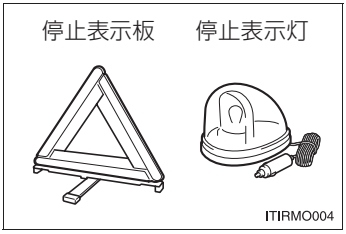
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 252）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、ダイハツサービス工場で購入することができます。

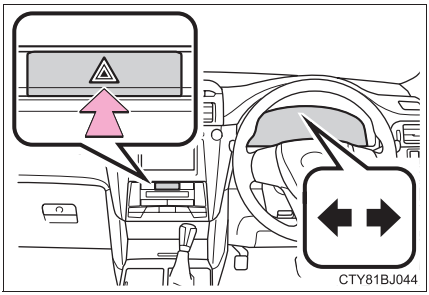


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

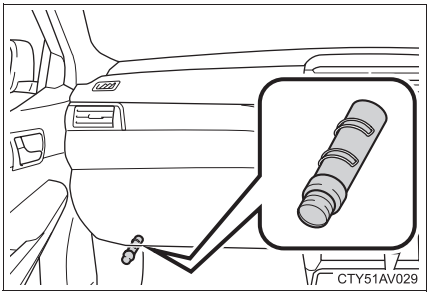
■非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

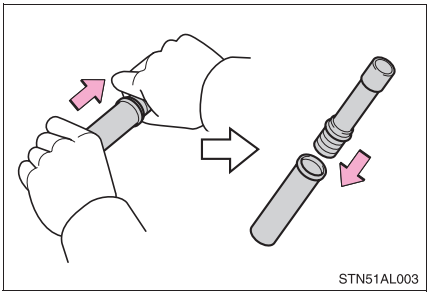
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

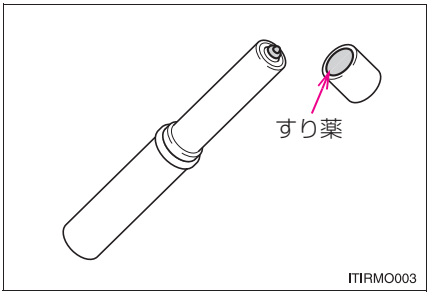


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、ダイハツサービス工場でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

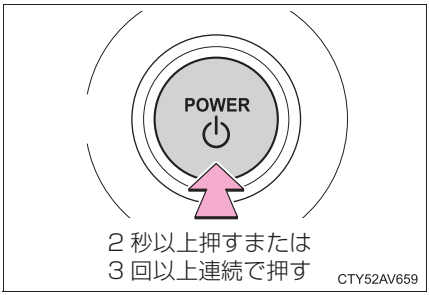
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけダイハツサービス工場または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

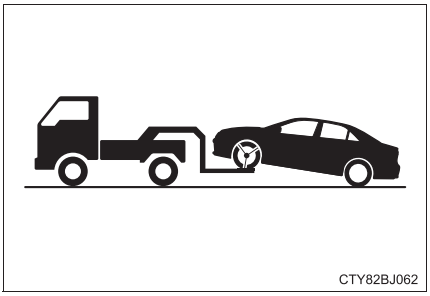
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常をしめすメッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

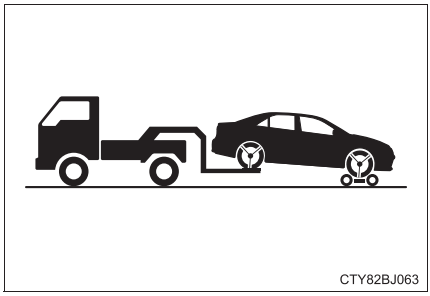
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

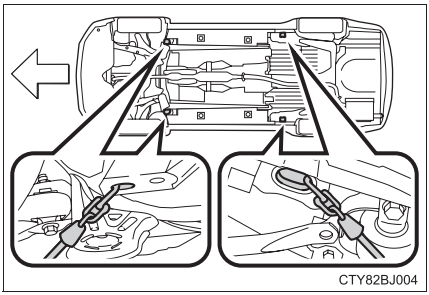
▶ うしろ向きにけん引するときは



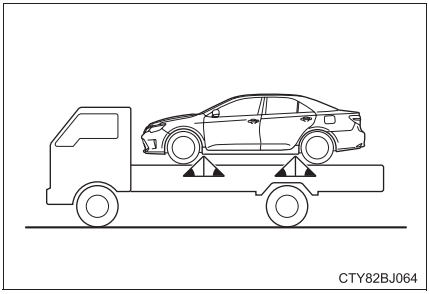
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する


CTY82BJ004

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する


CTY82BJ064

けん引されるとき

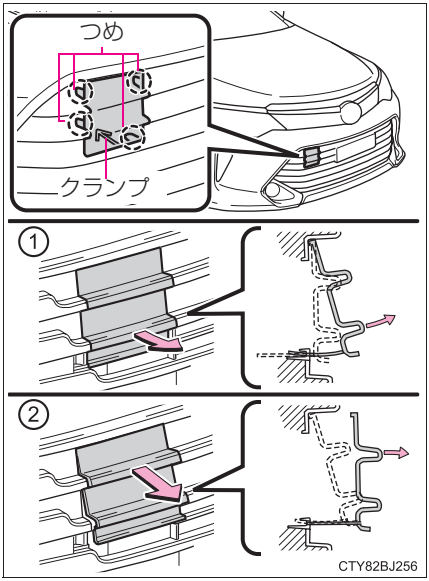
1 けん引フックを取り出す（→ P. 277）

2 フタをはずす

フタの下側とグリルはクランプでつながっているため、作業時にフタを強く引かないでください。

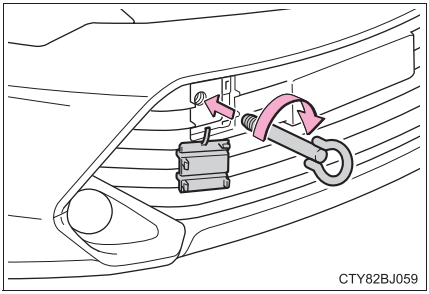
① フタの下側を手前に少し引く

② フタの上側を手前に引いてはずす

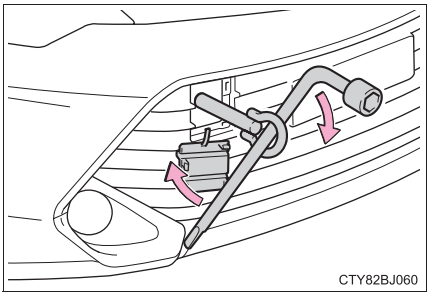


CTY82BJ256

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける



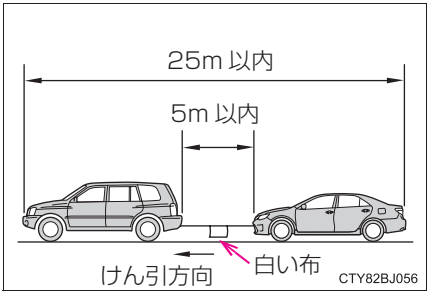
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

けん引フック取り付け穴は運転席側にあります。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 302

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

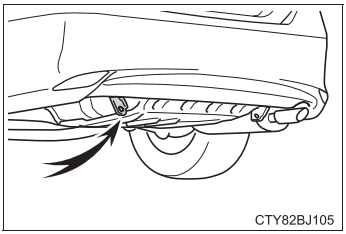
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランク内のツールトレイに搭載されています。(→ P. 277)

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

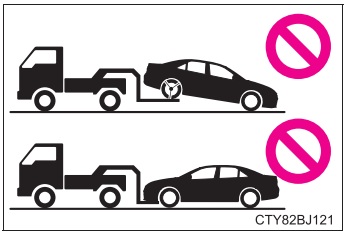

CTY82BJ105

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。


CTY82BJ121

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

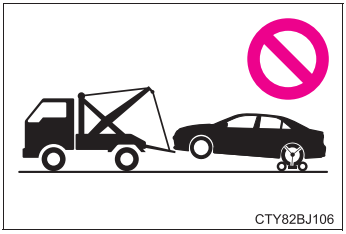
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。


CTY82BJ106

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 5km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
 （黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**エンジン警告灯** ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・ハイブリッドトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯** ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	**スリップ表示灯** ・ S-VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ABS の異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 上記のシステムの作動時には、点滅します。（→ P. 164） **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	**燃料残量警告灯** 燃料の残量が約 9.8L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	**シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※ 2）** 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	**マスターウォーニング** システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 264**
	**タイヤ空気圧警告灯** 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・ 自然要因（→ P. 263） ・ タイヤのパンク（→ P. 276） **→ 指定された空気圧に調整してください。調整して数分後に警告灯が消灯します。空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。** 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

※ 1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。
パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
→ P. 266

※ 2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 254

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 220）では解除できません。

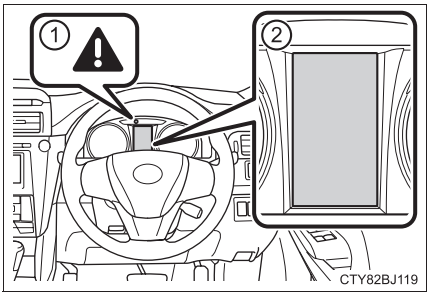
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

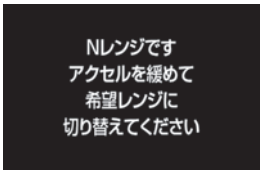
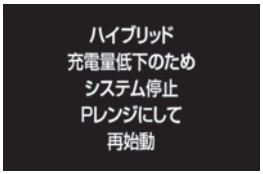
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

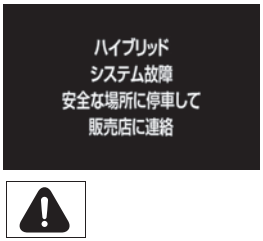
② マルチインフォメーションディスプレイ

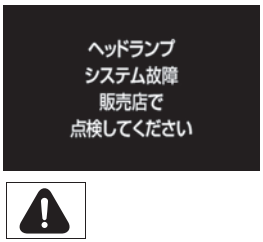


処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

警告メッセージ一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**ドアが確実に閉まっていない** 開いているドアが表示されます。 全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 **→ 開いているドアを閉める**
 	**トランクが確実に閉まっていない** トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 **→ トランクを閉める**
  （点滅）	**シフトレバーが N のとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。 **→ アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D、B または R に入れる**
  （点滅）	**長時間シフトレバーがNになっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する**

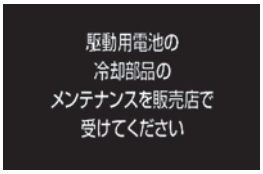
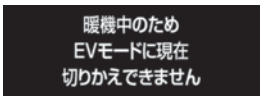
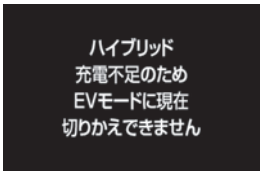
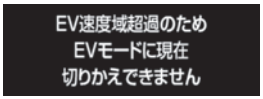
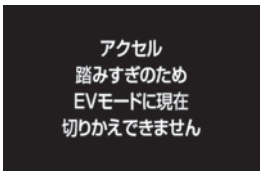
警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**ハイブリッドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
 （点滅）	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。 **→ シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P に入れる**
 （点滅）	**パーキングブレーキをかけたまま車速が 5km/h をこえた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
	**充電系統の異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	**クルーズコントロールシステムの異常** ON/OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	**ヘッドランプレベリングシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （点滅）	**ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でパワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ムーンルーフを閉める**
	**ハイブリッドシステムの過熱** 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車両を停車して点検する（→ P. 311）**
	**タイヤ空気圧の低下** **→ タイヤ空気圧を点検・調整する**

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	タイヤ空気圧警告システムの異常 → 安全な場所に停車し再度 ON モードにする。 タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅し、その後点灯した場合はシステム異常です。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	タイヤ位置の情報が電波状況などにより認識できていない → しばらく走行して表示が更新されるか確認する。 電波状況などが改善されると、通常の表示にもどる場合があります。数分走行しても空気圧が表示されない場合は、安全な場所に停車し、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度、走行してください。 数回くり返しても空気圧が表示されない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	補機バッテリーが充電不足 → 数秒後※に表示が消えたときは 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 → 表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 306）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。 ※約 6 秒間表示されます。
	ウォッシャー液が残りわずか → ウォッシャー液を補充する
	燃料の残量が約 9.8L 以下になった → 燃料を補給する
	TRC（トラクションコントロール）が OFF になっている → TRC を ON にする（→ P. 164）

その他に表示されるメッセージ

表示メッセージ	表示内容・対処方法
	**駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期** フィルターが目づまりしている、吸気口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。 **→ ダイハツサービス工場で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受けてください。**
    	**EV ドライブモードに切りかえできない状況※** EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する**

表示メッセージ	表示内容・対処方法
EVモードが 解除されました ハイブリッド 充電不足のため EVモードが 解除されました EV速度域超過のため EVモードが 解除されました アクセル 踏みすぎのため EVモードが 解除されました	**EV ドライブモードが自動解除された※** EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ しばらく走行する**

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 141 を参照してください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

→ P. 263

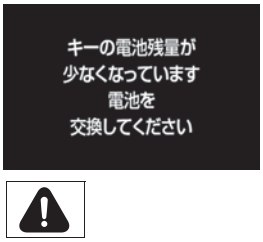
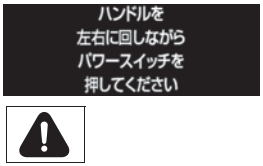
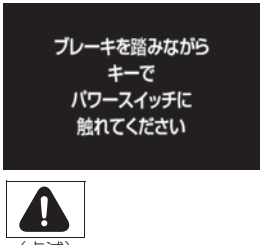
⚠ 注意

■「補機バッテリ（始動用）充電不足　取扱書を確認してください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、ダイハツサービス工場で補機バッテリーの点検を受けてください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	なし	駐車時はPレンジに入れてください  （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた **→ シフトレバーを P にする**
連続音	連続音	駐車時はPレンジに入れてください キーが見つかりません キーの所在を確認してください （交互に表示）  （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ シフトレバーを P にする** **→ 電子キーを車内にもどす**
1 回	3 回	キーが見つかりません キーの所在を確認してください  （点滅）	シフトレバーがPの状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ パワースイッチを OFF にする** **→ 電子キーを車内にもどす**
			パワースイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した **→ 電子キーを車内にもどす**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	連続音	電源を OFFしてください キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （交互に表示）  （点滅）	シフトレバーがPの状態でパワースイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした **→ パワースイッチを OFF にしたあと、再度施錠する**
1回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください  （点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした **→ 電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する**
9回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください  （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた **→ 車室内に電子キーがあるか確認する**
なし	連続音	車室内に キーがあります  （点滅）	車内に電子キーを置いたままスマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1回	連続音	車室内に キーがあります  （点滅）	車内に電子キーを置いたままフロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし		電子キーの電池残量が少ない **→ 新しい電池と交換する（→ P. 230）**
1回	なし	 （点滅）	パワースイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった **→ ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを押す**
1回	なし	 （点滅）	スマートエントリー＆スタートシステムの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
1回	なし	 （点滅）	・メカニカルキーで解錠してパワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できなかった ・パワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた **→ ブレーキを踏みながら電子キーでパワースイッチにふれる**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	始動時は ブレーキを踏みながら パワースイッチを 押してください  （点滅）	・パワースイッチが OFF の状態でドアロックを解錠し、運転席のドアを開閉した ・ハイブリッドシステムを始動せずにパワースイッチをアクセサリーモードにした **→ ブレーキを踏んでパワースイッチを押す**
1回	なし	始動時は Pレンジに 入れてください  （点滅）	シフトレバーが P 以外 の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている **→ シフトレバーを P に入れてからハイブリッドシステムを始動させる**
1回	なし	駐車時はPレンジに 入れてください  （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でパワースイッチを OFF にした **→ シフトレバーを P にする**
1回	なし	電源を OFFしてください  （点滅）	シフトレバーがP以外でパワースイッチを OFF にしたあとシフトレバーを P にした **→ パワースイッチを OFF にする**
なし	なし	バッテリ保護のため 自動で電源を OFFしました	自動電源 OFF 機能が作動した **→ 次回ハイブリッドシステム始動時に約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し補機バッテリーを充電する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	 （点滅）	電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法（→P. 305）でパワースイッチに電子キーをふれた **→ ブザーが鳴ってからブレーキを踏んでパワースイッチを押す**

知識

■警告ブザーについて

→P. 263

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 218 を参照してください）

⚠ 警告

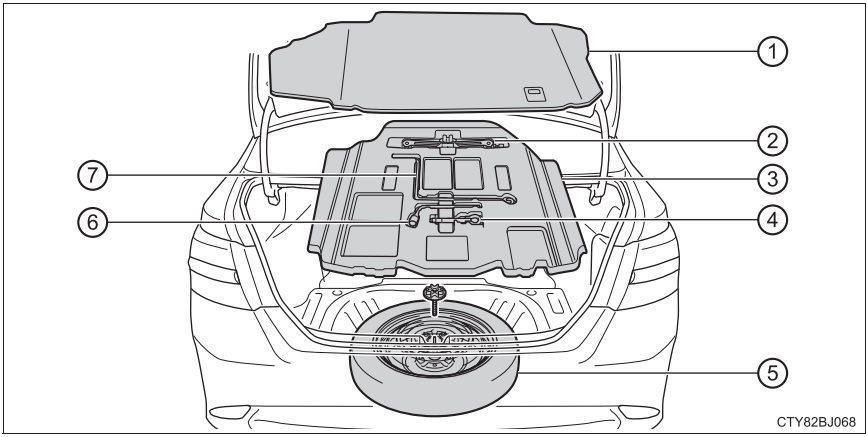
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



① ラゲージマット
② ジャッキ
③ ツールトレイ
④ けん引フック
⑤ 応急用タイヤ
⑥ ホイールナットレンチ
⑦ ジャッキハンドル

⚠ 警告

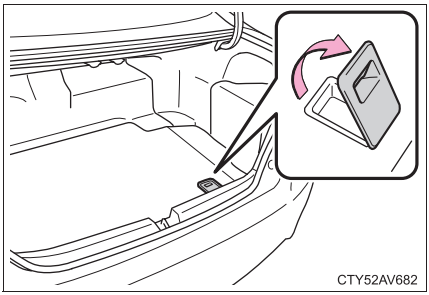
■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

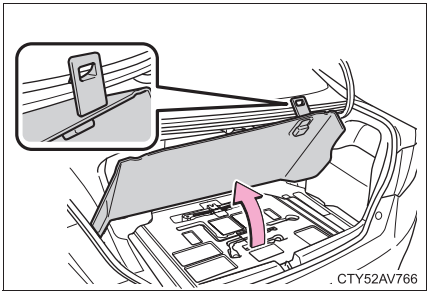
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

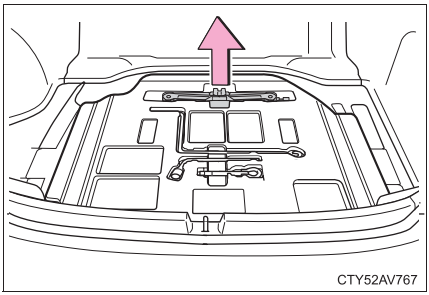
1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



2 フックを使ってラゲージマットを固定する



3 ジャッキを取り出す

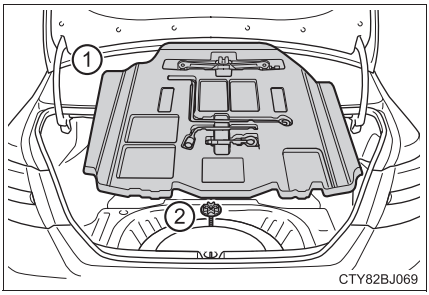


応急用タイヤの取り出し方

1 ラゲージマットを持ち上げる（→P. 279）

2 フックを使ってラゲージマットを固定する（→P. 279）

3 ツールトレイ（①）を取り出し、留め具（②）をはずして応急用タイヤを取り出す



⚠ 警告

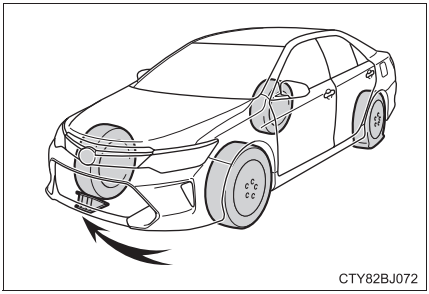
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

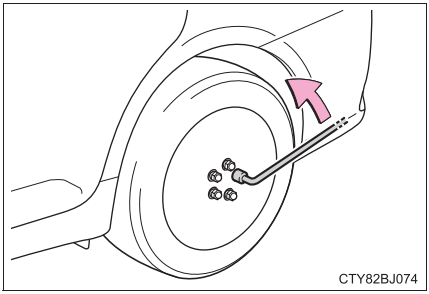
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、ダイハツサービス工場で購入することができます。

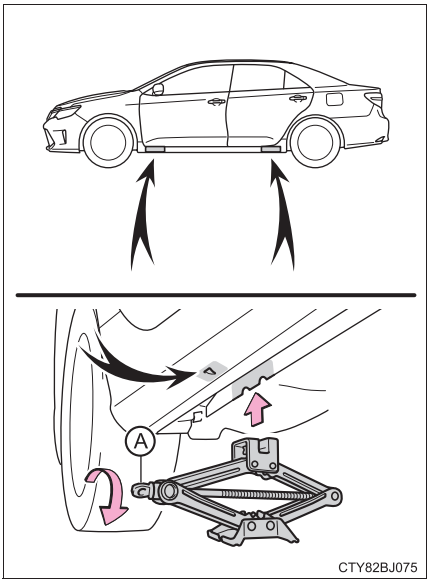


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

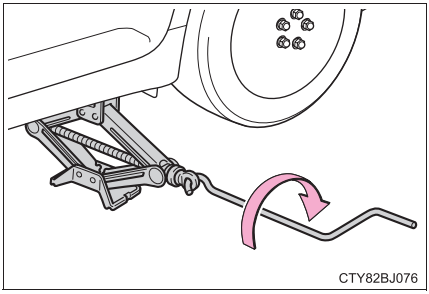

CTY82BJ074

3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



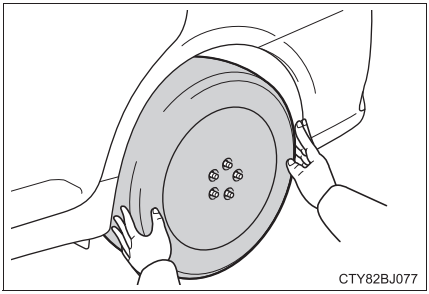
CTY82BJ075

4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる


CTY82BJ076

5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



⚠ 警告

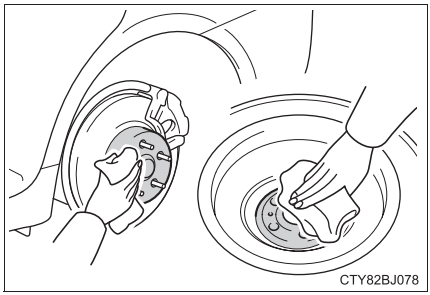
■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ねじ部にオイルやグリースを塗らない
    ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
  - ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
  - タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
  - ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
  - ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
    （→ P. 224）

応急用タイヤの取り付け

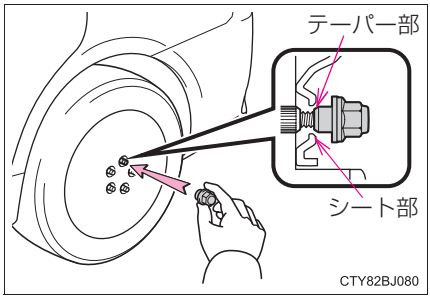
1 ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

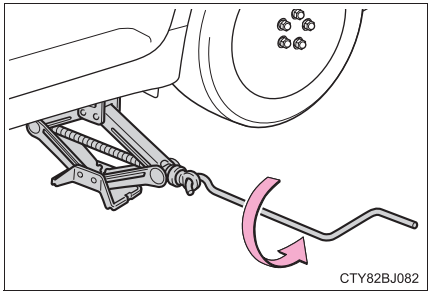


2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

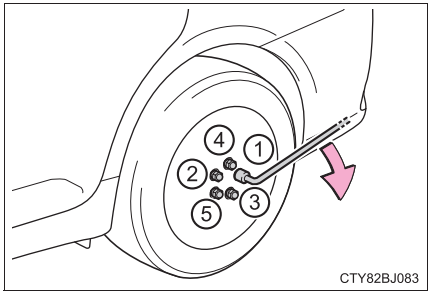


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 321）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

⚠ 警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- S-VSC
- クルーズコントロール
- ナビゲーションシステム★
- TRC
- EPS

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 289）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 警告

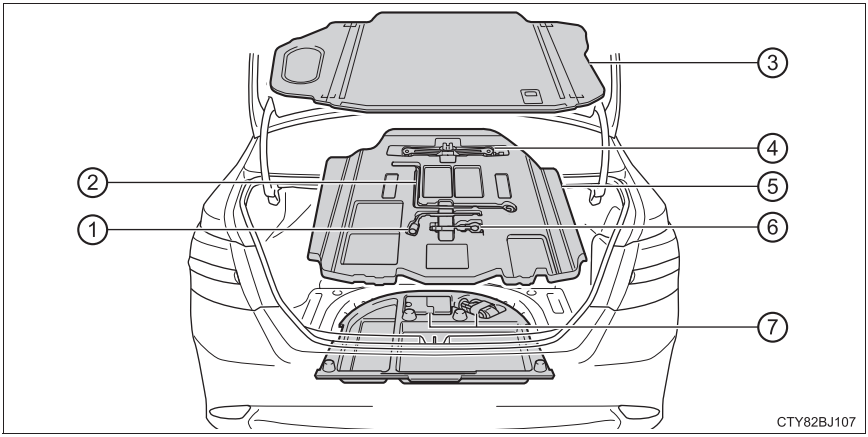
■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

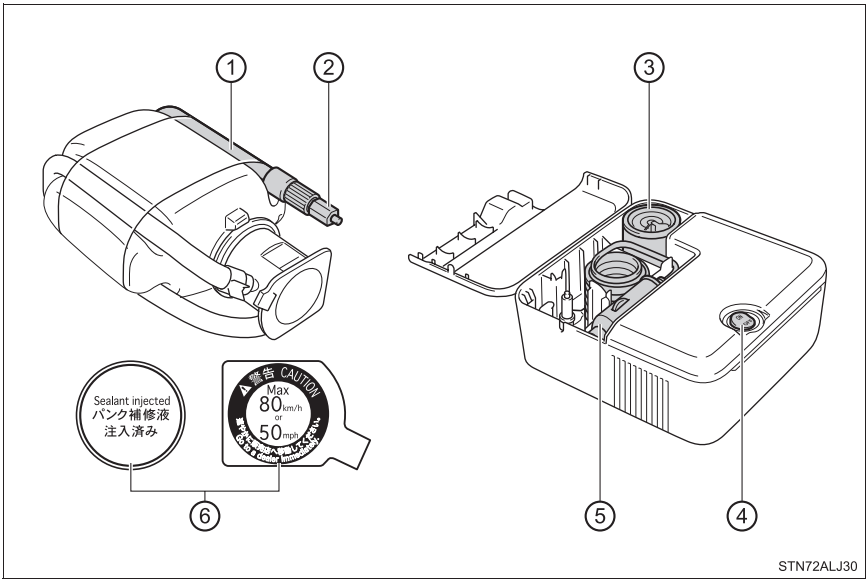
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① ホイールナットレンチ
② ジャッキハンドル
③ ラゲージマット
④ ジャッキ※
⑤ ツールトレイ
⑥ けん引フック
⑦ タイヤパンク応急修理キット

※ ジャッキの使い方（→ P. 280）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



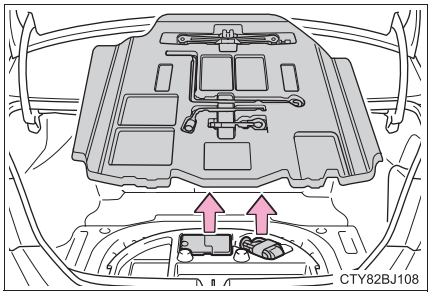
① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 空気圧計
④ 電源スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ ラベル

応急修理キットの取り出し方

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる（→ P. 191）

2 フックを使ってラゲージマットを固定する（→ P. 191）

3 ツールトレイを取り出し応急修理キットを取り出す

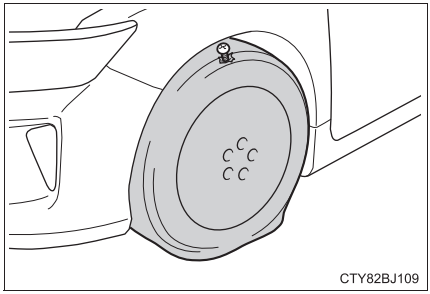


応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

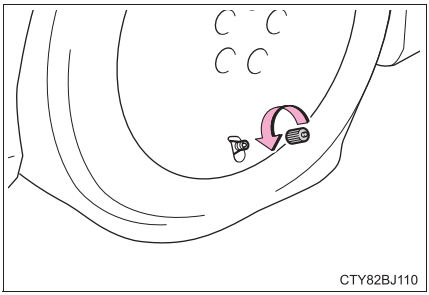


・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

応急修理するとき

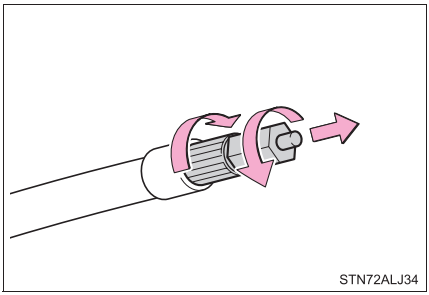
1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす


CTY82BJ110

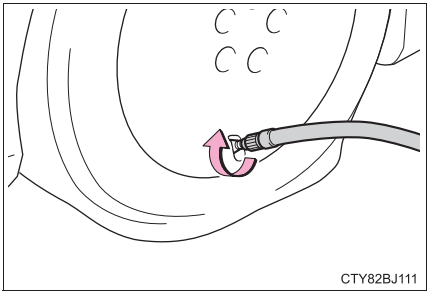
3 ボトルの保護フィルムをはがしてホースをのばし、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは指定の位置へ貼り付けます。（9へ）空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

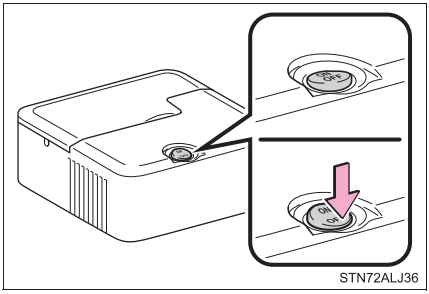

STN72ALJ34

4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

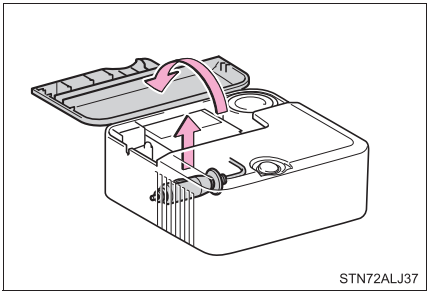

CTY82BJ111

5 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する

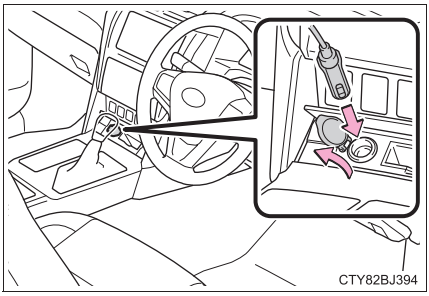


STN72ALJ36

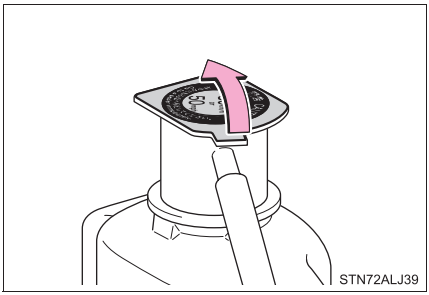
6 フタを開けてコンプレッサーの電源プラグをはずす



7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 194）

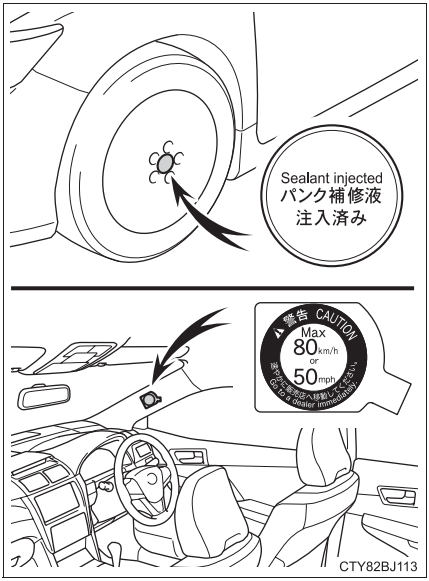


8 速度制限ラベルをはがす



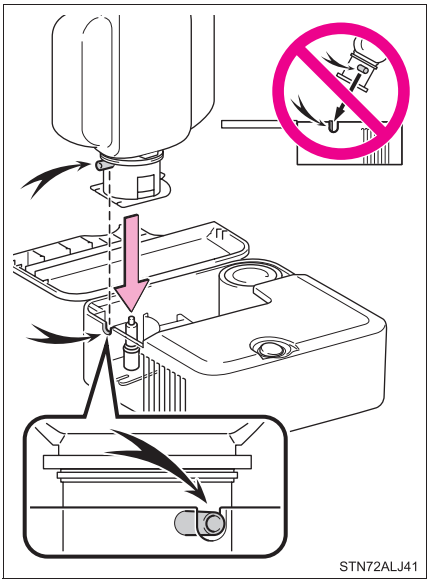
9 付属のラベル２枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、ダイハツサービス工場にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



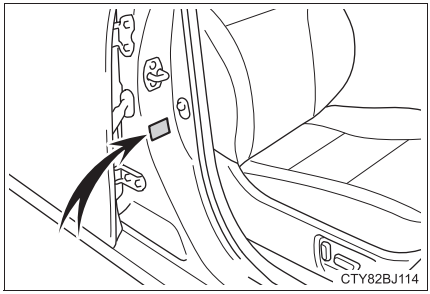
10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



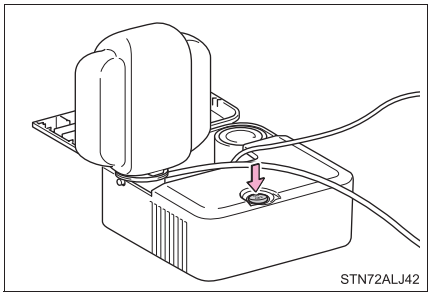
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 221)



12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

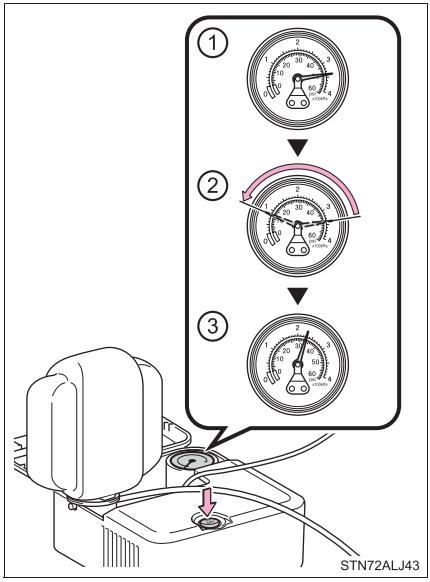
① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→ P. 221, 321)

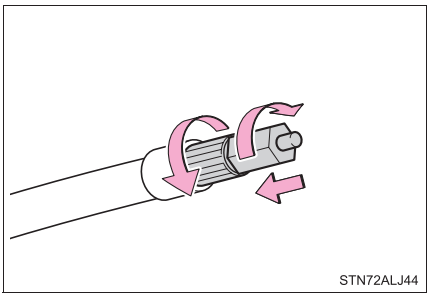
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

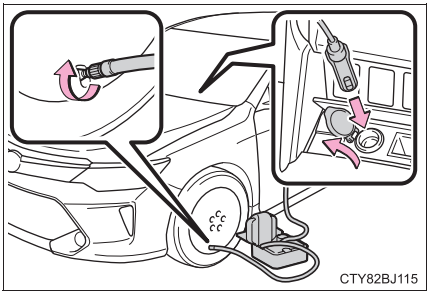
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。


STN72ALJ44

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）

20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

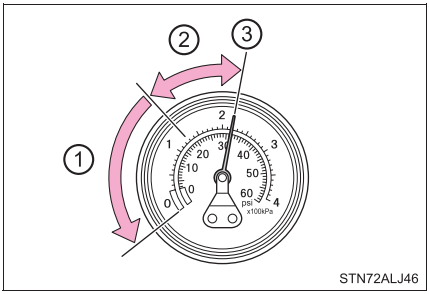

CTY82BJ115

21 コンプレッサーのスイッチを約5秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

① 空気圧が 130 kPa (1.3 kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

② 空気圧が 130 kPa (1.3 kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合：22 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 221）の場合：23 へ

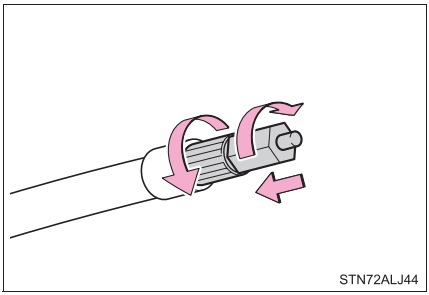


STN72ALJ46

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してダイハツサービス工場へ行く

タイヤの修理・交換についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急（パンク）修理キットを使用したとき

- ●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- ●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

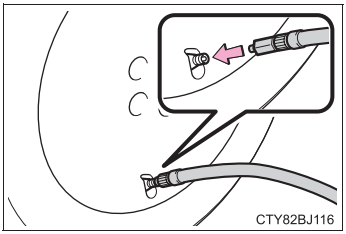
■応急修理キットについて

- ●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ●外気温度が− 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- ●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- ●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- ●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- ●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠ 警告

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

⚠警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- ●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- ●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- ●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- ●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- ●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- ●作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- ●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- ●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。
- ●応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- ●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- ●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- ●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130 kPa（1.3 kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 135）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 305）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 61）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 301）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 306）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→ P. 213）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 306）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→ P. 213）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

3 パワースイッチをアクセサリーモードにする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。ただし、一時的な処置（やむを得ず車を移動させる必要がある場合）として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

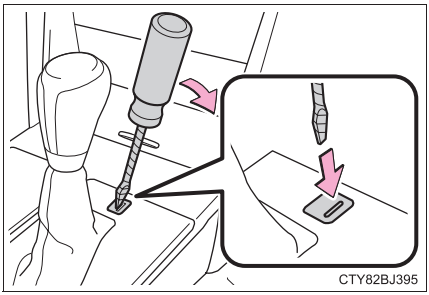
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 パワースイッチをアクセサリーモードにする (→P. 136)

3 ブレーキペダルを踏む

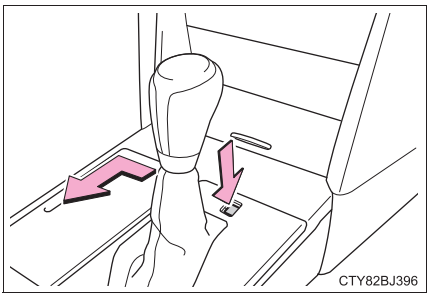
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。


CTY82BJ395

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


CTY82BJ396

⚠ 警告

■事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押す際は、ブレーキペダルを確実に踏んでください。

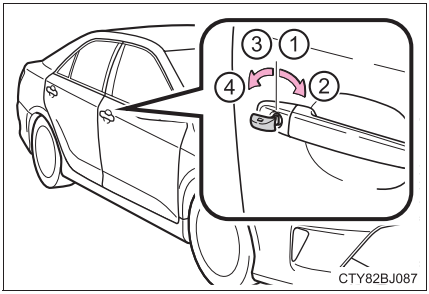
誤ってアクセルペダルを踏んでいるときに、シフトロック解除ボタンを押してシフト操作を行うと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 102）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、キー連動操作

メカニカルキー（→P. 85）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ ダイハツサービス工場での設定が必要です。（→P. 323）

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

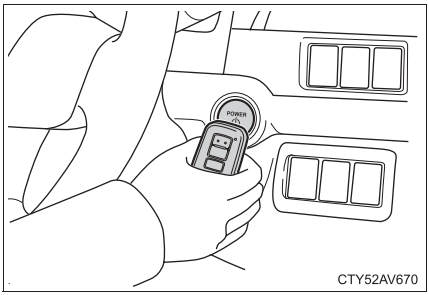
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのダイハツエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 230)

■電子キーが正常に働かない場合について

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 323)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 101)

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 136)

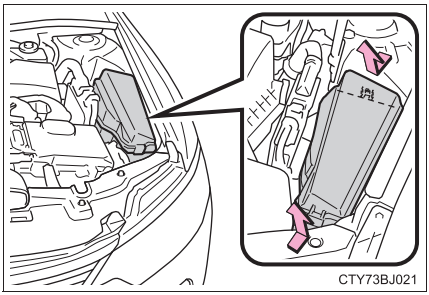
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

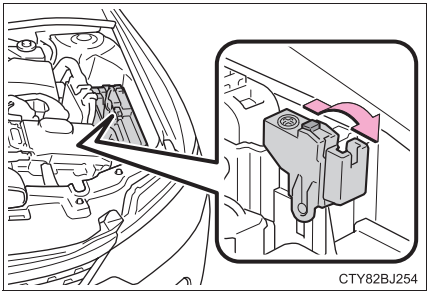
1 ボンネットを開けてヒューズボックスのカバーを開ける

ツメを押しながら、カバーを持ち上げてはずします

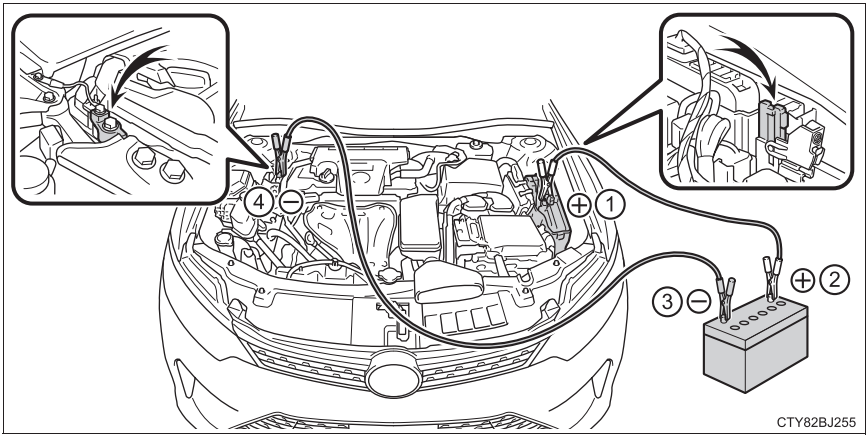


2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを押しながら、カバーを開けます



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

5 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はダイハツサービス工場にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーについて

→ P. 213

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●パワースイッチを　OFF　にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

●補機バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリーがあがったあとの、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

⚠ 警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにダイハツサービス工場で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→P. 214

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援しないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 68）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温」（→ P. 267）が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 水温計の針がレッドゾーンに入ったとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

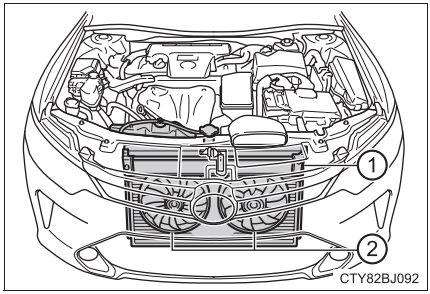
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



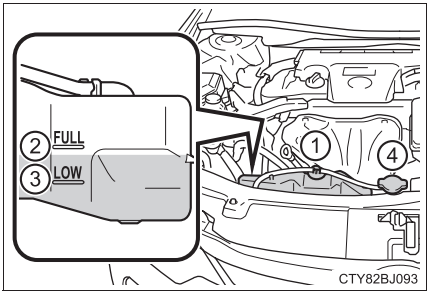
4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

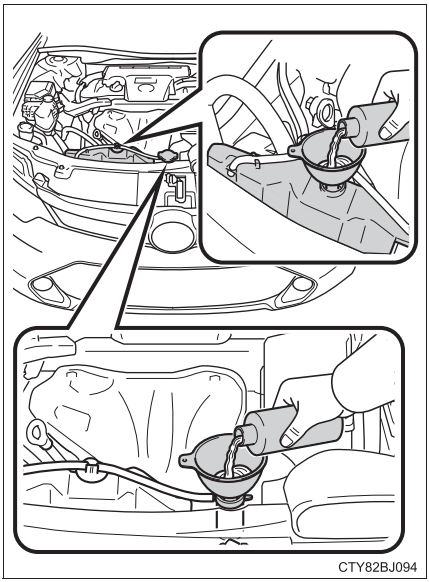
③ “LOW”（下限）

④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

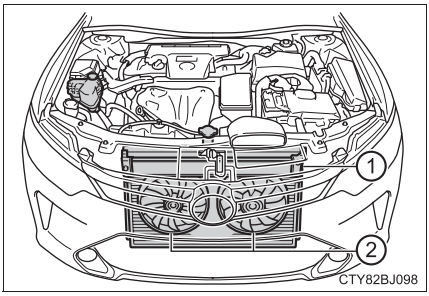
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。

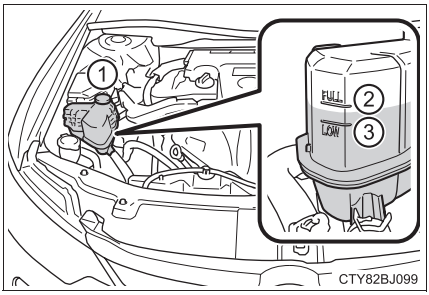


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

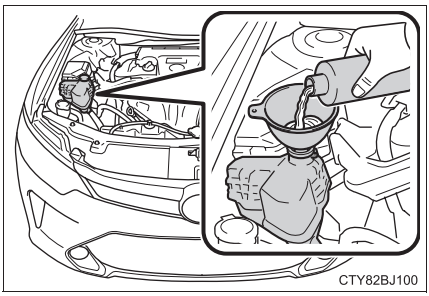
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してダイハツサービス工場に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムを停止したときは、パワースイッチ上のインジケーターと READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
  ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

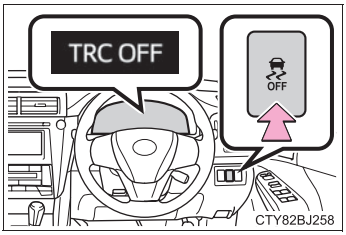
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 ハイブリッドシステムを再始動する
5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押してTRCをOFFにしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....318
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....323

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	65

エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
アミックスモーターオイル ・ SAE 0W-20 ※2SM 以上 ・ SAE 5W-30 SM 以上	2AR-FXE	4.0	4.4

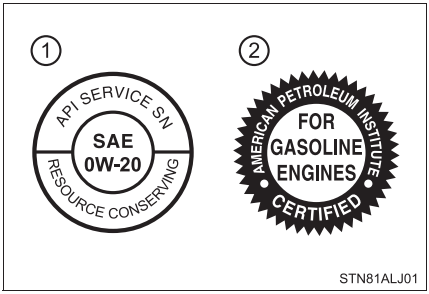
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

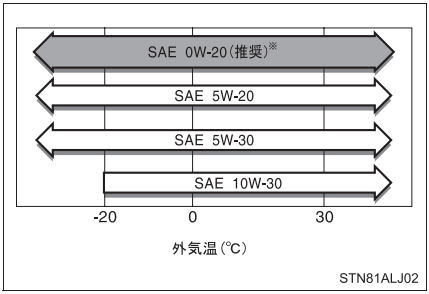
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：
・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
アミックスロングライフクーラント（高防錆力タイプ）	ガソリンエンジン	7.2
	インバーター	3.2

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.7

※ 交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1～6
踏み込んだときの床板とのすき間※	95

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（31kgf）のときのノッチ※数	7～10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
標準タイヤ	215/55R17 93V	17 × 7J	240 (2.4)
応急用タイヤ★	T155/70D17 110M	17 × 4T	420 (4.2)

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：HB3) ロービーム（ディスチャージヘッドランプ）	 60 35
	フロントフォグランプ (バルブタイプ：H11)	55
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	番号灯	5
車内	バニティランプ	8
	フロントインテリア／パーソナルランプ	5
	リヤインテリア／パーソナルランプ	8
	ドアカーテシランプ	5
	トランクランプ	3.8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
AVV50N	2AR-FXE (2.5 L ガソリン)	2JM	FF（前輪駆動）

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。ダイハツサービス工場で作動などをご希望の設定に変更することができます。
また、ナビゲーションシステム★の画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 設定ボタンを押し、「設定・編集」を選択する

2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 74

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

③ ダイハツサービス工場で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 68, 72）

機能※	初期設定	変更後	①	②	③
言語	日本語	英語	—	○	○
単位	km/L	L/100 km	—	○	○
EV 表示	あり（自動点灯）	なし	—	○	○
ドライブインフォ	距離（リセット間）	表示項目を選択できます→ P. 73	—	○	○
	平均車速（リセット間）				
割込表示	あり	なし	—	○	○
アクセントカラー	青	緑	○	○	○
		赤			
		黄			

※ 機能についての詳しい説明は P. 74 を参照してください

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② ダイハツサービス工場で設定変更可能

■ **ドアロック（→ P. 88, 95, 304）**

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
キーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
車速感応オートロック	あり	なし	○	○
シフト連動オートロック	なし	あり	○	○
シフト連動オートアンロック	あり	なし	○	○
運転席ドア連動オートアンロック	なし	あり	○	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	―	○

■ **スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 88, 99）**

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	○
作動の合図（ブザー）	あり	なし	○	○
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF ～ レベル 7	○	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	―	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	○	○
		120 秒		

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P. 88, 95, 99）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	○
連続してできる施錠操作の回数	2回	無制限	―	○
解錠ドアの選択	全席	運転席	○	○

■ ワイヤレスドアロック（→P. 88, 95）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	―	○
解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠	○	○
トランク解錠時の操作	長押（短）	短押し	―	○
		2回押し		
		長押（長）		
		禁止		

■ パワーウインドウ（→P. 118）、ムーンルーフ★（→P. 121）共通

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドアキー連動開閉機能	なし	あり	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	―	○
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし	―	○

■ ムーンルーフ★（→P. 121）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	―	○
ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ	―	○

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 148）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準（0）	-2 ～ 2	○	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	○

■ ランプ（→ P. 148）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト	あり	なし	―	○

■ 車両接近通報装置（→ P. 53）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
音圧調整	レベル 1	レベル 2	―	○
		レベル 3		

■ エアコン（→ P. 176）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	○
エコドライブモード時のエアコン制御※	する	しない	―	○

※ エアコン制御を変更すると、変更前に比べてエコドライブモードの燃費性能は若干低下します。

■ イルミネーション（→P. 184）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	―	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	―	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	―	○
インサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	―	○

知識

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

⚠ 警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....330
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....333
アルファベット順さくいん.....335
五十音順さくいん.....336

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ITS スポット対応 DSRC システム
・ハンズフリー
・T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、ダイハツサービス工場にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、ダイハツサービス工場でダイハツ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 85）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。（→ P. 87）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 230）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 136）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 102）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 91）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→ P. 96）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P. 135）
- シフトレバーはPになっていますか？（→P. 138）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P. 100）
- ステアリングロックされていませんか？（→P. 138）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P. 305）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P. 306）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーがPから動かない

- パワースイッチはONモードになっていますか？
  パワースイッチがONモードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P. 302）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P. 138）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P. 118）

パワースイッチが自動的にOFFになった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源OFF機能が作動します。（→P. 137）

警告音が鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 333）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 261、264 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 応急用タイヤ装着車
車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 276）

● タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 286）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 315）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 272
	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 271
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 123
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 96
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 273
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 100
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 272

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 265
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 266
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 262
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 130

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 176
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 163, 261
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキ）. 163
ECO
（エコノミー／エコロジー）. 144
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 163
EV
（エレクトリックビークル）. 141
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 322
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 319
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 38, 45
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. 163
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 30, 261
TRC
（トラクションコントロール）. 163
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 163

五十音順さくいん

あ

アームレスト
（リヤアームレスト）..... 202
アウターミラー（ドアミラー）... 115
操作 115
アクセサリーソケット..... 194
アクセサリーモード..... 136
アシストグリップ..... 202
足元照明 184
ワット数..... 322
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..... 163
ABS &ブレーキアシスト
警告灯..... 261
アンテナ（スマートエントリー&
スタートシステム）..... 99

い

EV ドライブモード..... 141
EV 表示 74
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ）..... 135
位置交換
（タイヤローテーション）..... 218
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 61
イルミネーテッドエントリー
システム 185
インジケーター
ハイブリッドシステム
インジケーター 70
表示灯..... 66
READY..... 135
インテリアランプ..... 184
インナーミラー..... 114

う

ウインカー（方向指示灯）.....146
電球（バルブ）の
交換 238, 242
方向指示レバー.....146
ワット数 322
ウインドウ.....118
ウォッシャー 153
パワーウインドウ.....118
リヤウインドウ
デフォッガー.....178
ウインドウロックスイッチ.....118
ウォーニングメッセージ.....264
ウォーニングランプ（警告灯）....261
ウォッシャー.....153
液の補充 217
スイッチ 153
タンク容量 321
冬の前の準備・点検.....171
動けなくなったときは
（スタック）.....315
運転 126
運転を補助する装置.....163
寒冷時の運転 171
正しい運転姿勢.....24
手順.....126
ハイブリッド車運転の
アドバイス.....169

え

エアコン
オートエアコン 176
フィルターの交換 228
エアバッグ 30
SRS エアバッグ警告灯 261
作動条件 34
配置 30
エコドライブモード 144
ESPO 画面 79
エネルギーモニター 77
LED デイライト 149
エレクトリック
パワーステアリング（EPS）.... 163
機能 163
パワーステアリング警告灯 ... 261
エンジン
イモビライザーシステム 61
エンジン警告灯 261
エンジンスイッチ 135
オーバーヒート 311
ハイブリッドシステムの
始動方法 135
パワースイッチ
（イグニッションスイッチ／
エンジンスイッチ）..... 135
ボンネット 213
エンジンオイル 318
警告メッセージ 267
冬の前の準備・点検 171
メンテナンスデータ 318
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 135
エンジンフード（ボンネット）....213
開け方 213
エンジンルーム
エンジンルームから
蒸気が出ている 311

お

オイル（エンジンオイル）..... 318
応急用タイヤ 276
空気圧 321
交換方法 276
オーディオ※
オートドアロック・
アンロック機能 91
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 149
オーバーヒート 311
オープナー
トランク 95
ボンネット 213
お子さまを乗せるとき 37
ウインドウロックスイッチ 118
お子さまの安全のために 37
子供専用シート 38
シートベルトの着用 27
チャイルドシートの取り付け ... 45
チャイルドプロテクター 91
オドメーター 68
機能 68
表示の切りかえ・
リセットボタン 69

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

か

カーテシランプ
装着位置 184
ワット数 322
カーテンシールドエアバッグ 30
カーペット 211
洗浄 211
フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 68
回生ブレーキ 54
外装の電球（バルブ） 236
交換要領 236
ワット数 322
買い物フック 191
ガス欠になったとき 58
給油 156
カスタマイズ機能 323
型式 322
カップホルダー 189
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 178
ガレージジャッキ 216
冠水路走行 133
寒冷時の運転 171

き

キー 84
キーナンバープレート 84
キーの構成 84
キーレスエントリー 88, 95
キーをなくした 85, 87
正常に働かない 304
施錠・解錠ができない 304
電子キー 84
電池が切れた 230, 304
ハイブリッドシステムが始動できない 305
メカニカルキー 85, 304
ワイヤレスリモコン 88, 95
キーレスエントリー 99
スマートエントリー&スタートシステム 99
ワイヤレスドアロック 88, 95
給油 156
給油のしかた 156
メンテナンスデータ 318
緊急時シートベルト固定機構 27
緊急始動機能（ハイブリッドシステム） 301
緊急時の対処
オーバーヒートした 311
キーの電池が切れた 230, 304
警告灯がついた 261
警告メッセージが表示された 264
けん引 255
故障したときは 250
車両を緊急停止する 254
スタックした 315
電子キーが正常に働かない 304
ハイブリッドシステムが始動できない 300
発炎筒 252
パンクした 276, 286
補機バッテリーがあがった 306
緊急停止システム 57

く

空気圧（タイヤ）..... 321
メンテナンスデータ 321
区間距離計（トリップメーター）... 68
機能 68
切りかえ・リセットボタン..... 69
駆動用電池 56
警告メッセージ..... 266
充電について..... 54
搭載位置..... 56
冷却用吸入口..... 57
曇り取り
ミラーヒーター 178
リヤウインドウデフォッガー 178
クラクション（ホーン）..... 112
クリアランスランプ（車幅灯）... 148
スイッチ..... 148
電球（バルブ）の交換..... 244
クリップ
フロアマット..... 22
クルーズコントロール..... 159
クルーズコントロール..... 159
警告メッセージ..... 266
グローブボックス..... 187
グローブボックスランプ 187

け

警音器（ホーン）..... 112
計器類（メーター）..... 68
照度調整 69
マルチインフォメーションディスプレイ..... 72
メーター 68
警告灯..... 65, 261
ABS &ブレーキアシスト..... 261
SRS エアバッグ 261
エンジン 261
シートベルト非着用..... 262
スリップ表示灯..... 262
タイヤ空気圧 262
電子制御ブレーキ..... 261
燃料残量 262
パワーステアリング..... 261
プリテンショナー..... 261
ブレーキ 261
マスターウォーニング 262
警告ブザー
シートベルト非着用..... 262
パーキングブレーキ未解除走行時..... 262, 266
パワーステアリング..... 263
半ドア 89, 100, 265
半ドア走行時 265
ヒルスタートアシストコントロール制御..... 163
ブレーキ 262
ムーンルーフ開..... 123, 267
リバース 144
警告メッセージ..... 264
化粧ミラー（バニティミラー）.... 193
けん引..... 255
けん引されるとき..... 255
フック 256

こ

交換
エアコンフィルターの交換.... 228
キーの電池..... 230
タイヤ..... 276
電球（バルブ）..... 236
ヒューズ 232
工具（ツール）..... 277
航続可能距離 81
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換..... 236
ワット数 322
高電圧部位 56
コーションラベル..... 56
コートフック 203
子供専用シート..... 38
選択方法..... 38
取り付け方 45
小物入れ 190
コンソールボックス..... 187
コンライト
（自動点灯・消灯装置）..... 148

さ

サービスプラグ 56, 59
サイドエアバッグ 30
サイド方向指示灯 146
電球（バルブ）の交換.....244
方向指示レバー.....146
サイドミラー（ドアミラー）.....115
操作.....115
サンシェード
ムーンルーフ 122
サンバイザー.....193

し

シート.....106, 108
子供専用シート.....38
正しい運転姿勢.....24
調整.....106
手入れ.....210
ヘッドレスト 110
シートベルト.....26
お子さまの着用.....27, 28
緊急時シートベルト固定機構 ...27
シートベルト非着用警告灯 262
高さ調整 26
正しく着用するには.....26
着け方・はずし方.....26
手入れ.....211
妊娠中の方の着用 28
シートベルト非着用警告灯.....262
シートベルトプリテンショナー.....27
機能.....27
プリテンショナー警告灯 261
事故が発生したとき
（ハイブリッドシステムの
注意）.....59

室内灯（インテリアランプ）..... 184
始動のしかた 135
シフトポジション..... 144
シフトレバー 143
　シフトポジションの
　　切りかえ 143
　シフトロックシステム
　（解除ボタン）..... 302
　操作 143
　リバース警告ブザー 144
シフトレバーが
　シフトできないときは 302
締め付けトルク（ホイール）..... 283
ジャッキ
　ガレージジャッキ 216
　車載ジャッキ 277
ジャッキハンドル..... 277
車幅灯 148
　LED デイライト..... 149
　電球（バルブ）の交換..... 244
　ランプスイッチ 148
車両型式 322
車両仕様（スペック）..... 318
車両接近通報装置..... 53
車両データの記録..... 7
車両を緊急停止するには 254
ジュニアシート..... 39
瞬間燃費 73
仕様（車両仕様）..... 318
衝撃感知ドアロック
　解除システム..... 93
初期設定 119, 123, 324

す

スイッチ
　アクセサリーソケット 194
　EV ドライブモード..... 141
　イグニッション..... 135
　ウインドウロック..... 118
　ウォッシャー 153
　エコドライブモード..... 144
　オーディオ※
　クルーズコントロール 159
　シート調整 106
　車両接近通報一時停止 53
　ステアリング
　　スイッチ 73, 195
　電話※
　ドアミラー 115
　ドアロック 90
　トーク※
　パワーウインドウ..... 118
　パワースイッチ..... 135
　非常点滅灯
　（ハザードランプ）..... 251
　非接触充電器 196
　VSC OFF..... 164, 165
　フォグランプ 151
　フロントワイパー
　　デアイサー..... 178
　ヘルプネット※
　ホーン（警音器）..... 112
　ムーンルーフ 121
　メーター操作 73
　ランプ 148

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リセット（タイヤ空気圧警報システム）..... 220
リヤウインドウデフォッガー..... 178
ワイパー 153
ワイヤレス充電器..... 196
スタック..... 315
ステアリングホイール（ハンドル）..... 112
位置調整..... 112
ステアリングスイッチ..... 73, 195
ステアリングロック..... 138
解除できないとき..... 138
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 164
電球（バルブ）の交換 244
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 171
スピードメーター..... 68
スペアタイヤ（応急用タイヤ）... 276
空気圧..... 321
交換方法 276
スペック（車両仕様）..... 318
スマートエントリー&スタートシステム..... 99
アンテナの位置..... 99
カスタマイズ設定..... 323
警告ブザー..... 100
警告メッセージ..... 272
作動範囲..... 100
正常に働かないとき..... 304
節電機能..... 101
電波がおよぼす影響について..... 105
ドアの解錠・施錠..... 88
トランクの解錠..... 95
ハイブリッドシステムの始動 135
スモールランプ（車幅灯）..... 148
電球（バルブ）の交換..... 244
ランプスイッチ..... 148
スリップ表示灯..... 262

せ

清掃 206, 210
アルミホイール 207
外装 206
シートベルト 211
内装 210
制動灯
緊急ブレーキシグナル 164
電球（バルブ）の交換 244
積算距離計（オドメーター） 68
機能 68
表示の切りかえ・リセットボタン 69
セキュリティインジケーター 61
センサー
湿度センサー 180, 183
ライトセンサー 149
洗車 206
前照灯（ヘッドランプ） 148
電球（バルブ）の交換 237, 244
ライトセンサー 149
ランプ消し忘れ防止機能 149
ランプスイッチ 148
センターパネル小物入れ 190

そ

走行モード（ドライブモード） 141
送信機（タイヤ空気圧警報システム） 219
速度計（スピードメーター） 68

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯） 146
電球（バルブ）の交換 238, 242, 244
方向指示レバー 146
ワット数 322
タイヤ 218
応急用タイヤ 276
空気圧 226, 321
交換 276
締め付けトルク 283
点検 218
パンク応急修理キット 286
パンクしたときは 276, 286
ホイールサイズ 321
ローテーション（位置交換） 218
タイヤが空まわりする（スタックした） 315
タイヤ空気圧警報システム 219
ID コードの登録・選択 220
機能について 219
空気圧バルブ／送信機について 219
初期化 220
タイヤ空気圧警告灯 262
タイヤチェーン 171
単位 74

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 171
チャイルドシート..... 38
ISOFIX バーでの
取り付け..... 41, 46
シートベルトでの固定..... 40, 46
選択方法..... 38
チャイルドプロテクター..... 91
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 147
警告灯..... 261
警告メッセージ..... 266
操作..... 147
未解除走行時
警告ブザー..... 261, 266
メンテナンスデータ..... 321

つ

ツール（工具）..... 277

て

手入れ..... 206, 210
アルミホイール..... 207
外装..... 206
シートベルト..... 211
内装..... 210
ディスプレイ..... 72
エネルギーモニター..... 78
警告メッセージ..... 264
設定..... 74
ドライブインフォメーション..... 73
ナビゲーション
システム連携..... 72
テールランプ（尾灯）..... 148
電球（バルブ）の交換..... 244
ランプスイッチ..... 148
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 178
電気モーター..... 56
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 236
ワット数..... 322
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 318
電子キー..... 84
作動範囲..... 100
正常に働かないとき..... 304
節電機能..... 101
電池が切れた..... 304
電池交換..... 230
電池交換（キー）..... 230
電話スイッチ※

と

ドア 88
オートドアロック・アンロック機能 91
警告メッセージ 265
衝撃感知ドアロック解除システム 93
スマートエントリー&スタートシステム 99
チャイルドプロテクター 91
ドアガラス 118
ドアロックスイッチ 90
半ドア走行時警告ブザー 265
ロックレバー 90
ワイヤレスリモコン 88
ドアカーテシランプ 184
位置 184
ワット数 322
ドアハンドル照明 184
ドアミラー 115
操作 115
ミラーヒーター 178
盗難防止装置
イモビライザーシステム 61
トークスイッチ※
時計 194
トップテザーアンカー 45
ドライブインフォメーション 73
トラクションコントロール（TRC） 163
トランク 95
オープナー 95
キー閉じ込み防止機能 96
警告メッセージ 265
電子キーが正常に働かないとき 304
トランク内の装備 191
ワイヤレスリモコン 95
トランクランプ 96
ワット数 322
トランスミッション 143
操作 143
メンテナンスデータ 320
トリップメーター 68
機能 68
切りかえ・リセットボタン 69

な

内装
収納装備 186
手入れ 210
「ナノイー」 178
ナビゲーションシステム※

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

に

ニーエアバッグ.....30
荷物
積むときの注意.....134
トランク.....95, 191

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....315

ね

燃費
瞬間燃費.....73
平均燃費.....73
燃費画面.....81
燃料.....318
給油.....156
種類.....318
燃料残量警告灯.....262
容量.....318
燃料計.....68

は

パーキングブレーキ.....147
警告メッセージ.....266
操作.....147
ブレーキ警告灯.....261
未解除走行時
警告ブザー.....261, 266
メンテナンスデータ.....321
パーソナルランプ.....185
ワット数.....322
排気ガス.....51
ハイビーム（ヘッドランプ）.....148
電球（バルブ）の交換.....237
ランプスイッチ.....148
ハイブリッドシステム.....52
EV ドライブモード.....141
運転のアドバイス.....169
エネルギーモニター.....77
オーバーヒート.....311
回生ブレーキ.....54
ガス欠になったとき.....58
緊急始動機能.....301
緊急時の停止方法.....254
緊急停止システム.....57
駆動用電池冷却用吸入口.....57
警告メッセージ.....266
高電圧部位.....56
サービスプラグ.....56, 59
事故が発生したとき.....59
始動できないときは.....300
始動方法.....135
車両接近通報装置.....53
充電.....54
注意.....56
特徴.....52
特有の音と振動.....55
パワー（イグニッション）スイッチ.....135
補機バッテリーがあがった.....306
メンテナンス・修理・廃車するとき.....55

ハイブリッドシステム
インジケーター....70
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換....244
ハザードランプ（非常点滅灯）...251
スイッチ....251
電球（バルブ）の
交換....238, 242, 244
ワット数 322
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 118
ムーンルーフ....122
発炎筒....252
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換....243
ワット数 322
バッテリー（駆動用電池）....56
充電警告メッセージ 265
充電について....54
搭載位置....56
冷却用吸入口....57
バッテリー（補機バッテリー）...213
搭載位置....213
補機バッテリーがあがった....306
補機バッテリーを
交換するとき 214
バニティ（化粧用）ミラー 193
バニティミラーランプ....193
装備について....193
ワット数 322
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）....236
ワット数 322
パワーウインドウ 118
ウインドウロックスイッチ 118
閉めることが
できないときは....119
操作....118
挟み込み防止機能....118
パワーコントロールユニット....56
パワー（イグニッション）
スイッチ....135
パワーステアリング 163
パワーステアリング警告灯 261
パンクした
応急用タイヤ装着車....276
タイヤパンク応急修理キット
装着車 286
番号灯
（ライセンスプレートランプ）...148
電球（バルブ）の交換....244
ランプスイッチ 148
ワット数....322
ハンズフリー※
ハンドル
（ステアリングホイール）....112
位置調整 112
メーター操作スイッチ 73

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 163
ヒーター
ミラーヒーター..... 178
リヤウインドウ
デフォッガー..... 178
非常点滅灯（ハザードランプ）... 251
スイッチ..... 251
電球（バルブ）の
交換..... 238, 242, 244
ワット数 322
非接触充電器 196
尾灯（テールランプ）..... 148
電球（バルブ）の交換..... 244
ランプスイッチ 148
ヒューズ 232
表示灯 66
日よけ（サンバイザー）..... 193
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 163

ふ

VSC（ビークルスタビリティ
コントロール）..... 163
ブースターケーブルの
つなぎ方 306
フォグランプ 151
スイッチ..... 151
電球（バルブ）の
交換..... 240, 243
ブザー
シートベルト非着用警告 262
パーキングブレーキ
未解除走行時警告 261, 266
半ドア走行時警告.....265
ブレーキ警告 261
ムーンルーフ開警告.....267
リバース警告 144
フック
買い物フック 191
けん引フック 256
コートフック 203
フロアマット固定フック 22
フューエルメーター（燃料計）.....68
フューエルリッド（給油口）.....156
給油のしかた 156
冬の前の準備（寒冷時の運転）....171
冬用タイヤ.....171
ブレーキ
回生ブレーキ 54
警告ブザー 261
パーキングブレーキ.....147
ブレーキ警告灯.....261
メンテナンスデータ.....320
ブレーキアシスト 163
ABS &ブレーキアシスト
警告灯 261
機能.....163
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる.....130
ブレーキフルード 320

ブレーキランプ
緊急ブレーキシグナル..... 164
電球（バルブ）の交換..... 244
フロアマット 22
フロントシート..... 106
正しい運転姿勢 24
調整 106
手入れ..... 210
ヘッドレスト 110
フロントパーソナルランプ 185
ワット数..... 322
フロントフォグランプ..... 151
スイッチ..... 151
電球（バルブ）の交換..... 244
フロント方向指示灯..... 146
電球（バルブ）の交換..... 238
方向指示レバー 146
ワット数..... 322
フロントワイパー
デアイサー..... 178

へ

平均車速 73
平均燃費 73
ヘッドランプ 148
電球（バルブ）
の交換..... 237, 244
ライトセンサー 149
ランプ消し忘れ防止機能..... 149
ランプスイッチ 148
ヘッドランプオートレベリング
システム 149
警告メッセージ 267
ヘッドレスト 110
ベビーシート 39
ヘルプネットスイッチパネル※

ほ

ホイール
交換（タイヤ)..... 276
メンテナンスデータ..... 321
方向指示灯..... 146
電球（バルブ）の
交換 238, 242
方向指示レバー..... 146
ワット数 322
ホーン（警音器）..... 112
補機バッテリー..... 213
交換するとき 214
搭載位置 213
補機バッテリーがあがった 306
保証 9
ボトルホルダー..... 188
ボンネット..... 213

ま

マイク※
マスターウォーニング..... 262, 264
マルチインフォメーション
ディスプレイ 72
エネルギーモニター..... 78
警告メッセージ..... 264
設定..... 74
ドライブインフォメーション ... 73
ナビゲーション
システム連携..... 72

み

ミラー
インナーミラー..... 114
ドアミラー 115
バニティミラー..... 193

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

む

ムーンルーフ 121
警告ブザー 123
警告メッセージ 267
操作 121
挟み込み防止機能 122

め

メーター（計器類） 68
警告灯 261
照度調整 69
表示灯 66
表示の切りかえ 69
マルチインフォメーション
ディスプレイ 72
メーター操作スイッチ 73
メカニカルキー 85
メンテナンスデータ 318

も

モーター（電気モーター） 52
モーターでの走行
（EV ドライブモード） 141

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 323
雪道ですべって動けない
（スタックした） 315
油脂類 318

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯） 148
電球（バルブ）の交換 244
ランプスイッチ 148
ワット数 322
ラゲージアンダートレイ 192
ラゲージマット 191
ラゲージルーム
（トランク） 95, 191
ラジエーター
オーバーヒート 311
メンテナンスデータ 320
ランプ
室内灯
（インテリアランプ） 184
電球（バルブ）の交換 236
パーソナルランプ 185
非常点滅灯
（ハザードランプ） 251
フロントフォグランプ 151
ヘッドランプ（前照灯） 148
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー） 146
ライトセンサー 149
ランプ消し忘れ防止機能 149
リヤフォグランプ 151
ワット数 322
ランプ消し忘れ防止機能 149

り

リヤアームレスト..... 202
リヤウインドウ
デフォッガースイッチ 178
リヤシートセンターアーム
レストランプ..... 185
リヤパーソナルランプ..... 185
ワット数..... 322
リヤフォグランプ..... 151
スイッチ..... 151
電球（バルブ）の交換 243
リヤ方向指示灯..... 146
電球（バルブ）の交換..... 242
方向指示レバー 146
ワット数..... 322

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 114
ルームランプ（室内灯）..... 184

れ

冷却水..... 320
冬の前の準備..... 171
メンテナンスデータ 320
冷却装置（ラジエーター）..... 320
オーバーヒート..... 311
メンテナンスデータ 320
レバー
シフト..... 143
トランクオープナー 95
ハンドル位置調整 112
方向指示..... 146
ボンネット解除..... 213
ロック（ドア）..... 90

ろ

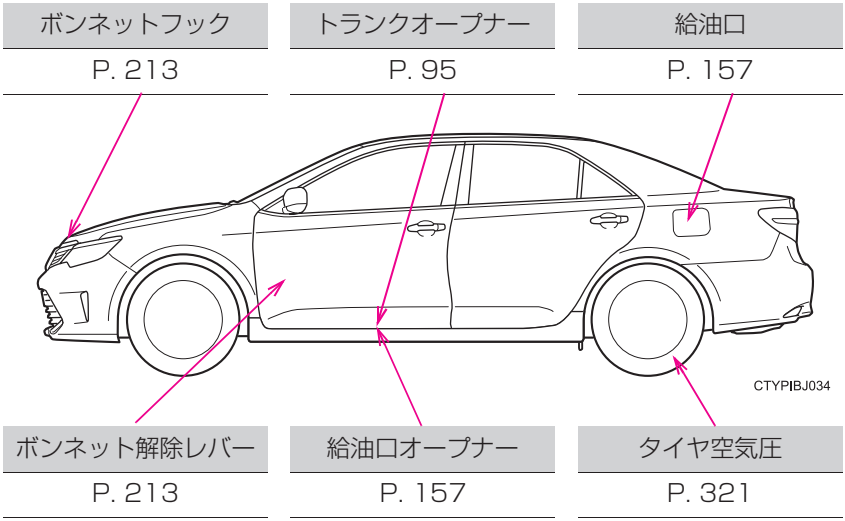
ロック
ウインドウロック..... 118
スマートエントリー&
スタートシステム 99
チャイルドプロテクター 91
ドア..... 88
ワイヤレスリモコン..... 88, 96

わ

ワイパー & ウォッシャー 153
フロントワイパー
デアイサー..... 178
液の補充 217
ワイパーブレード（寒冷地用）.... 172
ワイヤレス充電器 196
ワイヤレスリモコン 84, 88, 96
作動の合図 89
操作..... 84, 88, 96
電池の交換 230
半ドア警告ブザー..... 89
ワックス..... 206
ワット数..... 322
割込表示..... 74

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	65L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 318
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ：240kPa（2.4kg/cm^2） 応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：4.0L オイルとフィルター交換時：4.4L
エンジンオイルの種類	アミックスモーターオイル ・ SAE 0W-20 SM 以上 ・ SAE 5W-30 SM 以上

★：オプションなどにより、装備の有無があります。

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社
またはお客様相談室までお願いいたします。

お問い合わせには、あらかじめ下記の事項について確認のうえ、ご連絡願います。

⑴車名および型式、登録番号
⑵ご購入年月日
⑶走行距離
⑷お客様のご住所、お名前、電話番号

●印刷＝NAC-2015年９月24日　●発行＝2015年10月１日<非売品>
●編集＝ダイハツ工業株式会社　サービス部
●発行＝ダイハツ工業株式会社

151001-1

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社
または下記お客様相談室までお願いいたします。

ダイハツ工業株式会社　お客様相談室

フリー コール　0800-500-0182
受付時間　平日　9：00～19：00
　　土日祝　9：00～17：00
〒563-8651　大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（http://www.daihatsu.co.jp/privacy/index.htm）

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

01999－33C40